

東かがわ市
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

令和7年10月
東かがわ市

目次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 報告書の見方	1
II 調査結果	2
1 回答者の属性	2
2 家庭生活と結婚観について	5
1 結婚・離婚についての考え	5
2 家庭での役割について	11
3 育児・介護・家事についての考え	19
3 子育てや教育について	22
1 少子化について	22
2 子どもの生き方について	24
4 男女共同参画の視点での災害時の備えについて	28
1 災害に備える施策について	28
5 ワーク・ライフ・バランスについて	30
1 希望と現実について	30
2 育児休業（休暇）や介護休業（休暇）について	34
3 固定観念について	48
6 就労について	51
1 就労状況	51
2 性別による職場での差について	55
3 男女共同参画推進のための支援について	57
7 地域・社会参加について	61
1 地域活動の参加状況・参加希望	61
2 女性が代表者になることについて	65
8 妊娠・出産について	67
1 妊娠・出産についての考え	67
2 妊娠・出産のための支援について	74
9 男女間の暴力について	76
1 ドメスティック・バイオレンスの経験	76
2 ドメスティック・バイオレンスをなくす方法について	80
10 困難な問題を抱える女性への支援に関することについて	82
1 女性支援法の認知状況	82
2 困難な問題を抱える女性への支援について	84
11 男女平等に関することについて	86
1 男女の役割などについて	86
2 男女の地位について	96

3	女性の社会的な立場について.....	104
4	「男女共同参画社会」形成のために東かがわ市がすべきこと.....	108
12	LGBTQ+など性的少数者について.....	110
1	性的少数者について.....	110
13	自由意見.....	114

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、令和2年3月に策定された「第3次東かがわ市男女共同参画基本計画」のさらなる充実と、次期計画の基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

【市民アンケート】

調査対象	市内在住の16歳以上の方から無作為抽出
調査実施期間	令和7年8月26日～9月16日
調査方法	郵送による配布・回収及びWeb回答
調査数	1,000人
回収数（率）	342人（34.2%）

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示する。各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのために、百分率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答の合計は回答者数を上回ることもある。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。

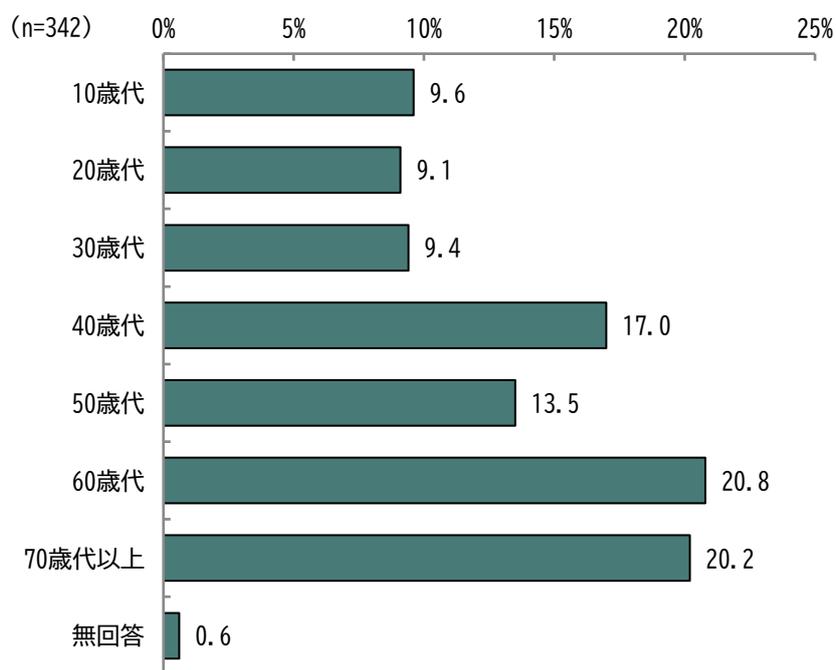
Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

① 年齢

「60歳代」が20.8%と最も高く、次いで「70歳代以上」(20.2%)、「40歳代」(17.0%)となっています。

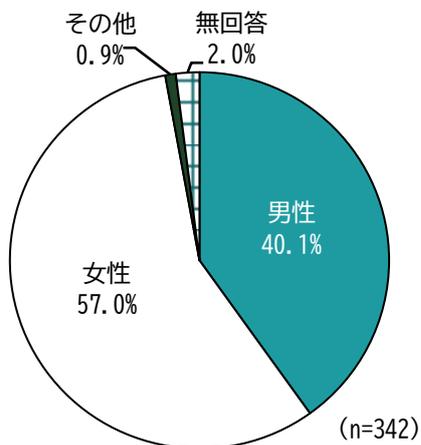
図表 1 年齢



② 性別

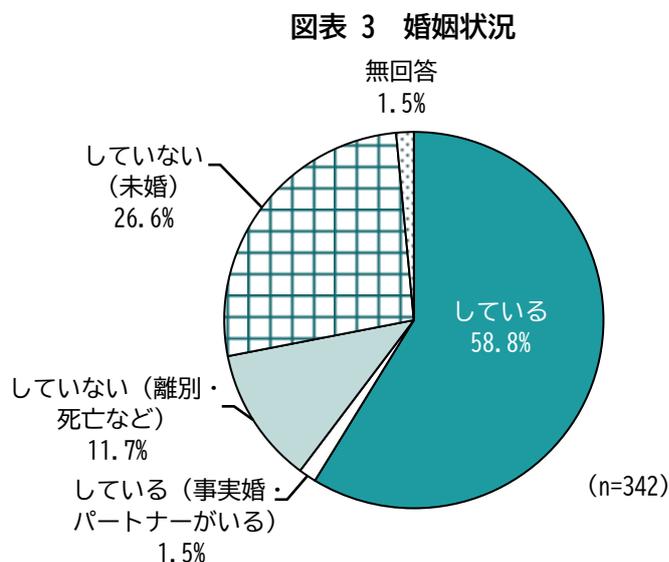
「男性」が40.1%、「女性」が57.0%となっています。

図表 2 性別



③ 婚姻状況

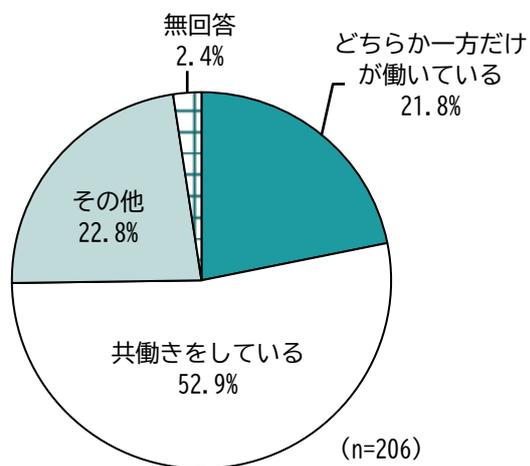
「している」が58.8%と最も高く、次いで「していない（未婚）」（26.6%）、「していない（離別・死亡など）」（11.7%）となっています。



③-1 配偶者・パートナーの就労状況（「している」「している（事実婚・パートナーがいる）」と回答した方）

「共働きをしている」が52.9%、「どちらか一方だけが働いている」が21.8%となっています。

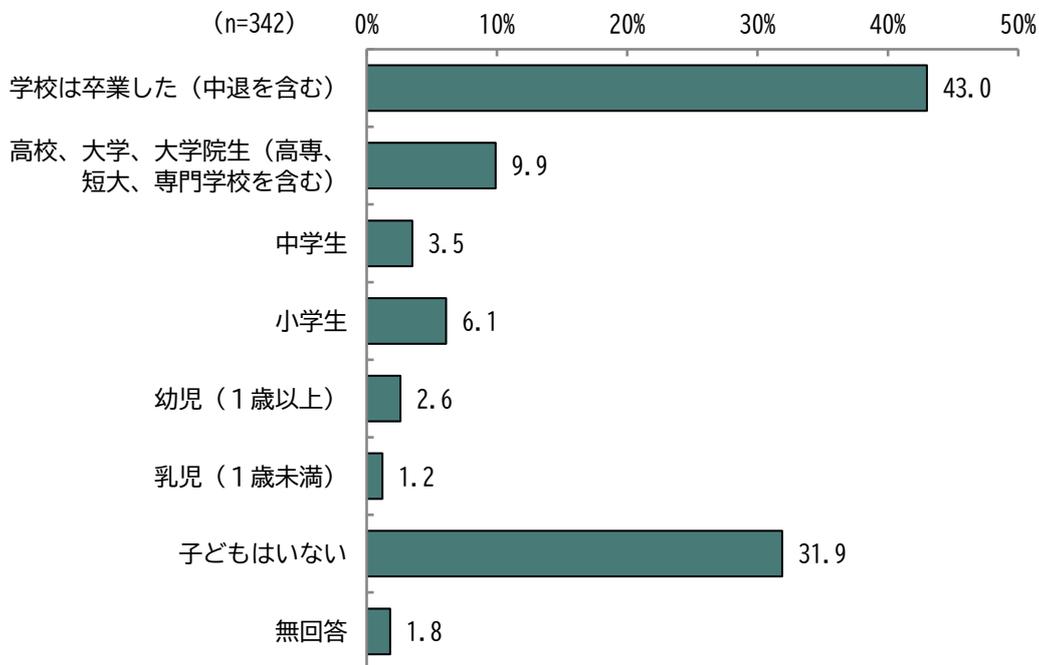
図表 4 配偶者・パートナーの就労状況



④ 子どもの有無

「学校は卒業した（中退を含む）」が43.0%と最も高く、次いで「子どもはいない」（31.9%）、「高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）」（9.9%）となっています。

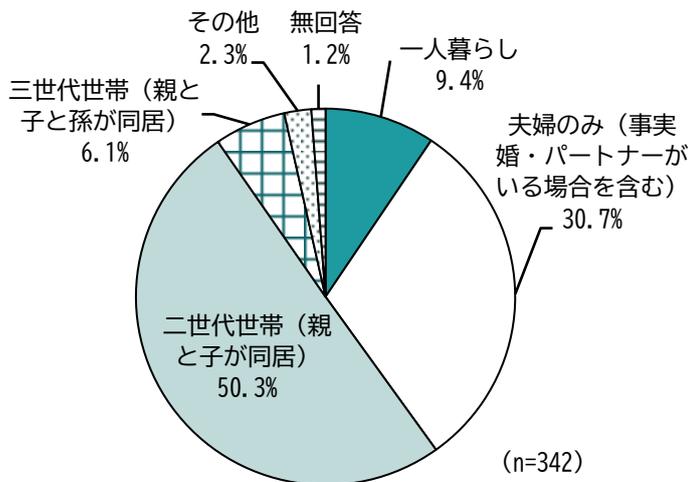
図表 5 子どもの有無



⑤ 世帯構成

「二世帯世帯（親と子が同居）」が50.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚・パートナーがいる場合を含む）」（30.7%）、「一人暮らし」（9.4%）となっています。

図表 6 世帯構成



2 家庭生活と結婚観について

1 結婚・離婚についての考え

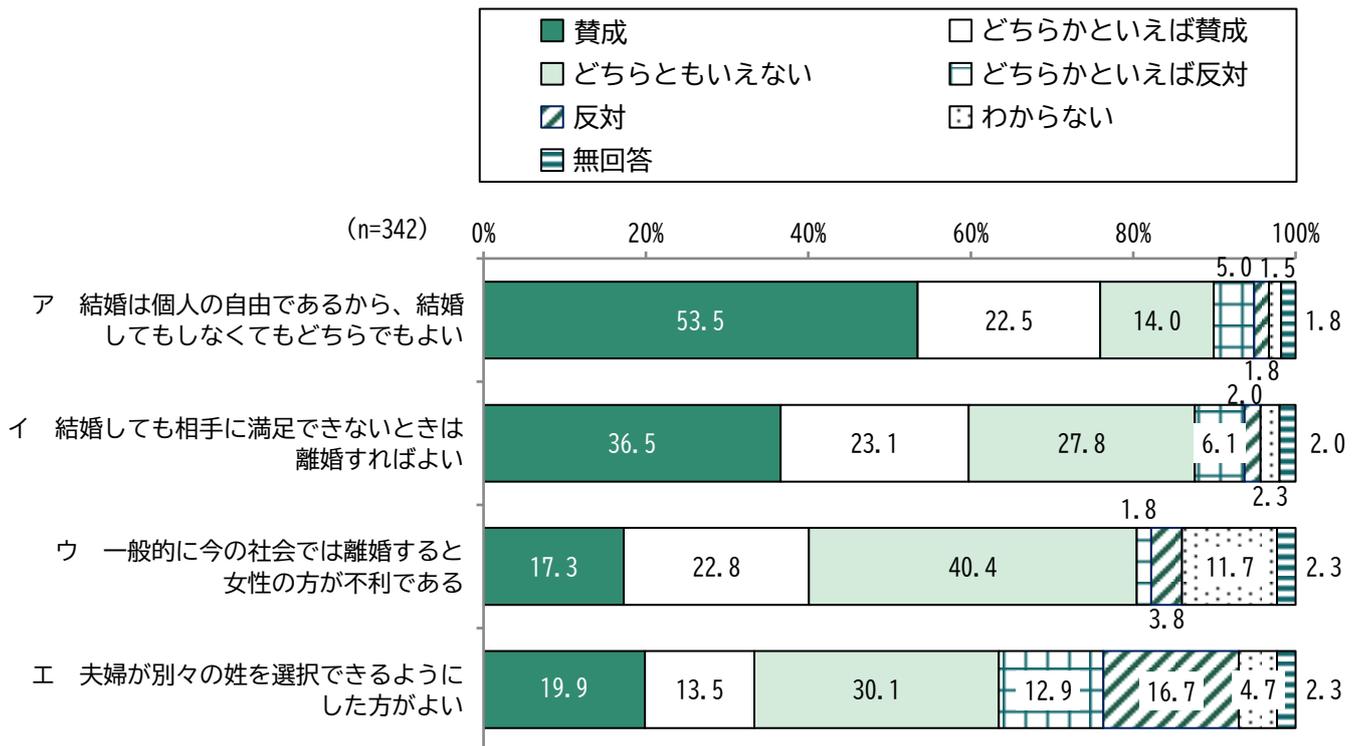
問1 結婚・離婚について、あなたはどのように思いますか。(○は各項目ごとに1つずつ)

【全体の傾向】

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』の割合をみると、“ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”では7割以上を占めています。また、“イ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい”でも半数以上を占めています。

一方、“ウ 一般的に今の社会では離婚すると女性の方が不利である”では『賛成』が半数以下にとどまっており、「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、“エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい”では「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』の割合が29.6%と他の項目に比べて高くなっています。

図表 7 結婚・離婚についての考え（全体）

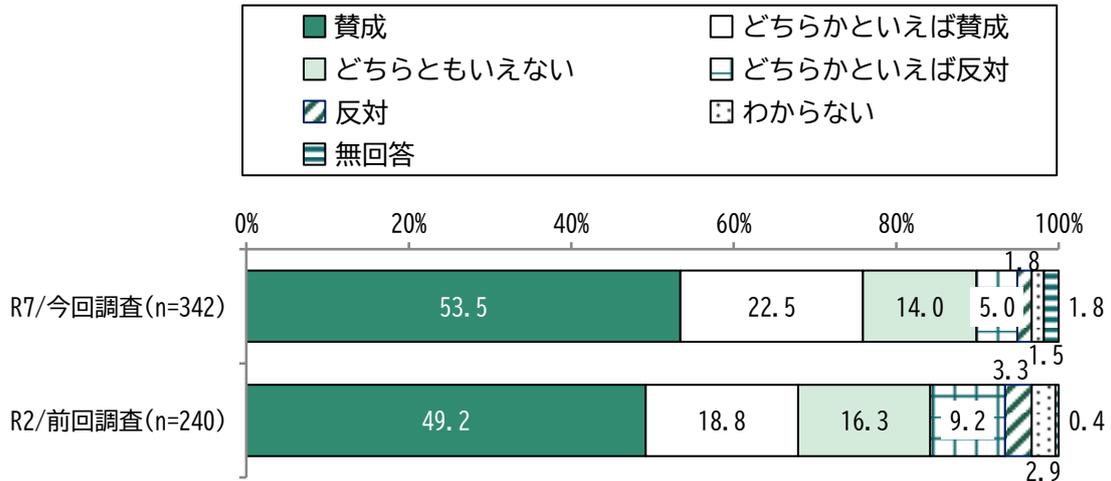


【前回比較】

前回調査と比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』はいずれも増加しています。また、“エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい”のみ『反対』が増加しています。

図表 8 結婚・離婚についての考え（前回比較）

ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



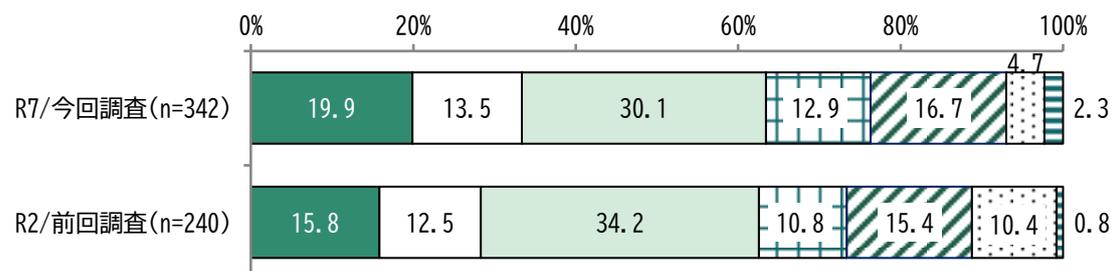
イ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



ウ 一般的に今の社会では離婚すると女性の方が不利である



エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい



【属性別の傾向】

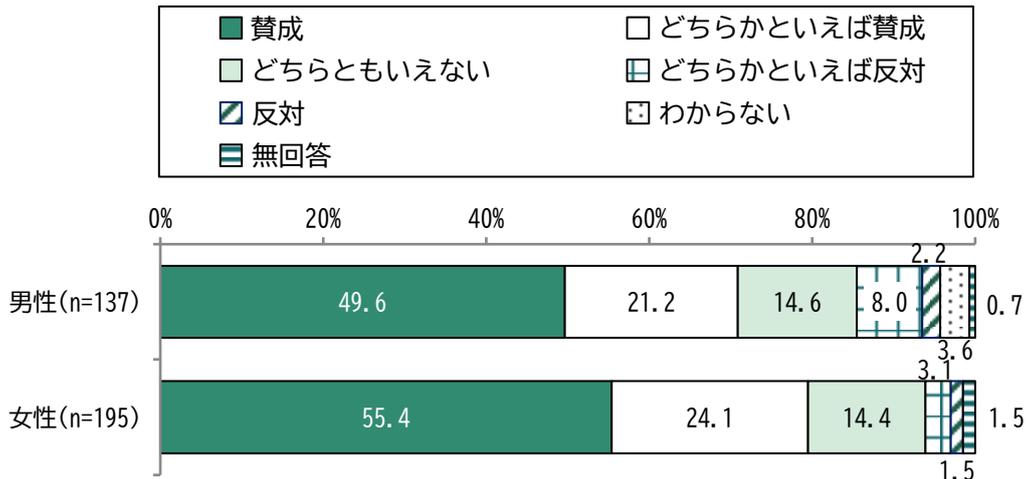
性別でみると、“ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”では女性の方が『賛成』の割合が高くなっています。

“ウ 一般的に今の社会では離婚すると女性の方が不利である”では、男性で「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』(31.4%)の割合を「どちらともいえない」(44.5%)が上回っています。また、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』の割合は女性が46.7%となっており、男性を10ポイント以上上回っています。

“エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい”では、男性は「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』が39.4%に対して、女性では「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が39.5%と高くなっており、性別によって捉え方が異なることがわかります。

図表 9 結婚・離婚についての考え (性別)

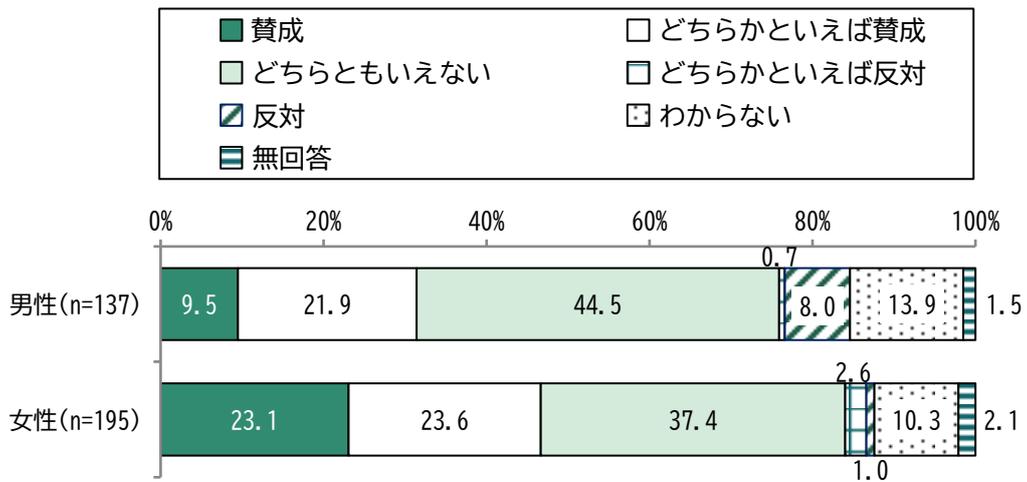
ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



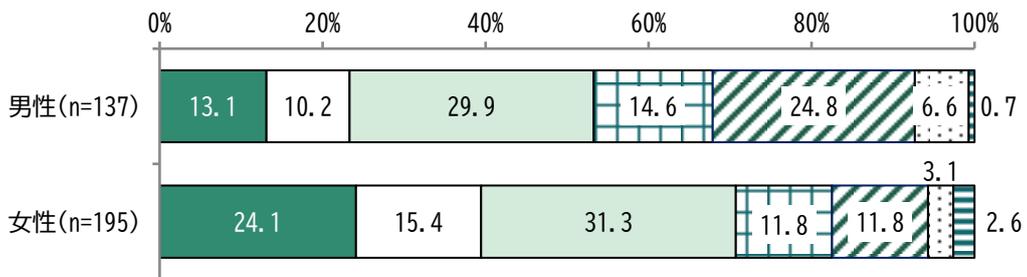
イ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



ウ 一般的に今の社会では離婚すると女性の方が不利である



エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい



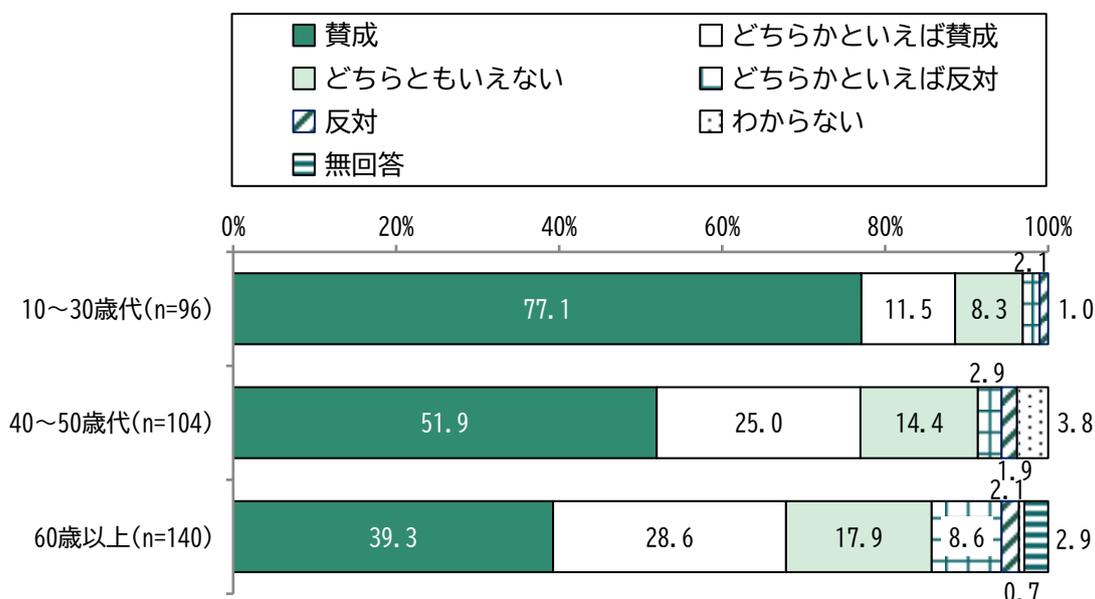
年齢別でみると、“ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”、“イ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい”では、年齢が上がるにつれて『賛成』が減少しています。

“ウ 一般的に今の社会では離婚すると女性の方が不利である”では、40～50歳代で『賛成』の割合が最も高くなっています。また、10～30歳代では、『反対』が1割を占めています。

“エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい”では、年齢が上がるにつれて「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』の割合が増加しています。また、60歳以上では「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』の割合が「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』の割合を上回っています。

図表 10 結婚・離婚についての考え（年齢別）

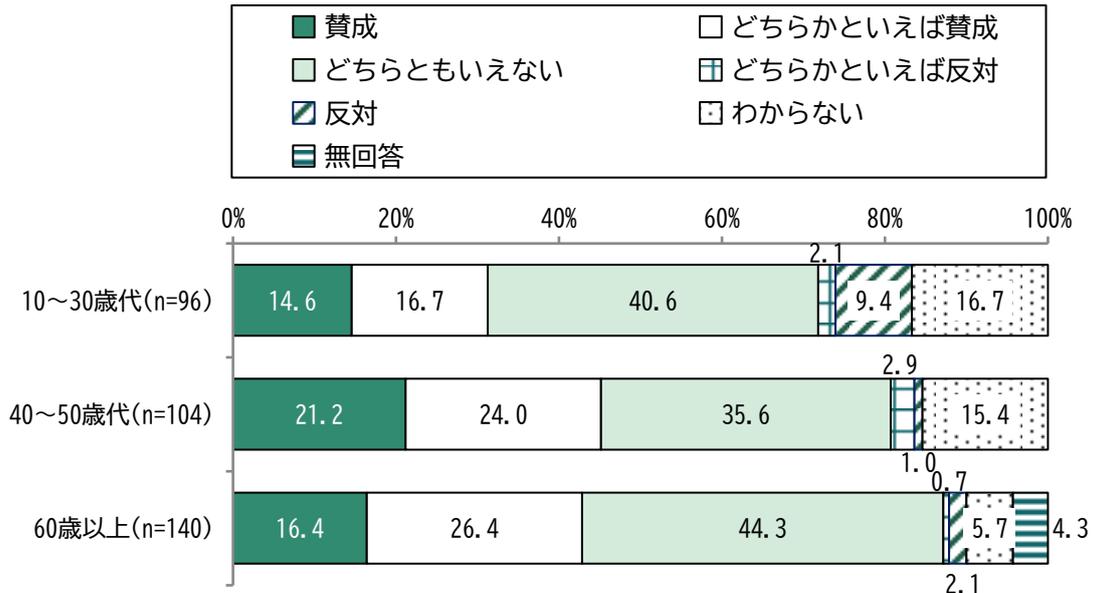
ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



イ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



ウ 一般的に今の社会では離婚すると女性の方が不利である



エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい



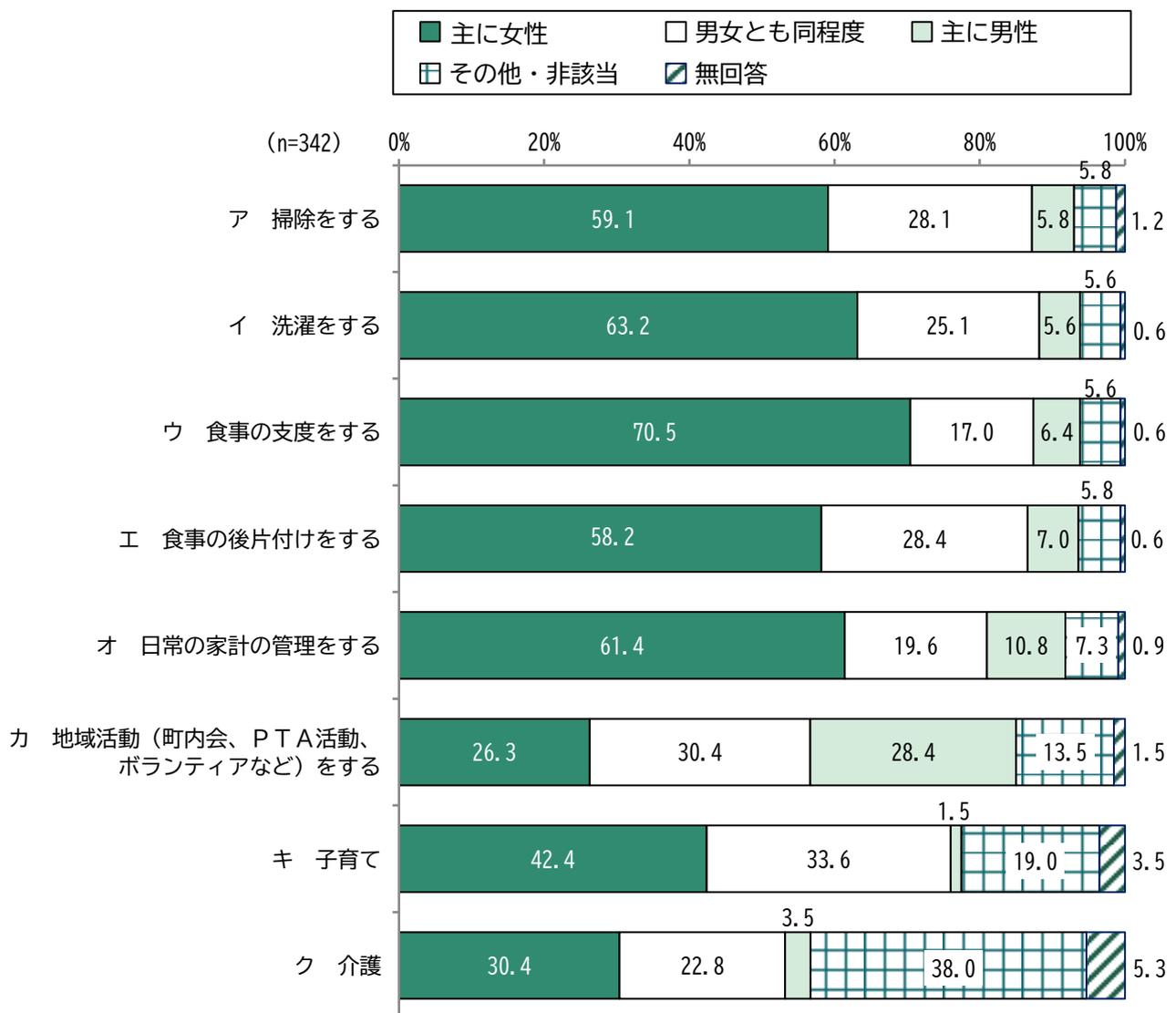
2 家庭での役割について

問2 あなたの家庭では、次のことを誰が行っていますか。(○は各項目ごとに1つずつ)

【全体の傾向】

“ア 掃除をする”、“イ 洗濯をする”、“ウ 食事の支度をする”、“エ 食事の後片付けをする”、“オ 日常の家計の管理をする”では、「主に女性」が半数以上を占めており、特に“ウ 食事の支度をする”では70.5%と7割以上を占めています。“カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする”では、「男女とも同程度」が最も高くなっています。“キ 子育て”、“ク 介護”では、「主に男性」が特に低くなっています。

図表 11 家庭での役割について（全体）

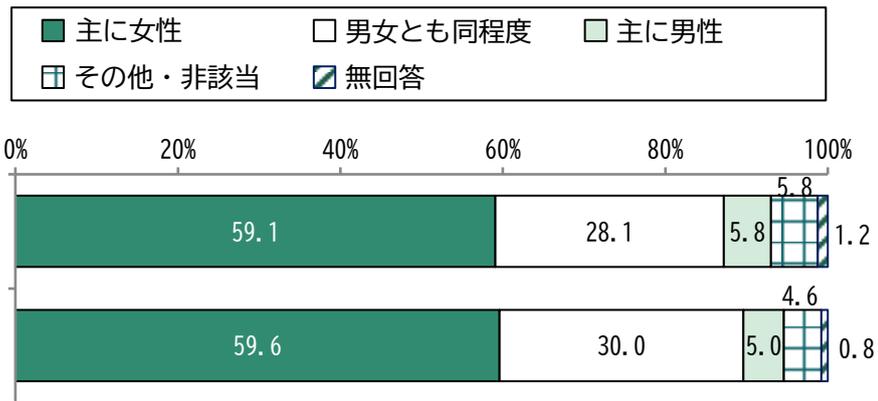


【前回比較】

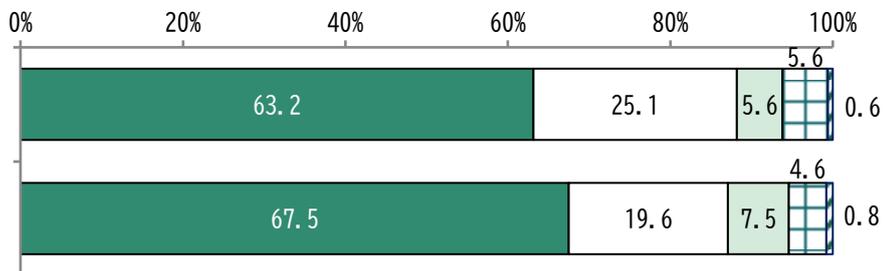
前回調査と比較すると、“イ 洗濯をする”、“ウ 食事の支度をする”、“エ 食事の後片付けをする”、“オ 日常の家計の管理をする”では、「主に女性」が減少し、「男女とも同程度」が増加しています。一方、“カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする”、“キ 子育て”、“ク 介護”では「主に女性」が増加しています。

図表 12 家庭での役割について（前回比較）

ア 掃除をする



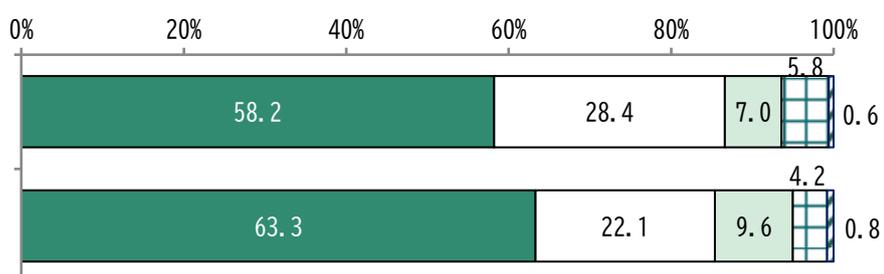
イ 洗濯をする



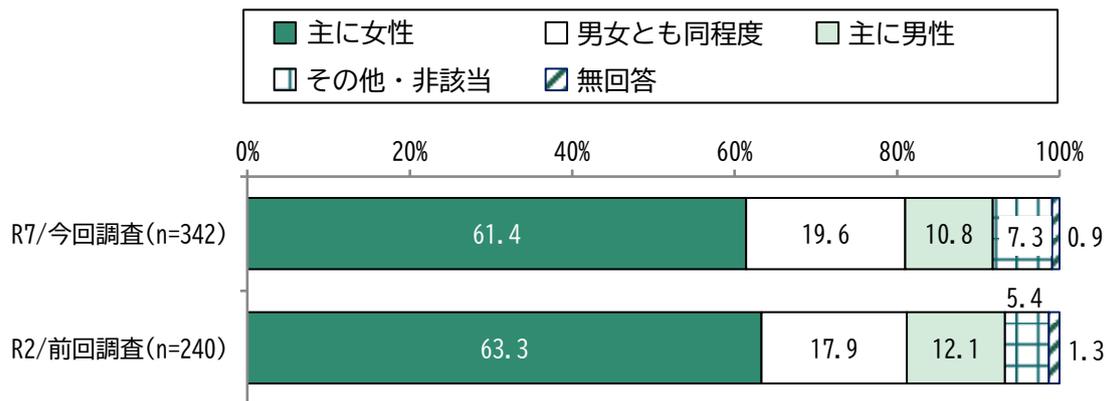
ウ 食事の支度をする



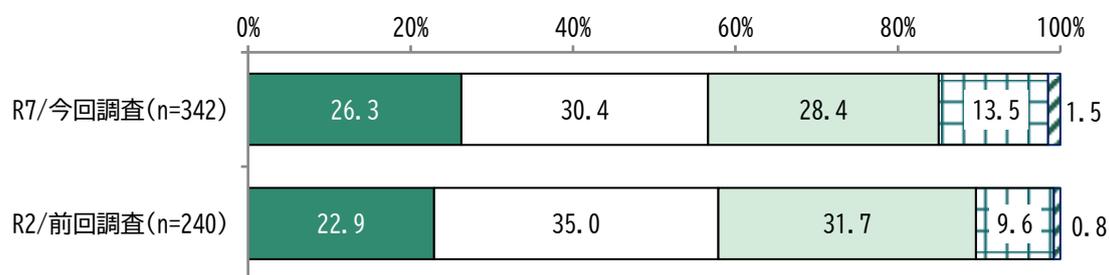
エ 食事の後片付けをする



オ 日常の家計の管理をする



カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする



キ 子育て



ク 介護



【属性別の傾向】

性別で見ると、いずれも「主に女性」は女性の方が高く、特に“エ 食事の後片付けをする”では20.7ポイント上回っています。

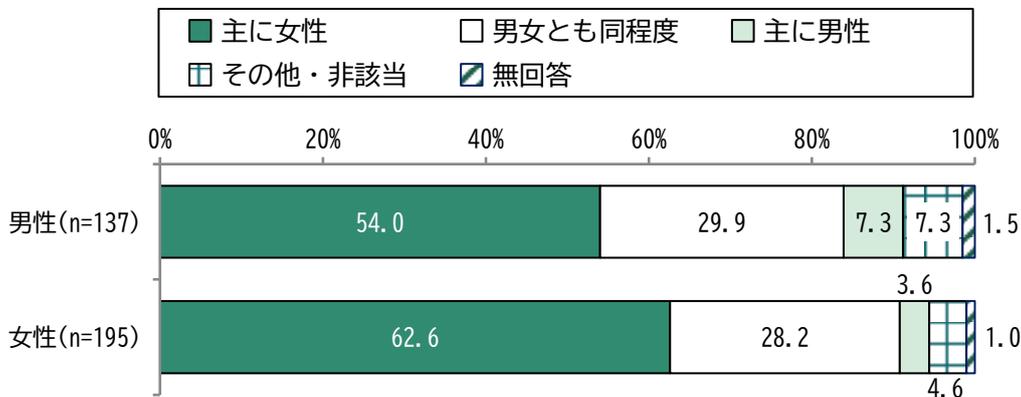
また、“カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする”では、男性は「主に男性」（36.5%）が最も高くなっています。一方、女性では「主に女性」（33.3%）が最も高く、男性の割合を16.5ポイント上回っています。

“キ 子育て”では、男性は「男女とも同程度」（35.0%）、女性では「主に女性」（50.3%）がそれぞれ最も高くなっています。

以上のことから家庭での役割については、男性と女性で認識に違いがみられることがわかります。

図表 13 家庭での役割について（性別）

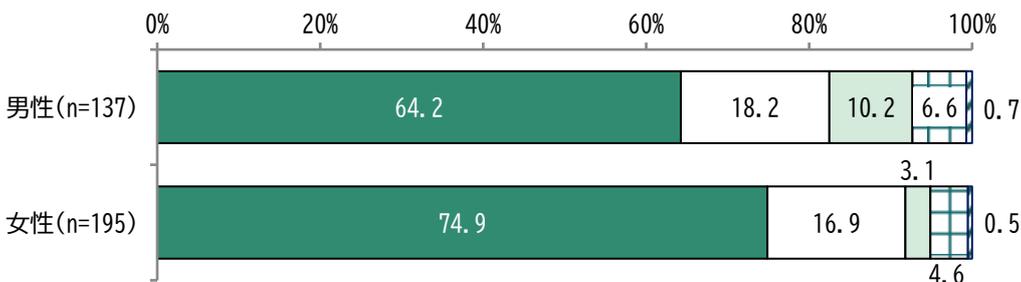
ア 掃除をする



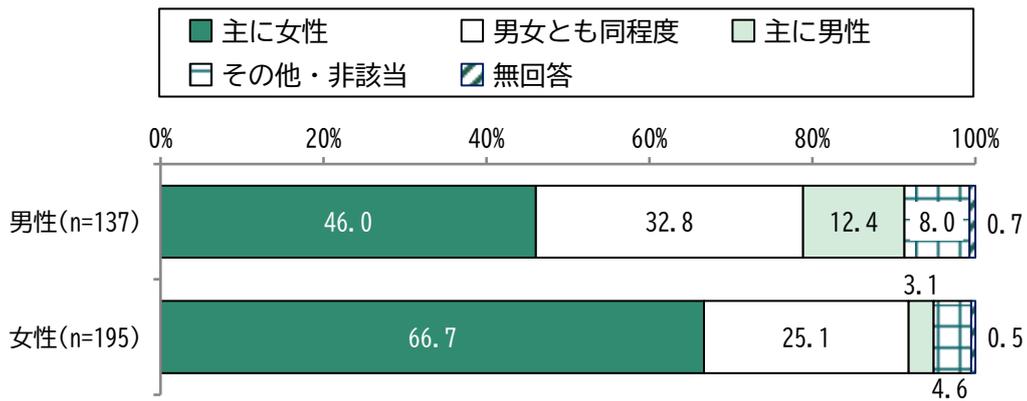
イ 洗濯をする



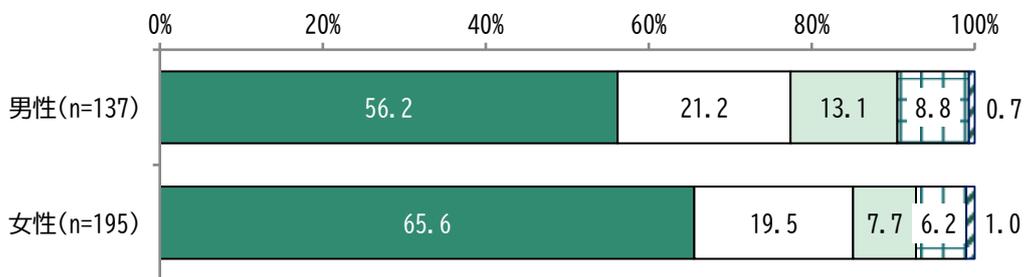
ウ 食事の支度をする



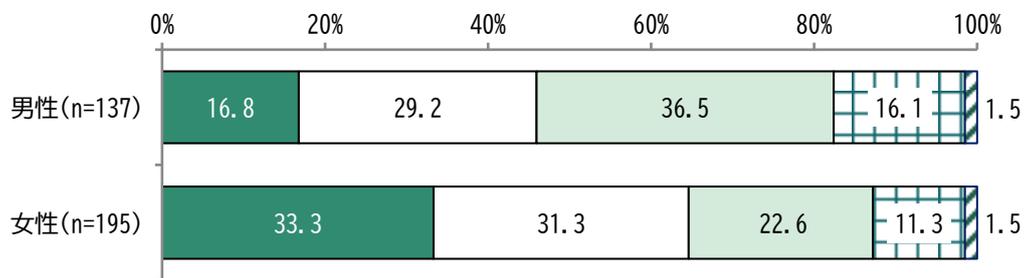
エ 食事の後片付けをする



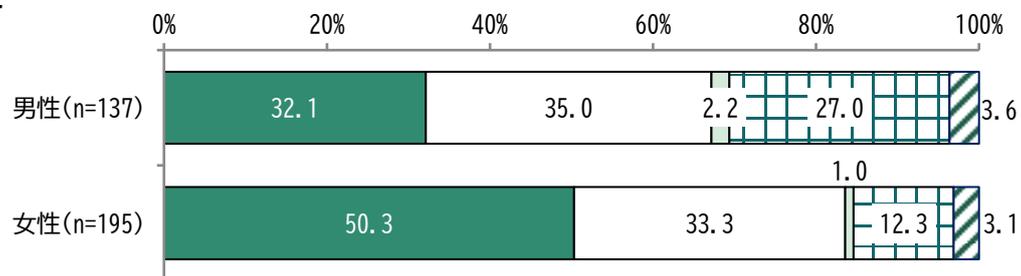
オ 日常の家計の管理をする



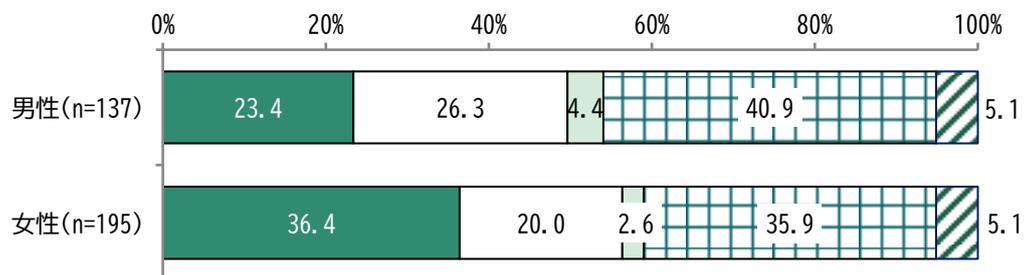
カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする



キ 子育て



ク 介護



年齢別でみると、“ア 掃除をする”、“イ 洗濯をする”、“ウ 食事の支度をする”では年齢が上がるにつれ「主に女性」が増加しています。また、いずれの年齢においてもその割合は半数以上を占めています。

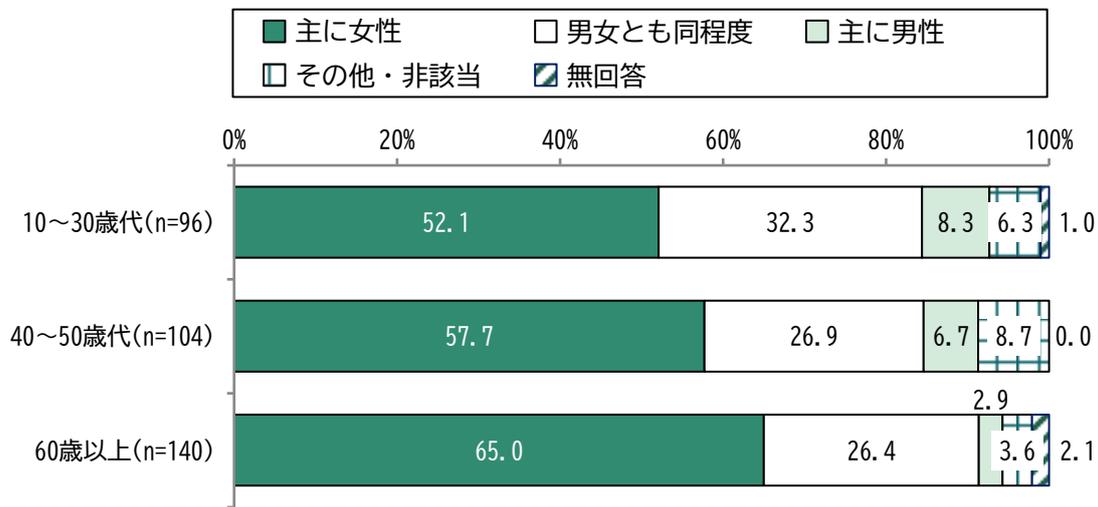
“エ 食事の後片付けをする”、“キ 子育て”、“ク 介護”ではそれぞれ60歳以上で「主に女性」が最も高くなっています。

“オ 日常の家計の管理をする”ではいずれの年齢においても「主に女性」が半数以上を占めていますが、40～50歳代で特に高くなっています。

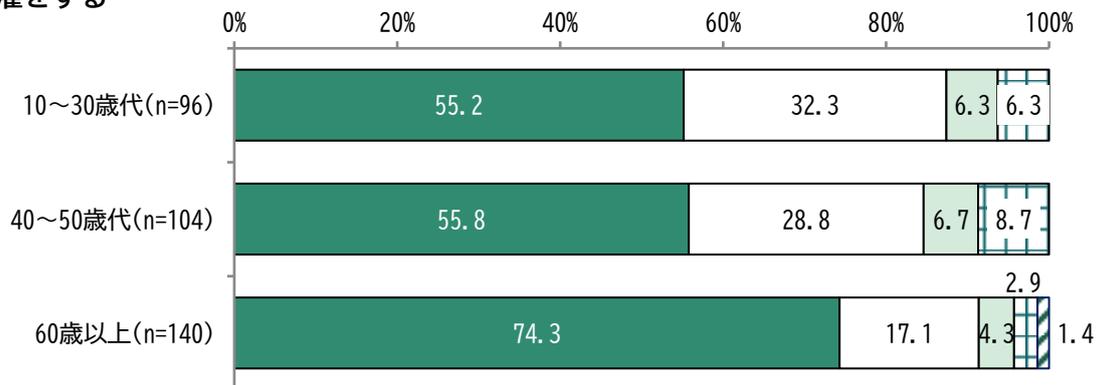
“カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする”では、「主に女性」はいずれの年齢においても3割未満となっており、10～30歳代、60歳以上では「主に男性」が「主に女性」を上回っています。

図表 14 家庭での役割について（年齢別）

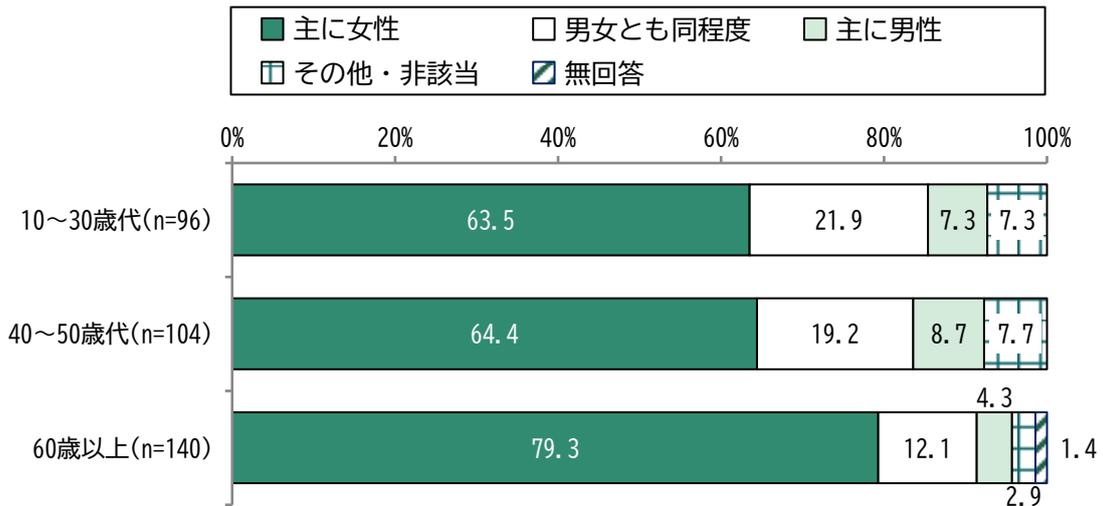
ア 掃除をする



イ 洗濯をする



ウ 食事の支度をする



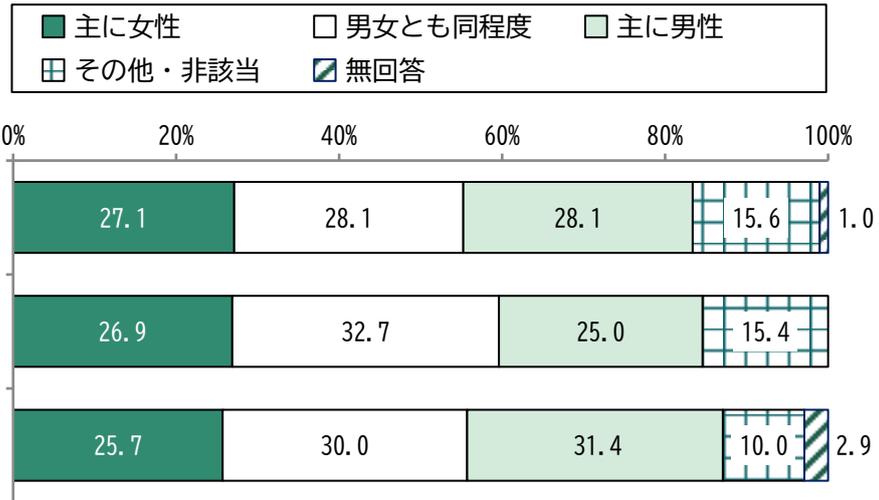
エ 食事の後片付けをする



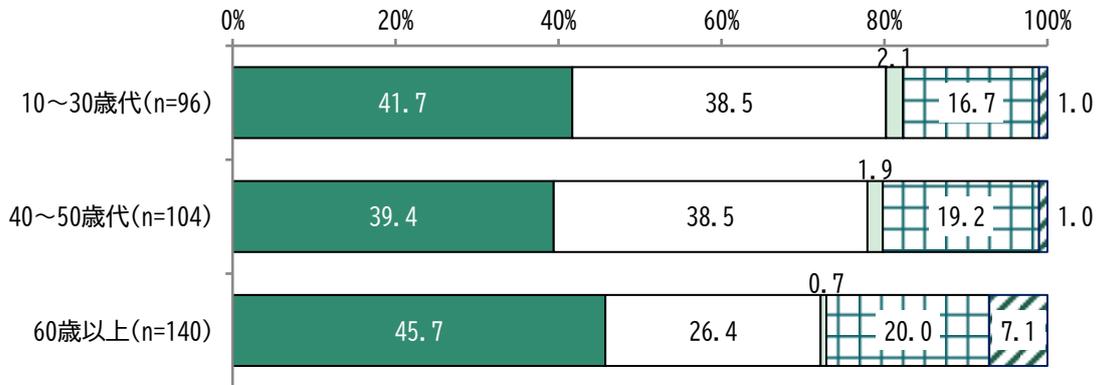
オ 日常の家計の管理をする



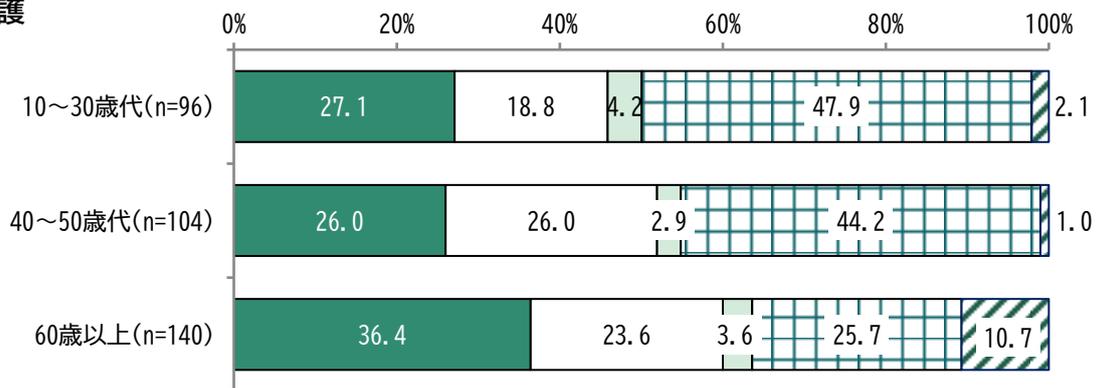
カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする



キ 子育て



ク 介護



3 育児・介護・家事についての考え

問3 家庭内での育児・介護・家事について、あなたはどのように思いますか。(○は各項目ごとに1つつ)

(1) 家庭内における育児・介護・家事の分担について

【全体の傾向】

「男女が共同してする方がよい」が88.3%と最も高く、次いで「主として女性が受け持つ方がよい」(7.6%)、「わからない」(3.2%)となっています。

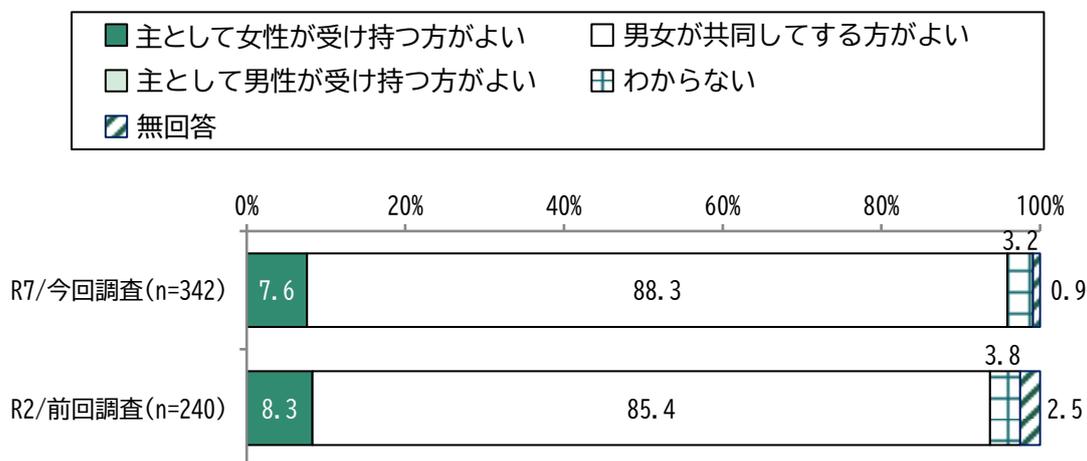
前回調査と比較すると、「男女が共同してする方がよい」が2.9ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

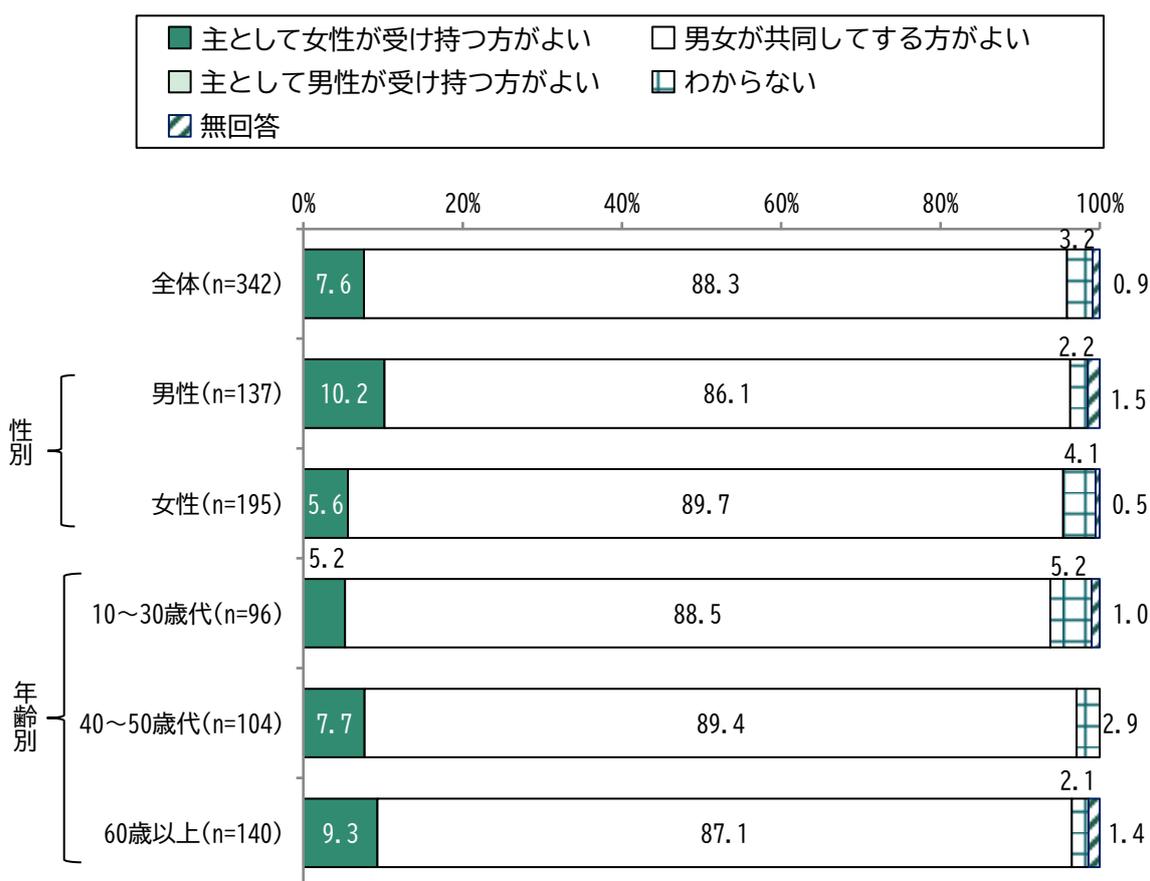
性別で見ると、男女ともに「男女が共同してする方がよい」が8割以上を占めていますが、女性の方が3.6ポイント上回っています。また、「主として女性が受け持つ方がよい」は男性が4.6ポイント上回っています。

年齢別で見ると、いずれの年齢も「男女が共同してする方がよい」が8割以上を占めています。また、年齢が上がるにつれて「主として女性が受け持つ方がよい」が増加しており、60歳以上では9.3%となっています。

図表 15 家庭内における育児・介護・家事の分担について（全体、前回比較）



図表 16 家庭内における育児・介護・家事の分担について（全体、性別、年齢別）



(2) 育児・介護に関する支援

【全体の傾向】

「家族だけでは過重な負担がかかるので、公的保障による支援が必要である」が 67.3%と最も高く、次いで「家族だけでは過重な負担がかかるので、地域社会による支援が必要である」(16.7%)、「基本的に家族が行う方がよい」(12.6%)となっています。

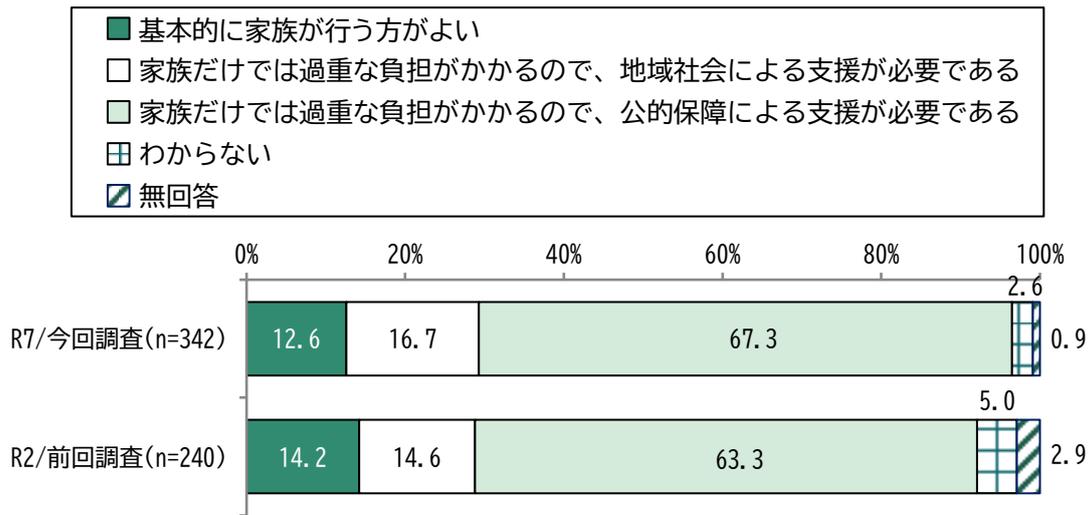
前回調査と比較すると、「家族だけでは過重な負担がかかるので、公的保障による支援が必要である」が 4.0 ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

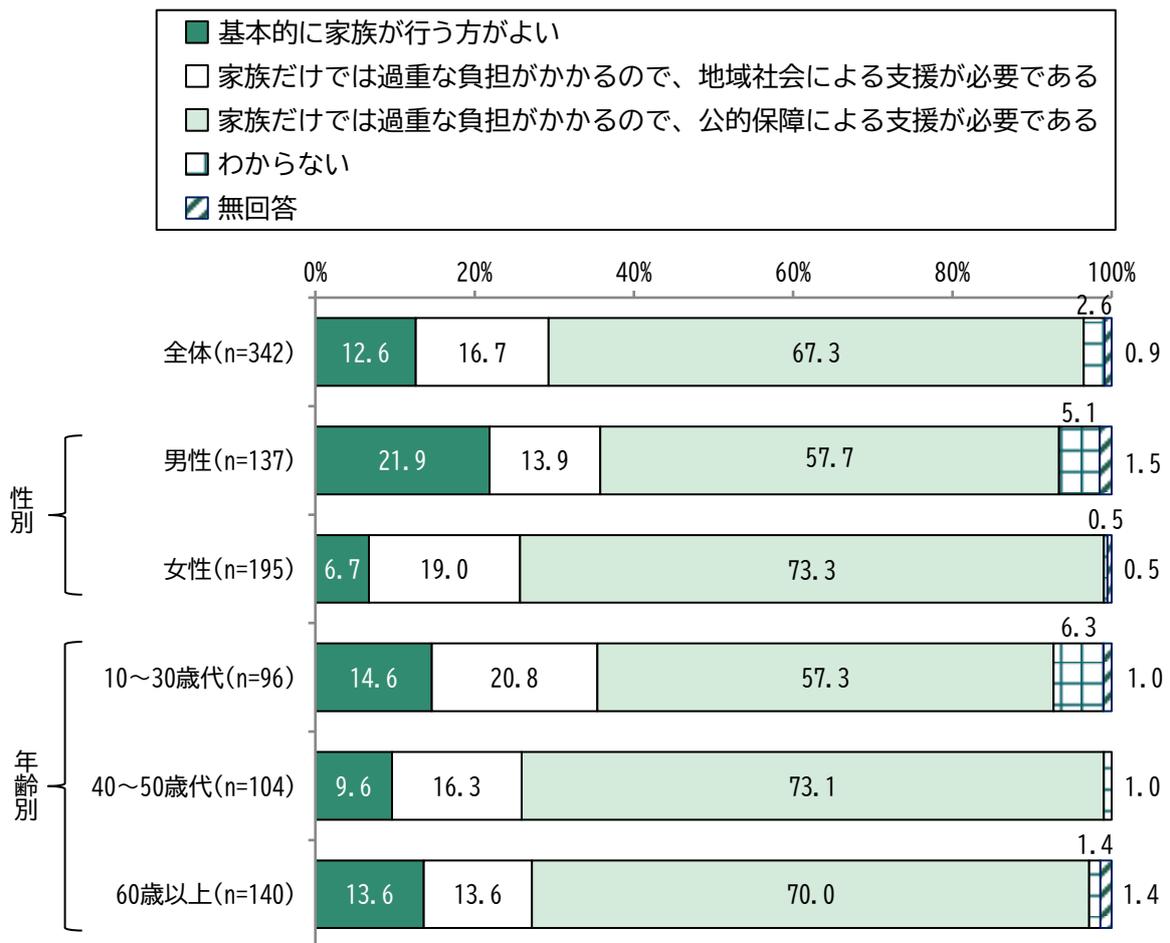
性別で見ると、「基本的に家族が行う方がよい」は男性で 21.9%を占め、女性を 15.2 ポイント上回っています。一方、「家族だけでは過重な負担がかかるので、地域社会による支援が必要である」「家族だけでは過重な負担がかかるので、公的保障による支援が必要である」は女性の方が高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年齢も「家族だけでは過重な負担がかかるので、公的保障による支援が必要である」が半数以上を占めており、40～50歳代で 73.1%と最も高くなっています。

図表 17 育児・介護に関する支援（全体、前回比較）



図表 18 育児・介護に関する支援（全体、性別、年齢別）



3 子育てや教育について

1 少子化について

問4 近年、出生率が低下し、女性1人が生涯に産む子どもの推計人数を示す合計特殊出生率が2023年に過去最低となる1.20を記録するなど、少子化傾向が進んでいますが、あなたはその理由は何だと思えますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

「結婚を選択しない人が増えたから」が32.5%と最も高く、次いで「子育てにかかる費用の負担が大きいから」(24.0%)、「子育てと仕事の両立が難しいから」(12.3%)となっています。

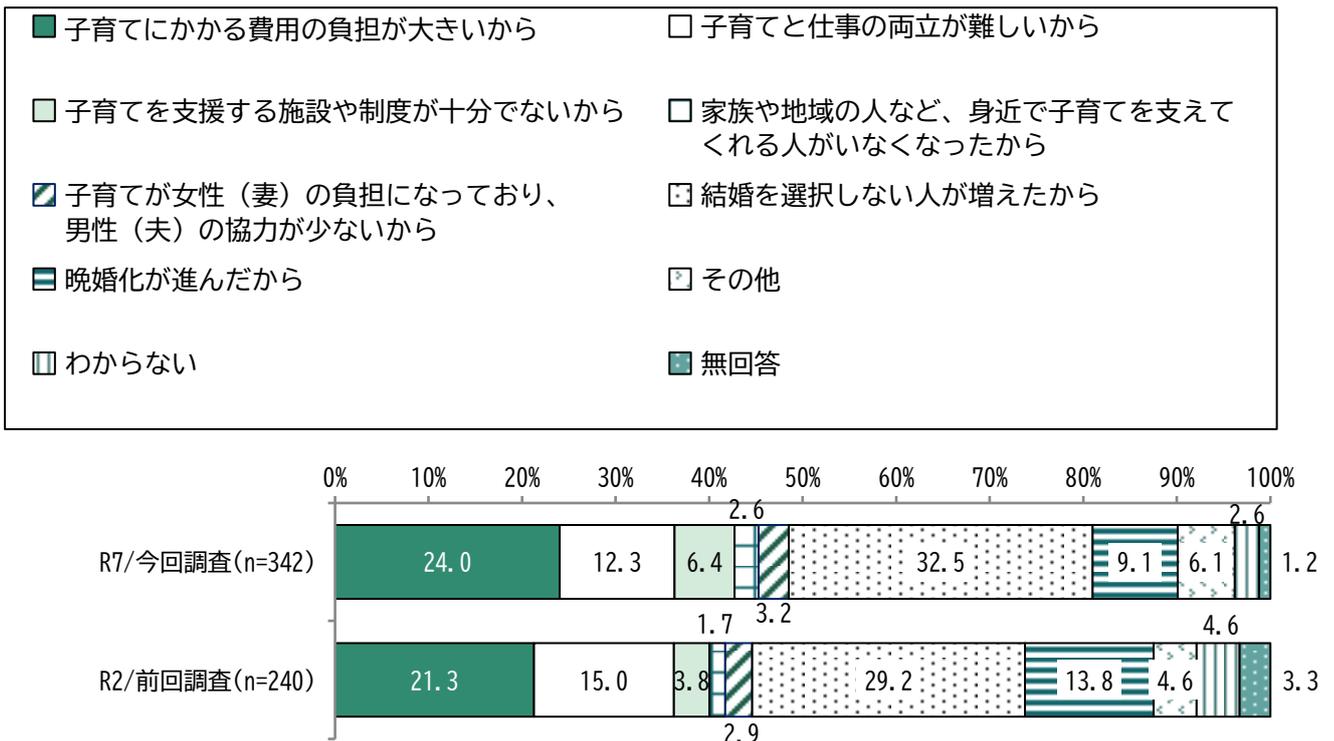
前回調査と比較すると、「子育てと仕事の両立が難しいから」、「晩婚化が進んだから」が減少し、「子育てにかかる費用の負担が大きいから」、「結婚を選択しない人が増えたから」などが増加しています。

【属性別の傾向】

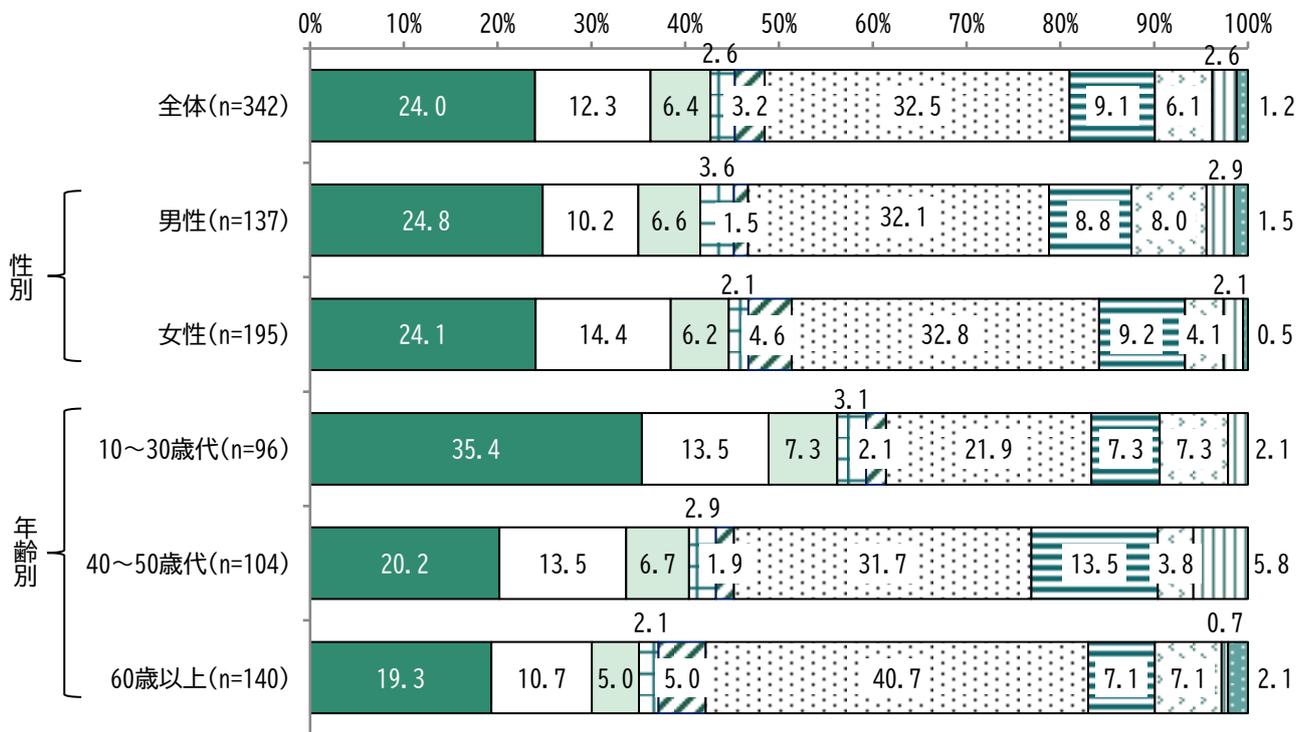
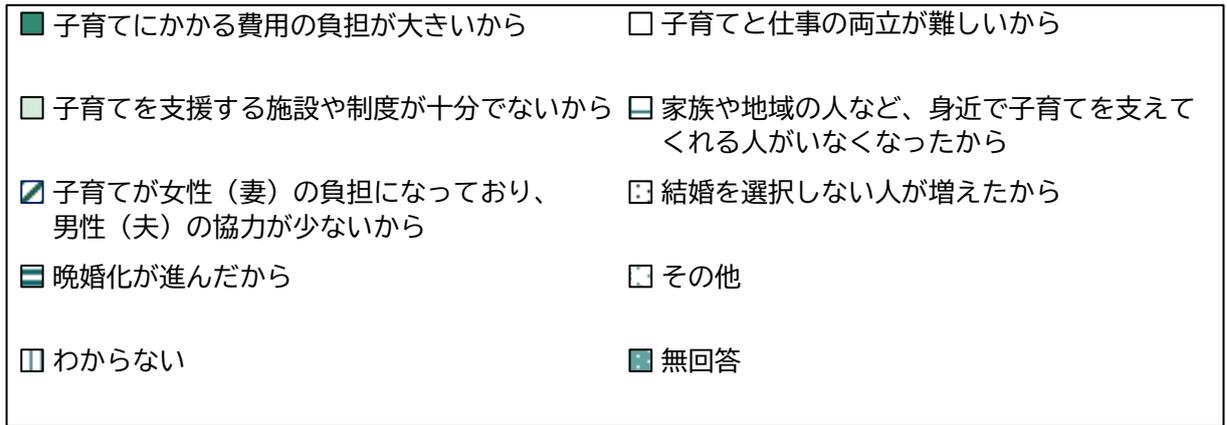
性別でみると、「子育てと仕事の両立が難しいから」「子育てが女性(妻)の負担になっており、男性(夫)の協力が少ないから」は女性の方が3ポイント以上上回っています。

年齢別でみると、10~30歳代では「子育てにかかる費用の負担が大きいから」が35.4%と他の年齢に比べて高くなっています。また、「結婚を選択しない人が増えたから」は60歳以上が40.7%と最も高くなっています。40~50歳代では「晩婚化が進んだから」が13.5%と他の年齢に比べて高くなっています。

図表 19 少子化の理由について(全体、前回比較)



図表 20 少子化の理由について（全体、性別、年齢別）



2 子どもの生き方について

問5 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。男の子、女の子それぞれの場合（子どもがいない方はいた場合を想定）について、2つまであなたのお考えに近い項目の番号を記入してください。

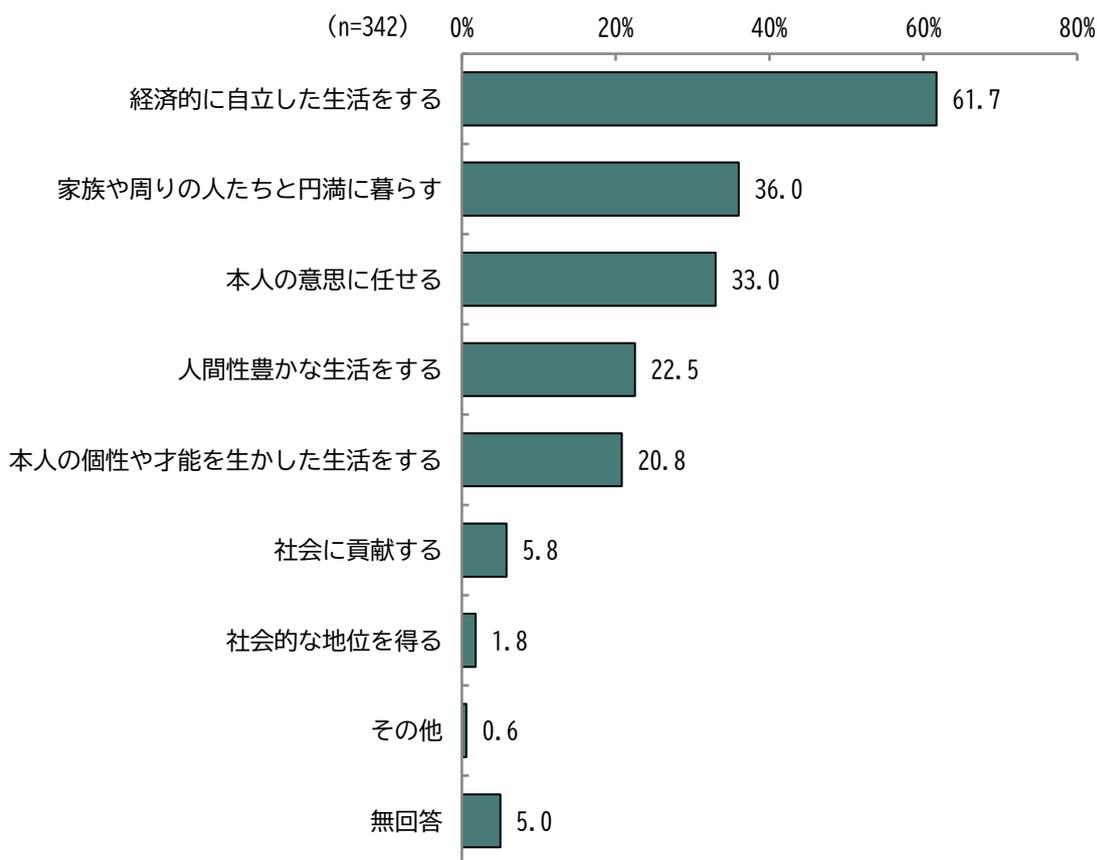
【全体の傾向】

子どもが男の子の場合の生き方の希望としては、「経済的に自立した生活をする」が61.7%で最も高く、次いで「家族や周りの人たちと円満に暮らす」（36.0%）、「本人の意思に任せる」（33.0%）、「人間性豊かな生活をする」（22.5%）となっています。

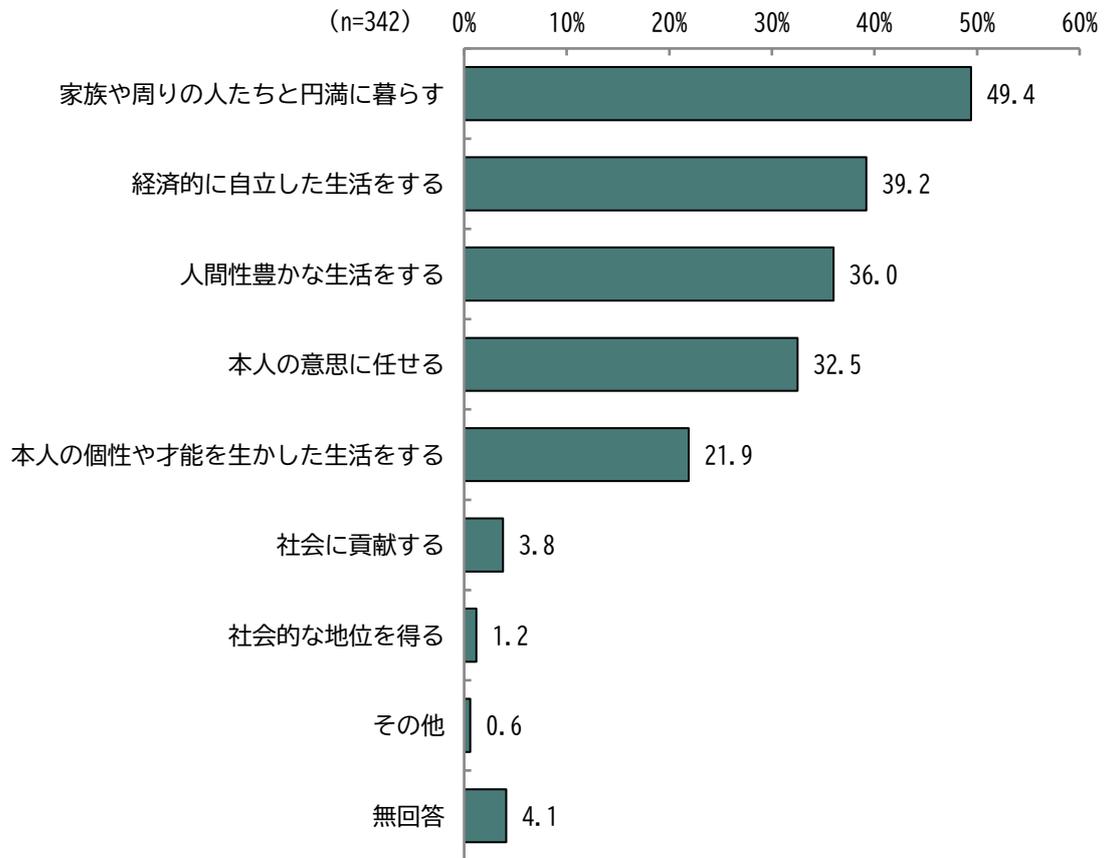
一方、子どもが女の子の場合の生き方の希望としては、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が49.4%で最も高く、次いで「経済的に自立した生活をする」（39.2%）、「人間性豊かな生活をする」（36.0%）、「本人の意思に任せる」（32.5%）となっています。

上位4項目は同じですが、男の子の場合と女の子の場合で、順位に違いがみられます。

図表 21 男の子の場合（全体／複数回答）



図表 22 女の子の場合（全体／複数回答）



【属性別の傾向：男の子の場合】

回答者の性別で見ると、男女ともに「経済的に自立した生活をする」が第1位となっていますが、その割合は女性の方が上回っています。

回答者の年齢別で見ると、第2位が、10～30歳代では「本人の意思に任せる」ですが、40歳以上では「家族や周りの人たちと円満に暮らす」となっています。

図表 23 男の子の場合（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		経済的に自立した生活をする 61.7	家族や周りの人たちと円満に暮らす 36.0	本人の意思に任せる 33.0
性別	男性(n=137)	経済的に自立した生活をする 54.0	家族や周りの人たちと円満に暮らす／本人の意思に任せる 37.2	
	女性(n=195)	経済的に自立した生活をする 67.7	家族や周りの人たちと円満に暮らす 35.9	本人の意思に任せる 29.7
年齢別	10～30歳代(n=96)	経済的に自立した生活をする 45.8	本人の意思に任せる 42.7	家族や周りの人たちと円満に暮らす 39.6
	40～50歳代(n=104)	経済的に自立した生活をする 61.5	家族や周りの人たちと円満に暮らす 35.6	本人の意思に任せる 31.7
	60歳以上(n=140)	経済的に自立した生活をする 72.9	家族や周りの人たちと円満に暮らす 33.6	本人の意思に任せる 27.9

【属性別の傾向：女の子の場合】

回答者の性別で見ると、第2位が、男性では「人間性豊かな生活をする」ですが、女性では「経済的に自立した生活をする」となっています。また、男性では第3位に「本人の意思に任せる」が挙がっています。

回答者の年齢別で見ると、第2位が、10～30歳代では「本人の意思に任せる」ですが、40歳以上では「経済的に自立した生活をする」となっています。

図表 24 女の子の場合（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		家族や周りの人たちと円満に暮らす 49.4	経済的に自立した生活をする 39.2	人間性豊かな生活をする 36.0
性別	男性(n=137)	家族や周りの人たちと円満に暮らす 51.8	人間性豊かな生活をする 40.9	経済的に自立した生活をする／本人の意思に任せる 31.4
	女性(n=195)	家族や周りの人たちと円満に暮らす 48.7	経済的に自立した生活をする 44.6	人間性豊かな生活をする 33.8
年齢別	10～30歳代(n=96)	家族や周りの人たちと円満に暮らす 42.7	本人の意思に任せる 40.6	経済的に自立した生活をする 32.3
	40～50歳代(n=104)	家族や周りの人たちと円満に暮らす 50.0	経済的に自立した生活をする 43.3	人間性豊かな生活をする 35.6
	60歳以上(n=140)	家族や周りの人たちと円満に暮らす 53.6	経済的に自立した生活をする／人間性豊かな生活をする 40.7	

4 男女共同参画の視点での災害時の備えについて

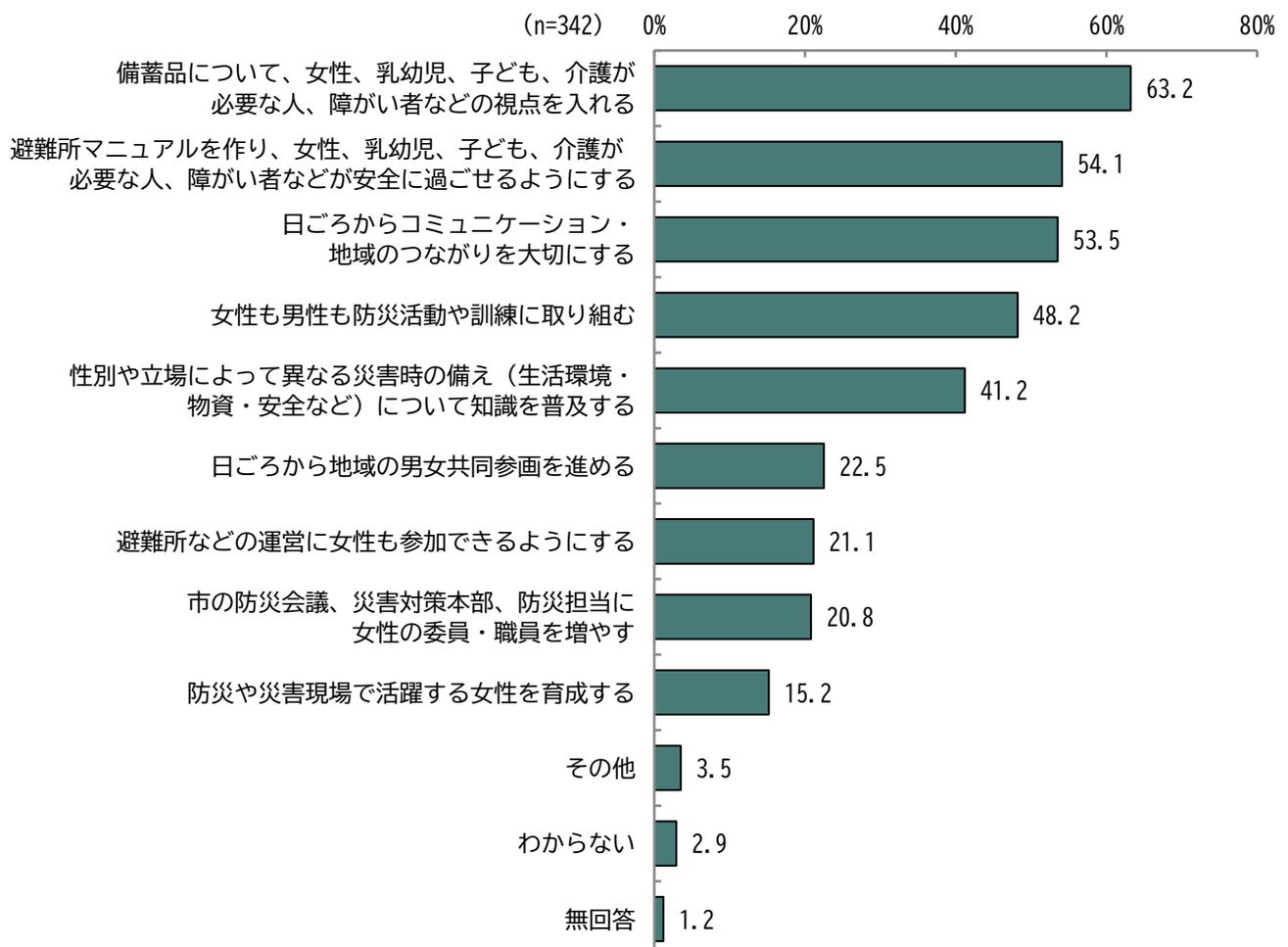
1 災害に備える施策について

問6 東日本大震災や能登半島地震などの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だと指摘されています。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体の傾向】

「備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる」が63.2%と最も高く、次いで「避難所マニュアルを作り、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする」(54.1%)、「日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」(53.5%)となっています。

図表 25 災害に備えて必要だと思う施策（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別でみると、男性では第3位に「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が挙がっており、女性では第2位に「避難所マニュアルを作り、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする」が挙がっています。

年齢別でみると、第1位が、10～50歳代では「備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる」ですが、60歳以上では「日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」となっています。

図表 26 災害に備えて必要だと思う施策（全体、性別、年齢別／複数回答）
上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる 63.2	避難所マニュアルを作り、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする 54.1	日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする 53.5
性別	男性(n=137)	備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる／日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする 55.5		女性も男性も防災活動や訓練に取り組む 48.2
	女性(n=195)	備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる 68.2	避難所マニュアルを作り、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする 62.6	日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする 52.8
年齢別	10～30歳代(n=96)	備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる 68.8	避難所マニュアルを作り、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする 59.4	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む 55.2
	40～50歳代(n=104)	備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる 70.2	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む／避難所マニュアルを作り、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする 51.9	
	60歳以上(n=140)	日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする 63.6	備蓄品について、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる 54.3	避難所マニュアルを作り、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする 51.4

5 ワーク・ライフ・バランスについて

1 希望と現実について

問7 次のことについて、あなたの「希望」に近いものを選んでください。(○は1つ)

【全体の傾向】

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が35.7%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも並立して実施したい(24.6%)、「家庭生活」を優先したい(15.8%)となっています。

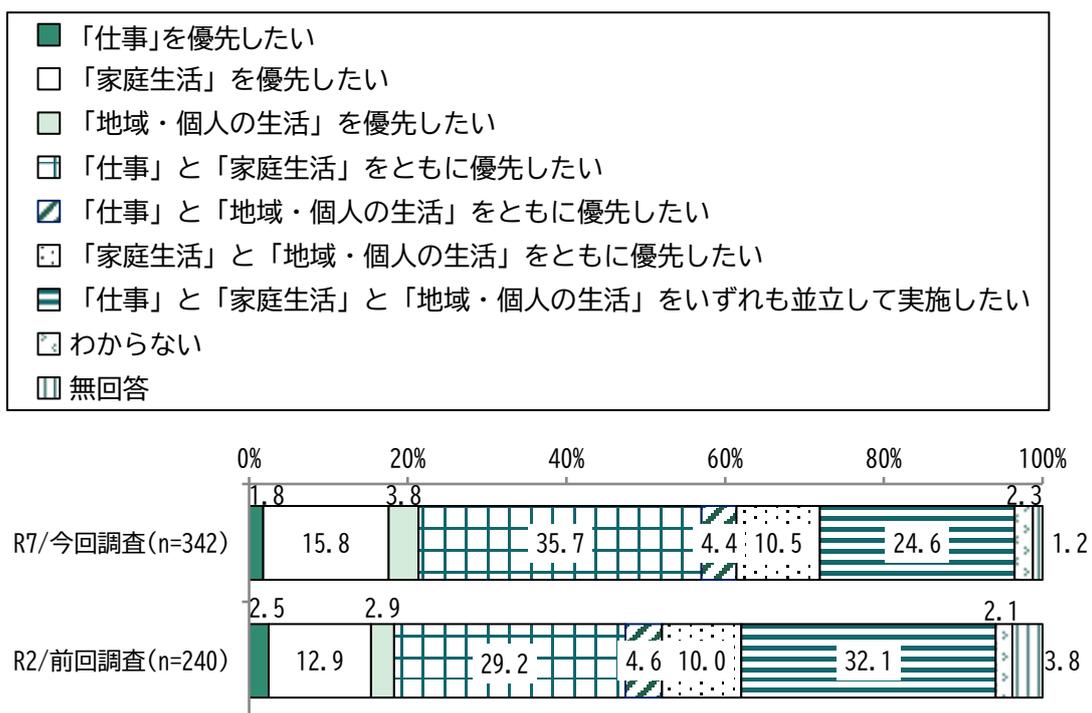
前回調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が6.5ポイント増加しています。一方、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも並立して実施したい」は7.5ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

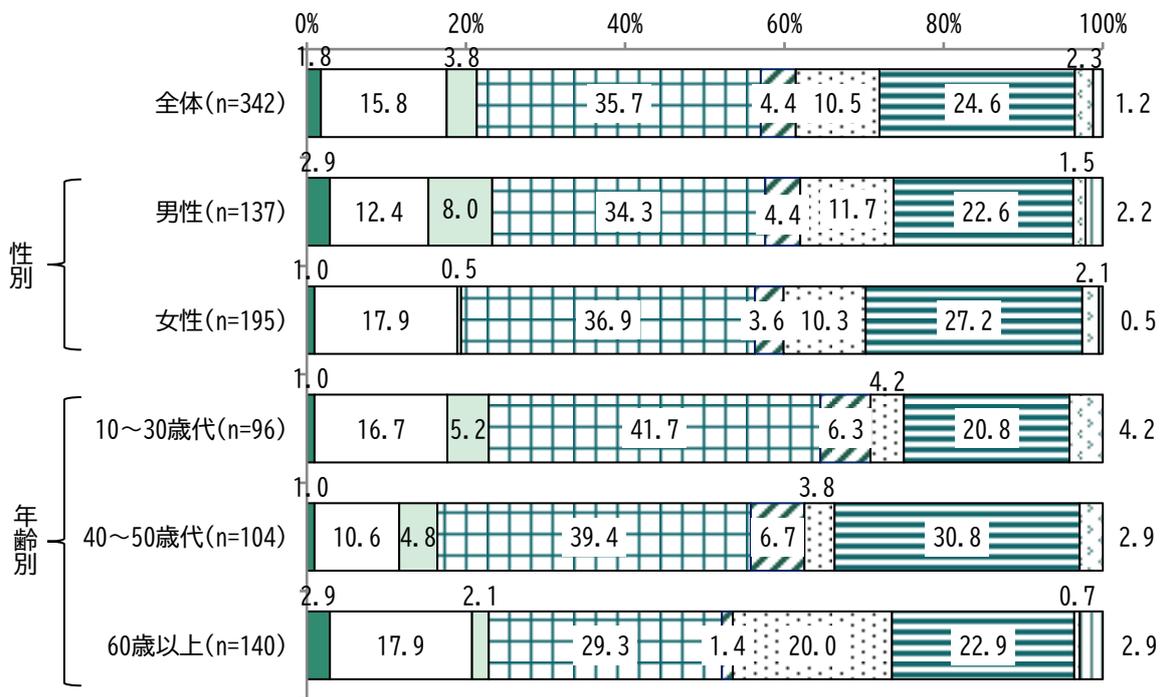
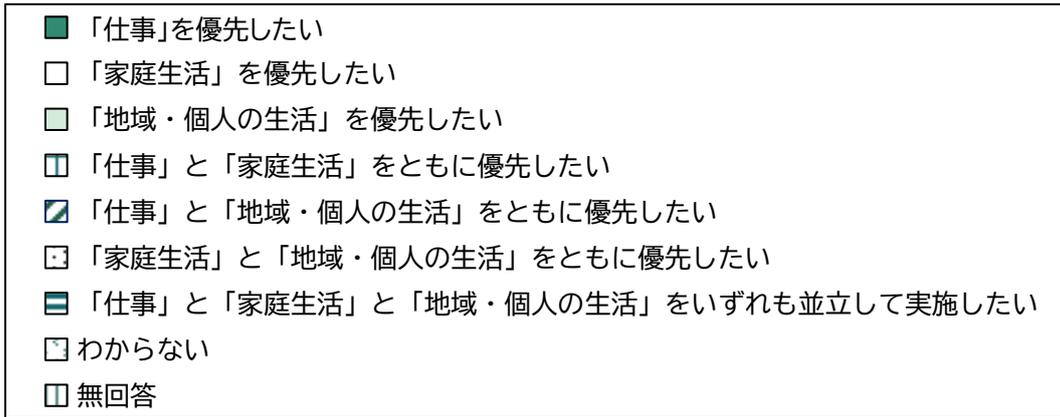
性別でみると、「家庭生活」を優先したい」は女性が5.5ポイント上回っています。また、「地域・個人の生活」を優先したい」は男性が7.5ポイント上回っています。

年齢別でみると、10～30歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が41.7%と他の年齢よりも高くなっています。40～50歳代では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも並立して実施したい」が30.8%と他の年齢よりも高くなっています。60歳以上では「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が20.0%と他の年齢よりも高くなっています。

図表 27 「希望」に近いもの(全体、前回比較)



図表 28 「希望」に近いもの（全体、性別、年齢別）



問8 それでは、あなたの「現実（現状）」に最も近いものを選んでください。（○は1つ）

【全体の傾向】

「仕事」と「家庭生活」とともに優先している」が29.8%と最も高く、次いで「家庭生活」を最も優先している」(23.7%)、「仕事」を最も優先している」(16.4%)となっています。

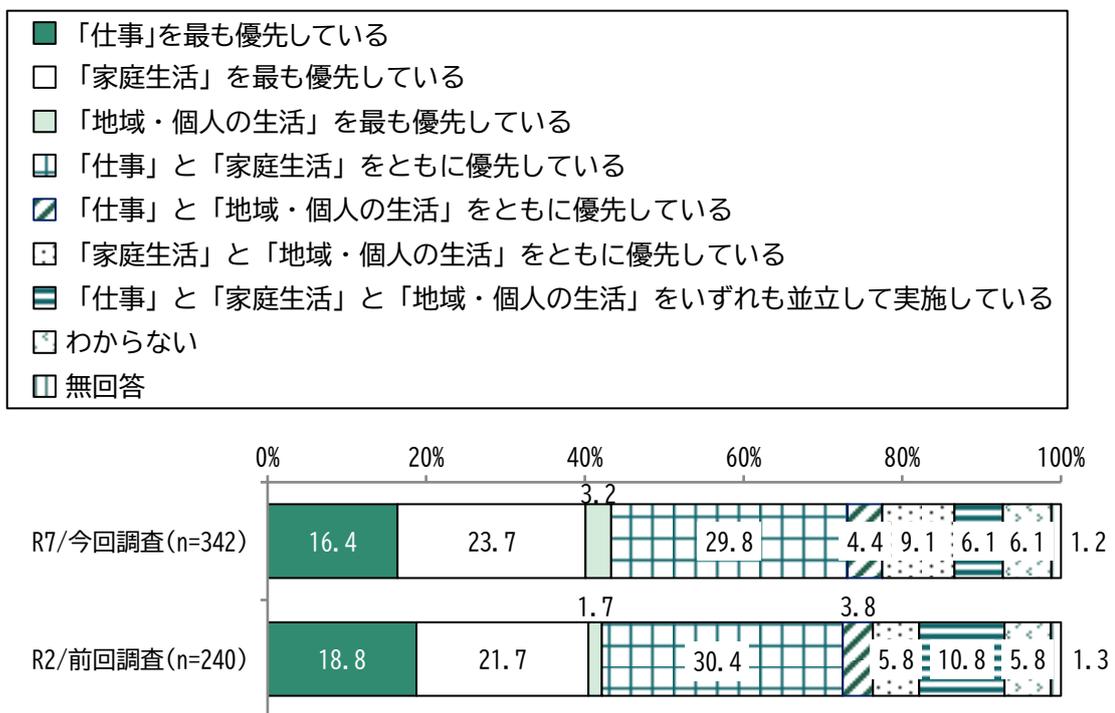
前回調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも並立して実施している」が4.7ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

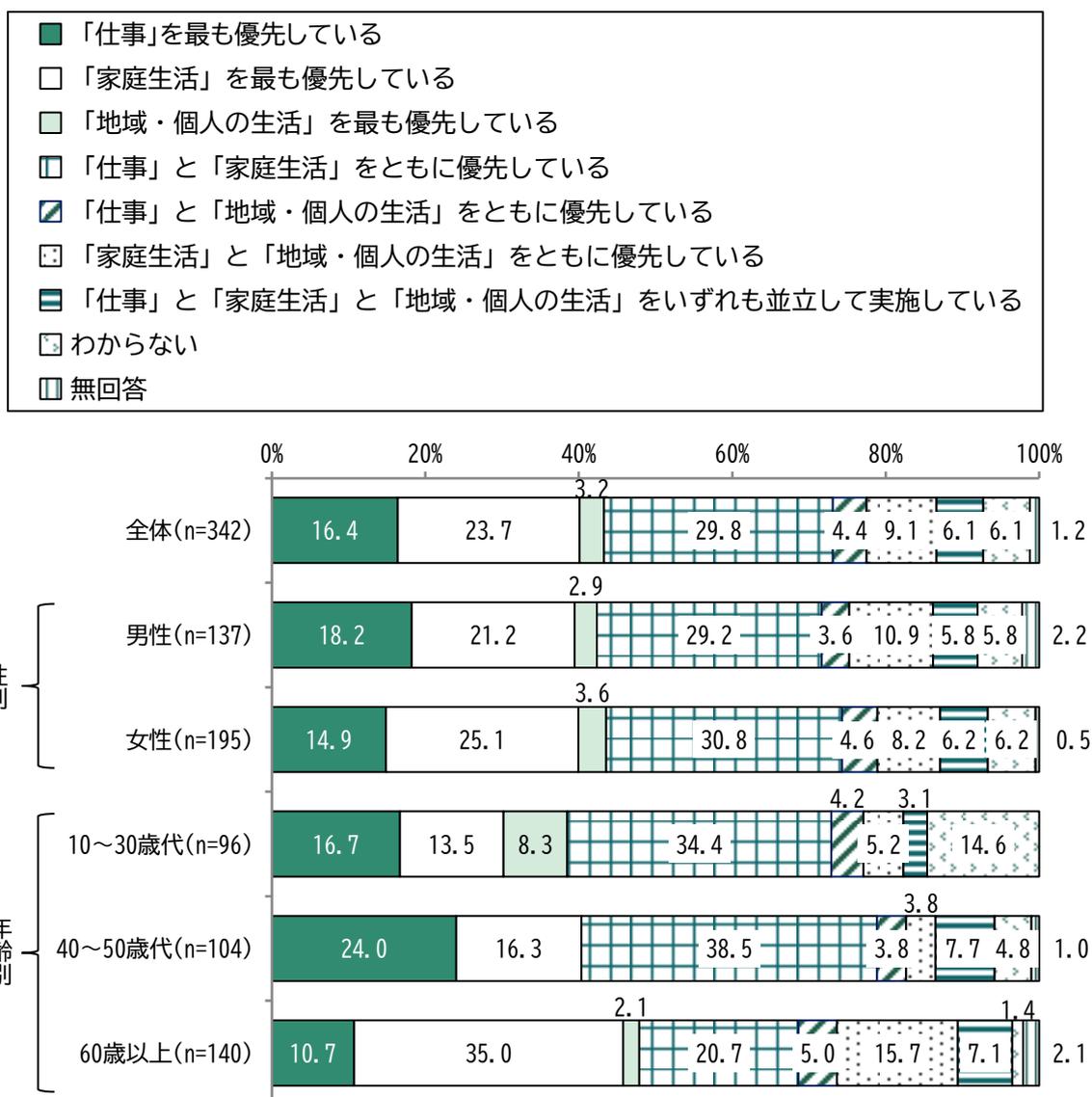
性別で見ると、「仕事」を最も優先している」は男性が3.3ポイント上回っており、「家庭生活」を最も優先している」は女性が3.9ポイント上回っています。

年齢別で見ると、60歳以上では「家庭生活」を最も優先している」が35.0%と他の年齢の2倍以上高くなっています。また、40～50歳代では「仕事」を最も優先している」が24.0%と他の年齢よりも高くなっています。

図表 29 「現実」に近いもの（全体、前回比較）



図表 30 「現実」に近いもの（全体、性別、年齢別）



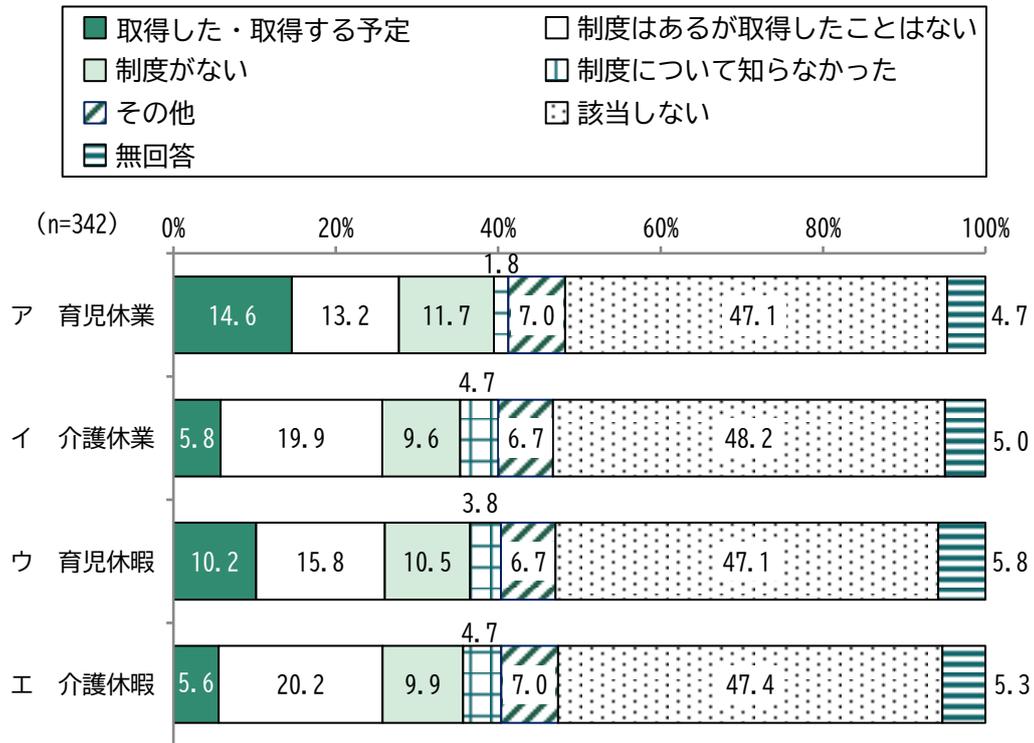
2 育児休業（休暇）や介護休業（休暇）について

問9 あなたは、育児休業・休暇や介護休業・休暇を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。（○は各項目ごとに1つずつ）

【全体の傾向】

「取得した・取得する予定」は“ア 育児休業”が14.6%で最も高く、次いで“ウ 育児休暇”が10.2%となっており、“イ 介護休業”“エ 介護休暇”では1割未満にとどまっています。

図表 31 育児休業（休暇）や介護休業（休暇）の取得状況（全体）



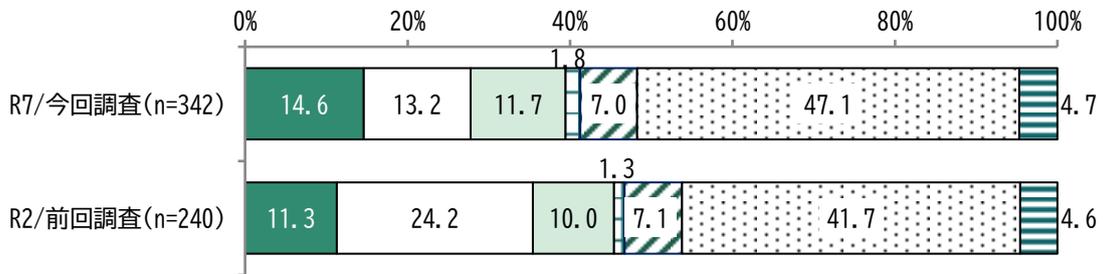
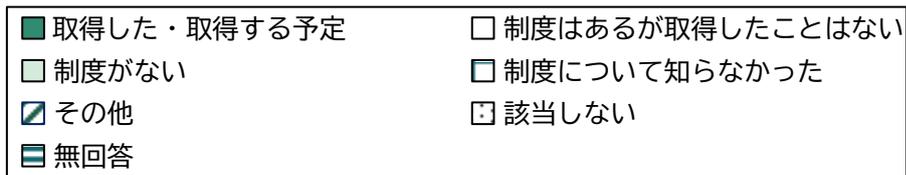
【前回比較】

前回調査と比較すると、“ア 育児休業”“イ 介護休業”ともに「取得した・取得する予定」は増加しています。

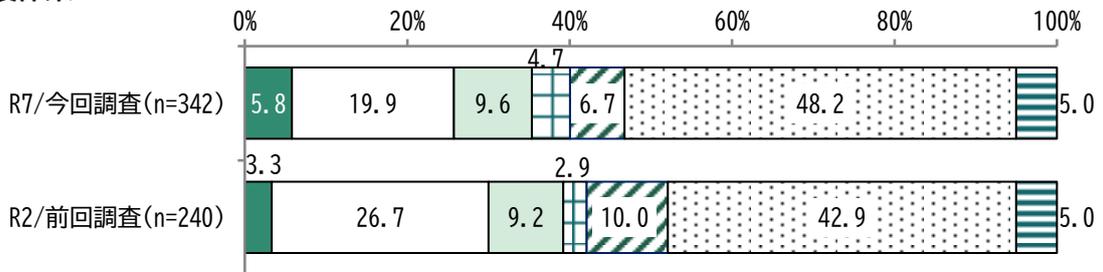
一方、「制度はあるが取得したことはない」が“ア 育児休業”では 11.0 ポイント、“イ 介護休業”では 6.8 ポイント減少しています。

図表 32 育児休業（休暇）や介護休業（休暇）の取得状況（前回比較）

ア 育児休業



イ 介護休業



※ウ 育児休暇、エ 介護休暇については、前回調査時なし

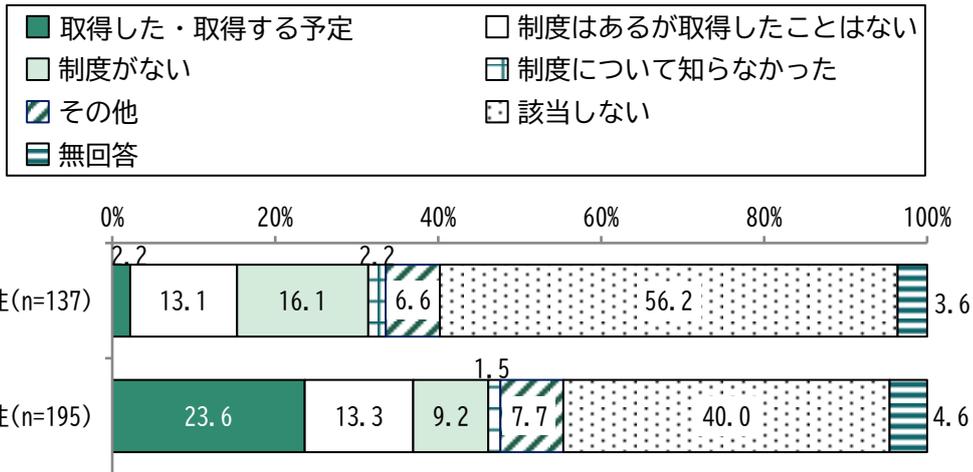
【属性別の傾向】

性別で見ると、いずれも「取得した・取得する予定」の割合は女性が上回っており、特に“ア 育児休業”、“ウ 育児休暇”では顕著な差がみられます。

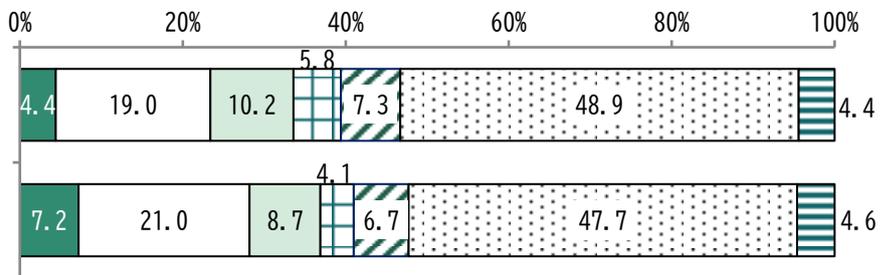
一方、「制度がない」の割合については男性が上回っており、同様に“ア 育児休業”、“ウ 育児休暇”で割合差が大きくなっています。

図表 33 育児休業（休暇）や介護休業（休暇）の取得状況（性別）

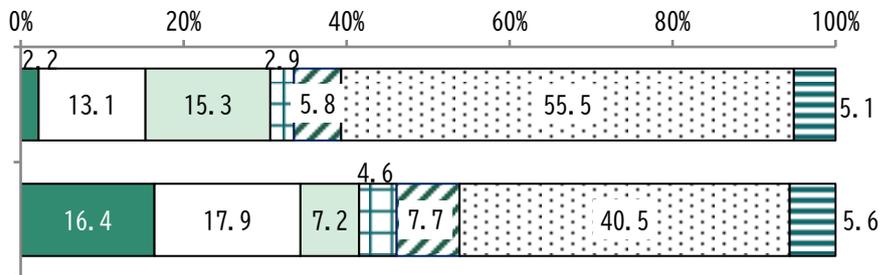
ア 育児休業



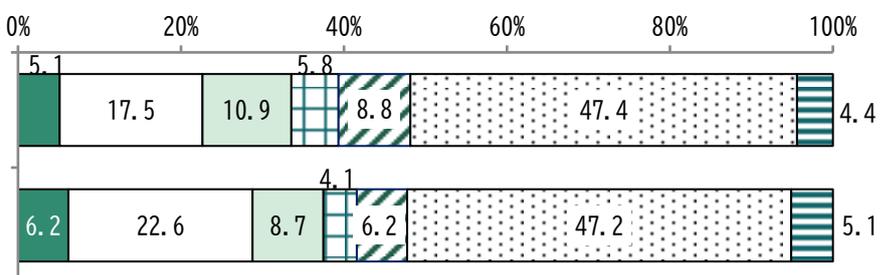
イ 介護休業



ウ 育児休暇



エ 介護休暇

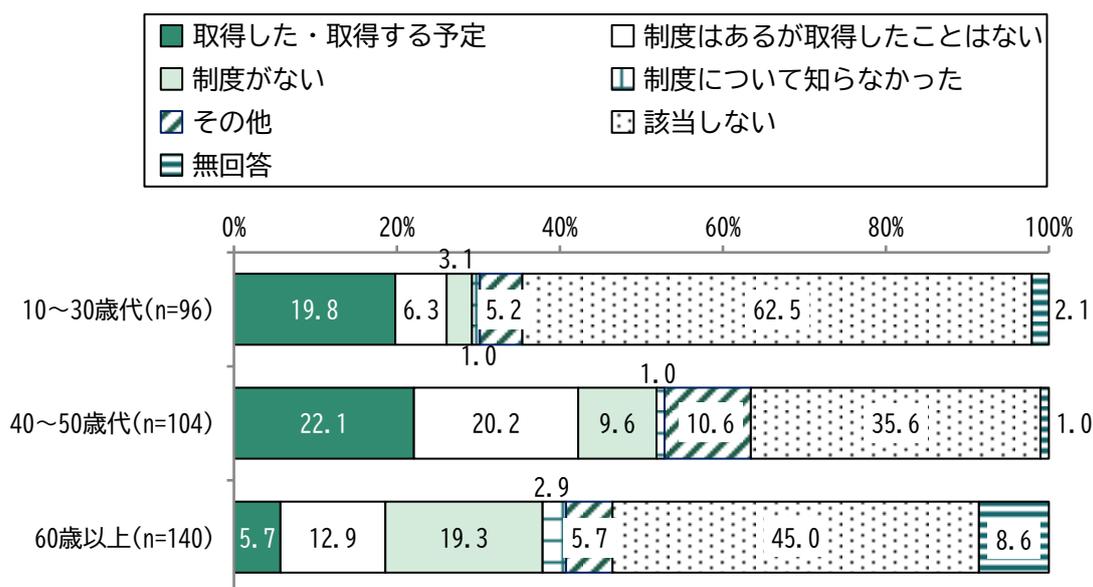


年齢別でみると、“ア 育児休業”“イ 介護休業”“エ 介護休暇”では40～50歳代で「取得した・取得する予定」が最も高くなっています。一方、“ウ 育児休暇”では10～30歳代で「取得した・取得する予定」が最も高くなっています。

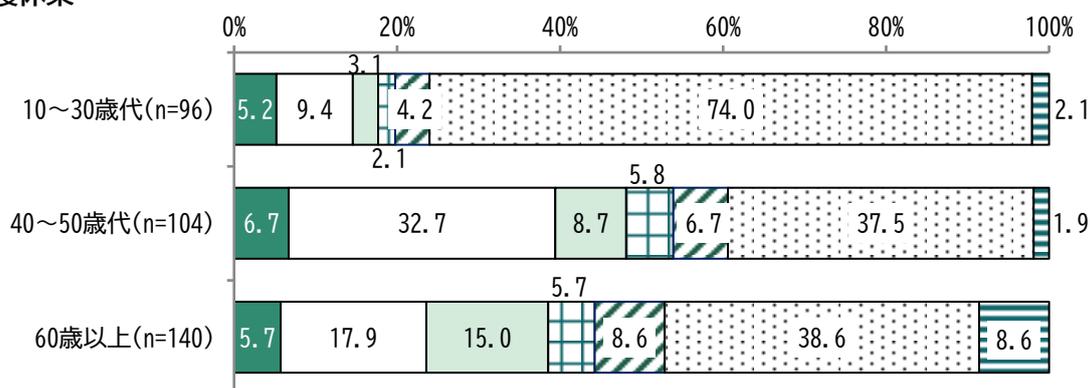
また、ア～エのすべての項目において、「制度はあるが取得したことはない」の割合は40～50歳代で他の年齢よりも高く、「制度がない」の割合は60歳以上で他の年齢よりも高くなっています。

図表 34 育児休業（休暇）や介護休業（休暇）の取得状況（年齢別）

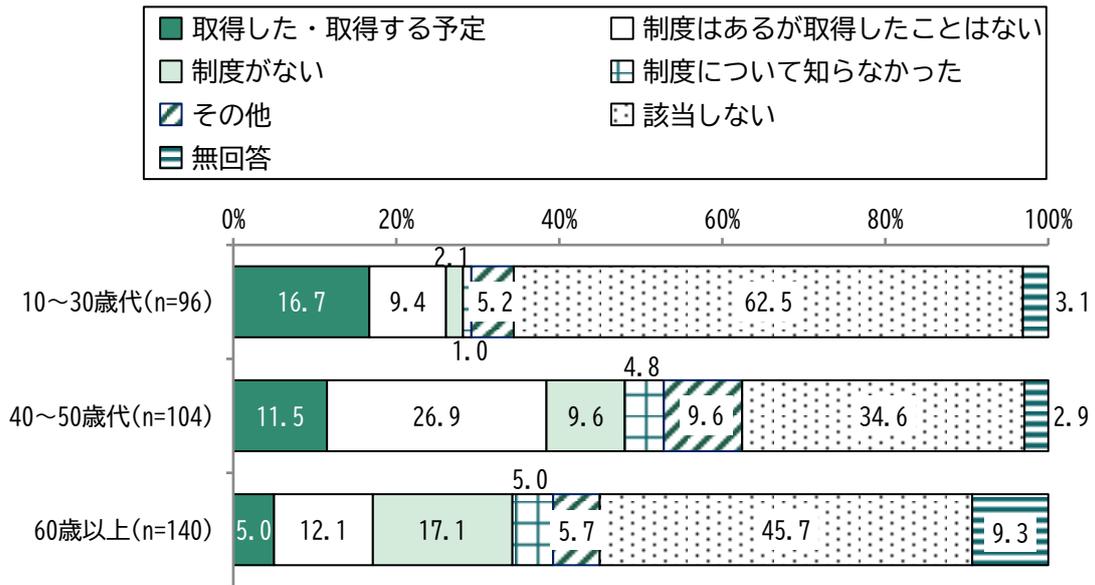
ア 育児休業



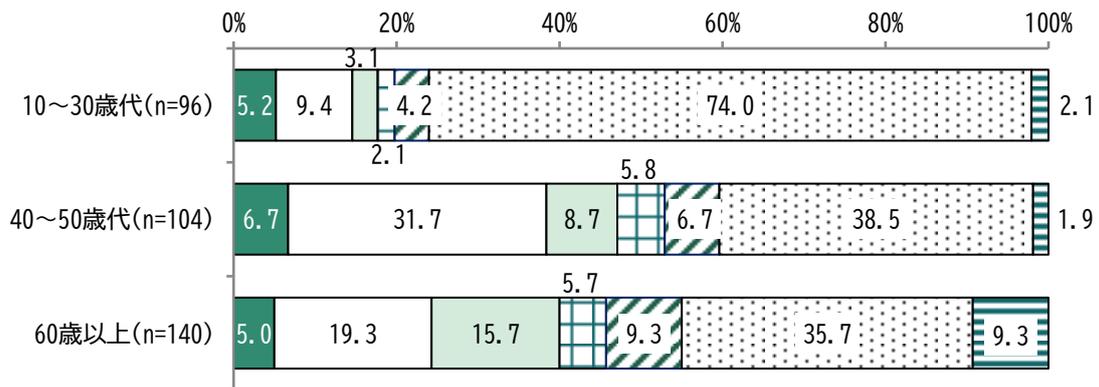
イ 介護休業



ウ 育児休暇



エ 介護休暇



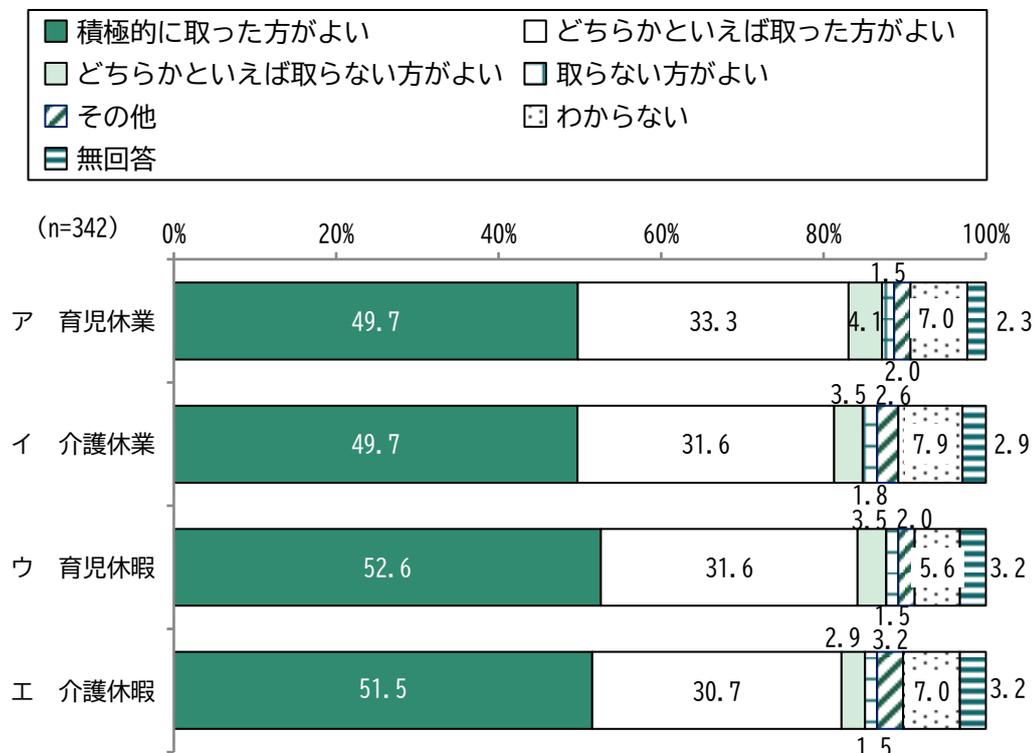
問 10 男性が育児休業・休暇や介護休業・休暇を取得することについて、あなたはどのように思いますか。
 (○は各項目ごとに1つずつ)

【全体の傾向】

「積極的に取った方がよい」と「どちらかといえば取った方がよい」を合わせた『取った方がよい』割合をみると、いずれも8割以上を占めています。

一方、「どちらかといえば取らない方がよい」と「取らない方がよい」を合わせた『取らない方がよい』割合は、いずれも1割未満となっています。

図表 35 男性が育児休業（休暇）や介護休業（休暇）を取得することへの考え（全体）



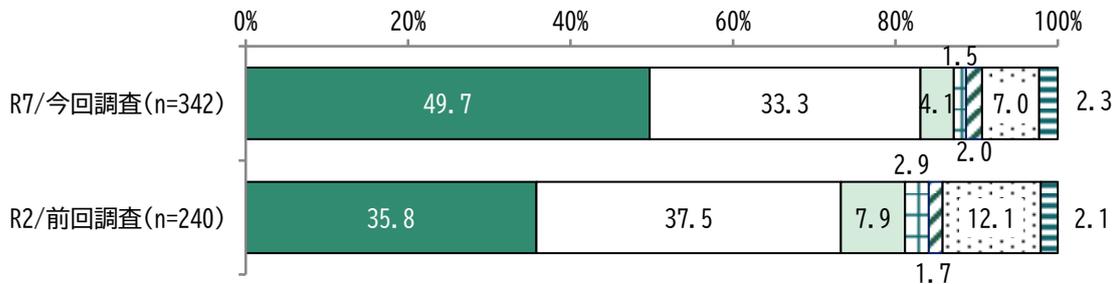
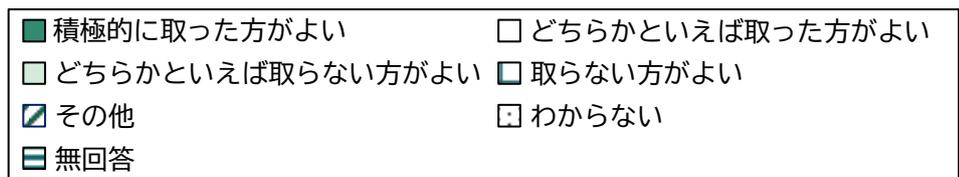
【前回比較】

前回調査と比較すると、「積極的に取った方がよい」がいずれも増加しており、“ア 育児休業”では13.9ポイント、“イ 介護休業”では9.3ポイント増加しています。

また、『取った方がよい』割合をみると、“ア 育児休業”では9.7ポイント、“イ 介護休業”では4.6ポイント増加しています。

図表 36 男性が育児休業（休暇）や介護休業（休暇）を取得することへの考え（前回比較）

ア 育児休業



イ 介護休業



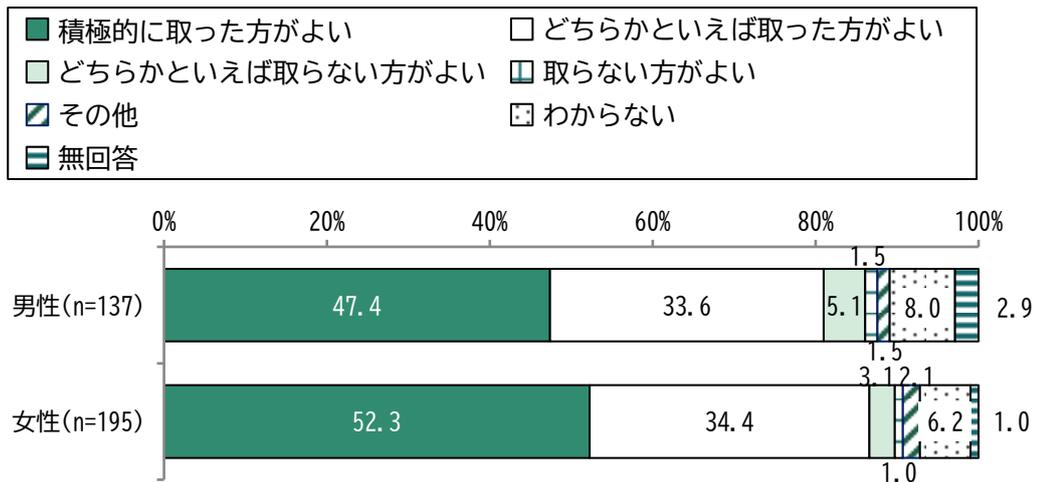
※育児休暇、介護休暇については前回調査時なし

【属性別の傾向】

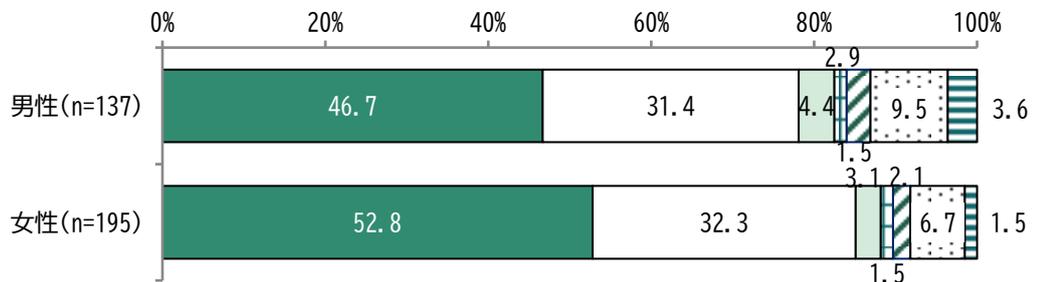
性別で見ると、『取った方がよい』割合は、いずれも男女ともに7割以上を占めています。また、いずれにおいても女性が上回っており、特に“イ 介護休業”では7.0ポイント上回っています。

図表 37 男性が育児休業（休暇）や介護休業（休暇）を取得することへの考え（性別）

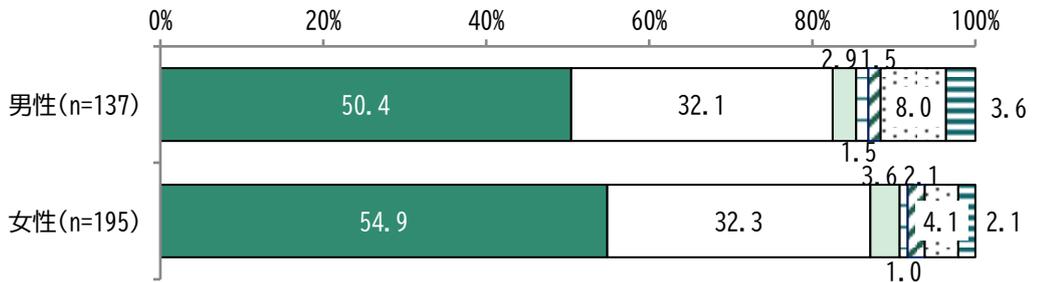
ア 育児休業



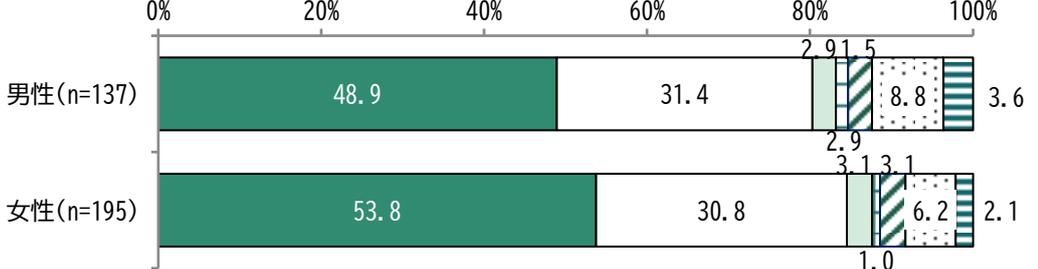
イ 介護休業



ウ 育児休暇



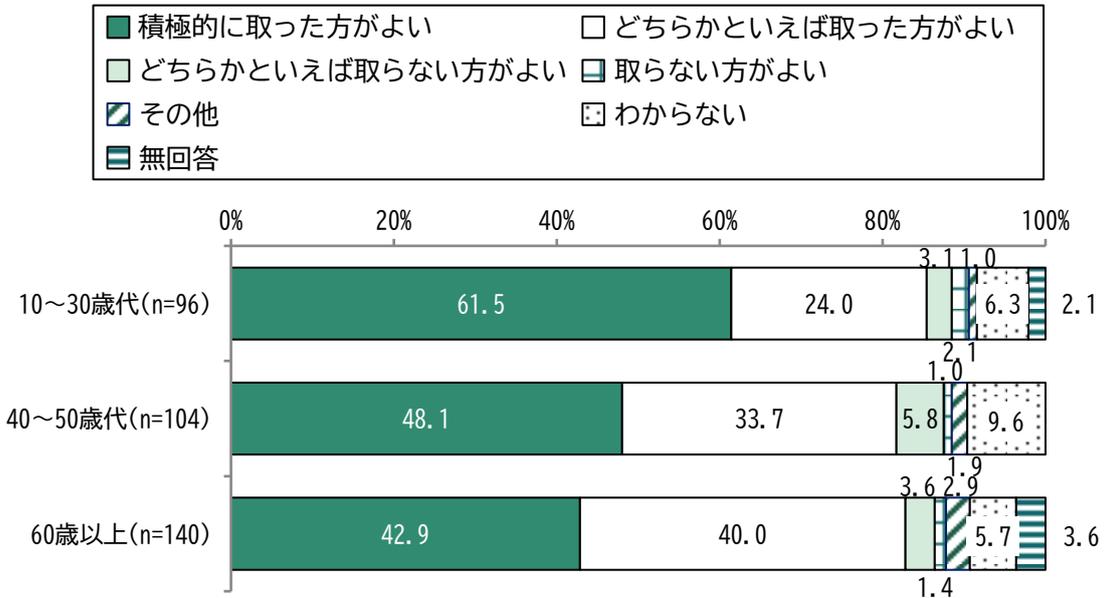
エ 介護休暇



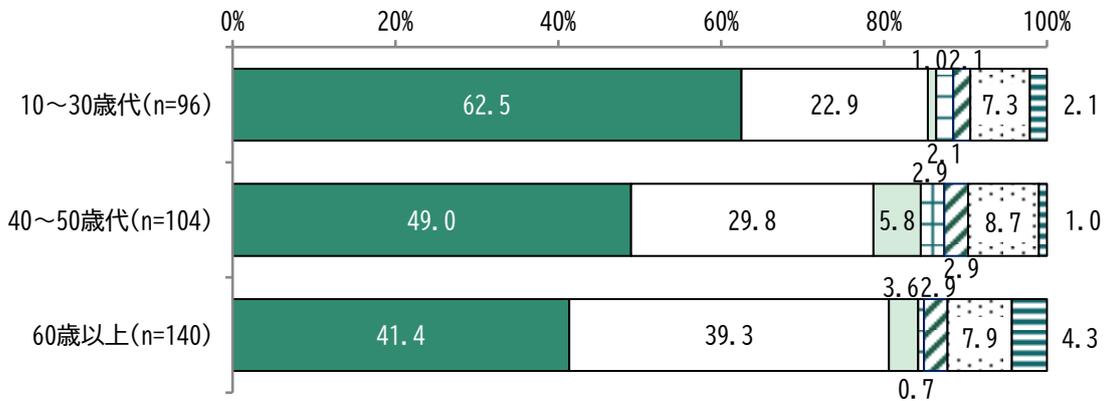
年齢別でみると、いずれも 10～30 歳代で『取った方がよい』割合が最も高くなっています。また、「積極的に取った方がよい」割合は、いずれにおいても年齢が上がるにつれて減少しています。

図表 38 男性が育児休業（休暇）や介護休業（休暇）を取得することへの考え（年齢別）

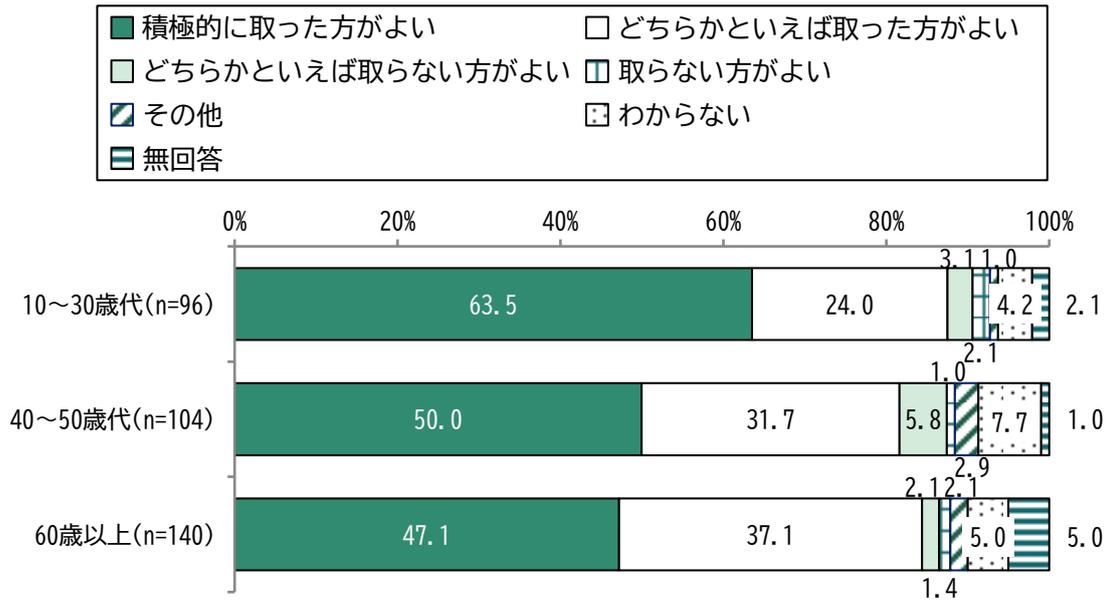
ア 育児休業



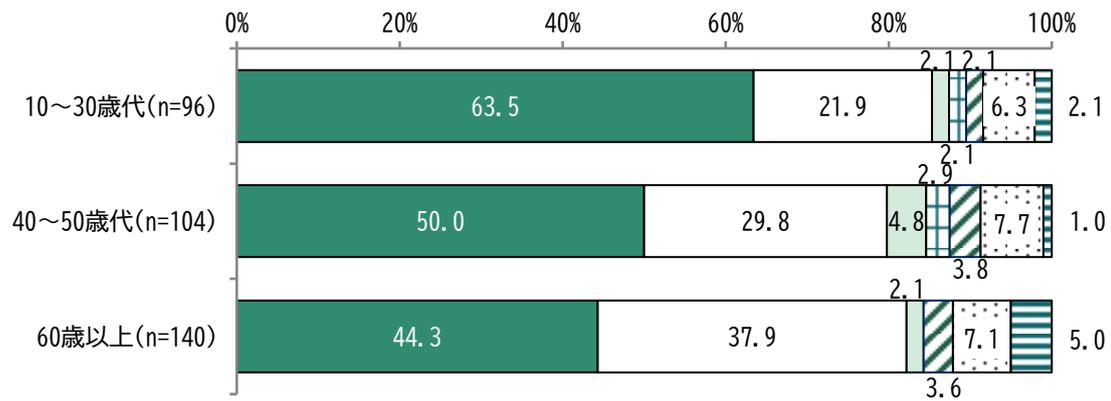
イ 介護休業



ウ 育児休暇



エ 介護休暇



問 11 女性が育児休業・休暇や介護休業・休暇を取得することについて、あなたはどのように思いますか。
 (○は各項目ごとに1つずつ)

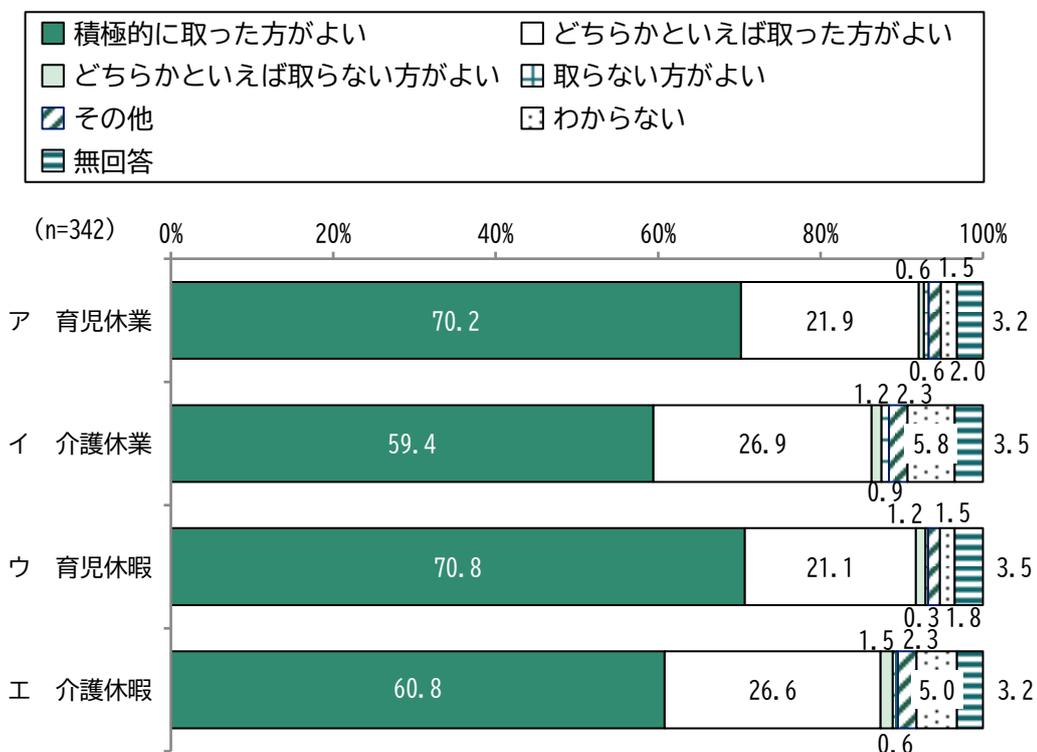
【全体の傾向】

「積極的に取った方がよい」と「どちらかといえば取った方がよい」を合わせた『取った方がよい』割合をみると、いずれも8割以上を占めています。

一方、「どちらかといえば取らない方がよい」と「取らない方がよい」を合わせた『取らない方がよい』割合は、いずれも1割未満となっています。

また、「積極的に取った方がよい」の割合を、前問の男性の場合と比較すると、ア～エのすべての項目において、女性の方が高くなっています。

図表 39 女性が育児休業（休暇）や介護休業（休暇）を取得することへの考え（全体）

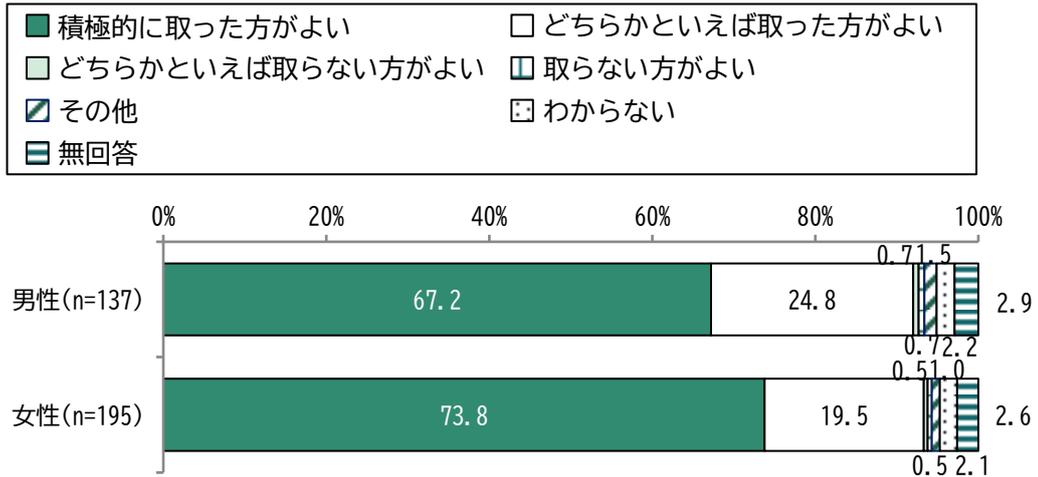


【属性別の傾向】

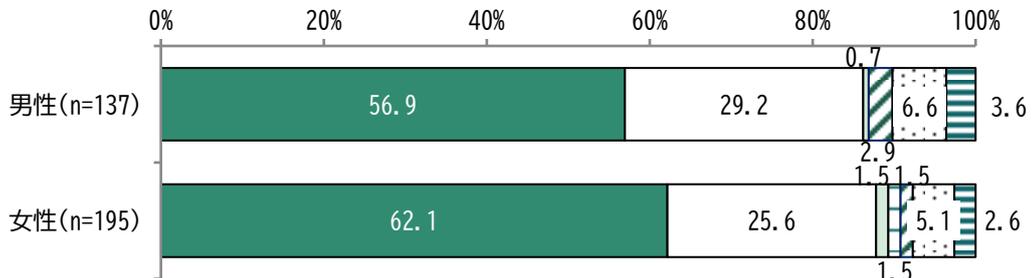
性別で見ると、『取った方がよい』割合は、いずれも男女ともに8割以上を占めています。また、いずれにおいても女性が上回っています。

図表 40 女性が育児休業（休暇）や介護休業（休暇）を取得することへの考え（性別）

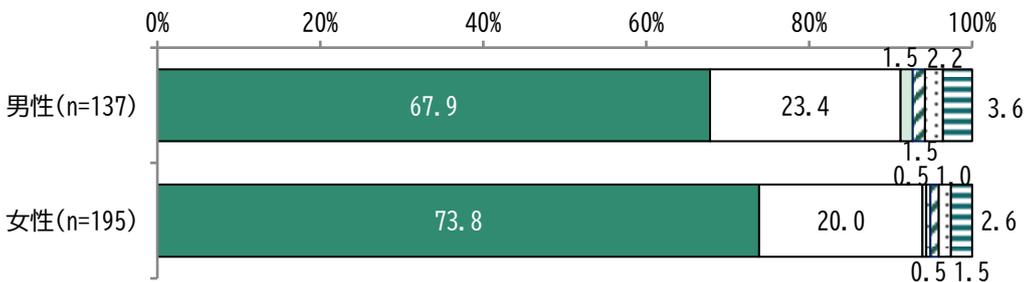
ア 育児休業



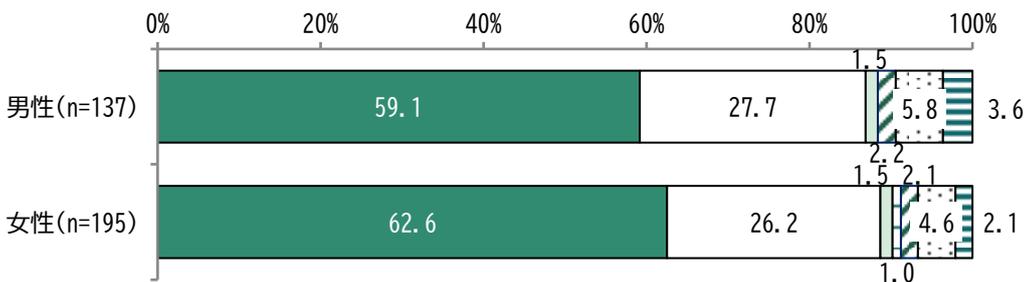
イ 介護休業



ウ 育児休暇



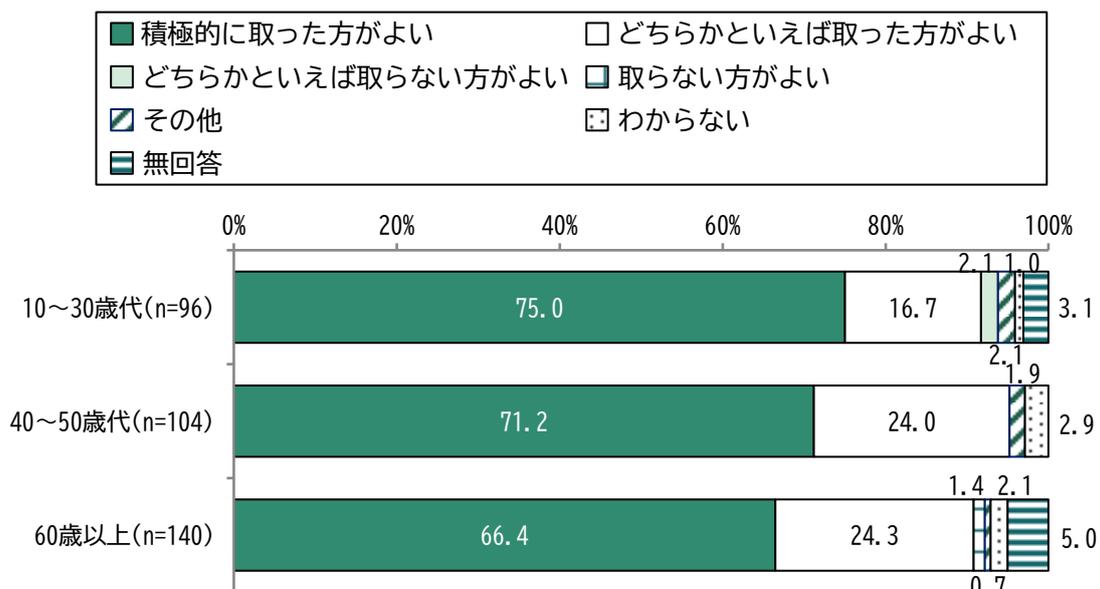
エ 介護休暇



年齢別でみると、『取った方がよい』割合は、“ア 育児休業”、“ウ 育児休暇”では40～50歳代が最も高く、“イ 介護休業”、“エ 介護休暇”では10～30歳代が最も高くなっています。また、「積極的に取った方がよい」割合は、いずれにおいても年齢が上がるにつれて減少しています。

図表 41 女性が育児休業（休暇）や介護休業（休暇）を取得することへの考え（年齢別）

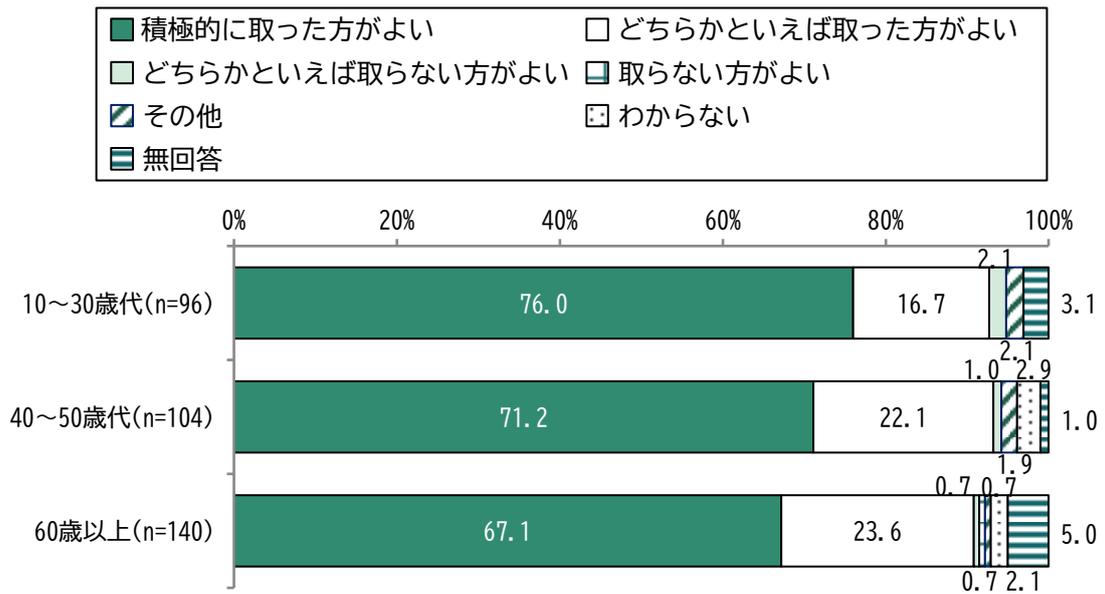
ア 育児休業



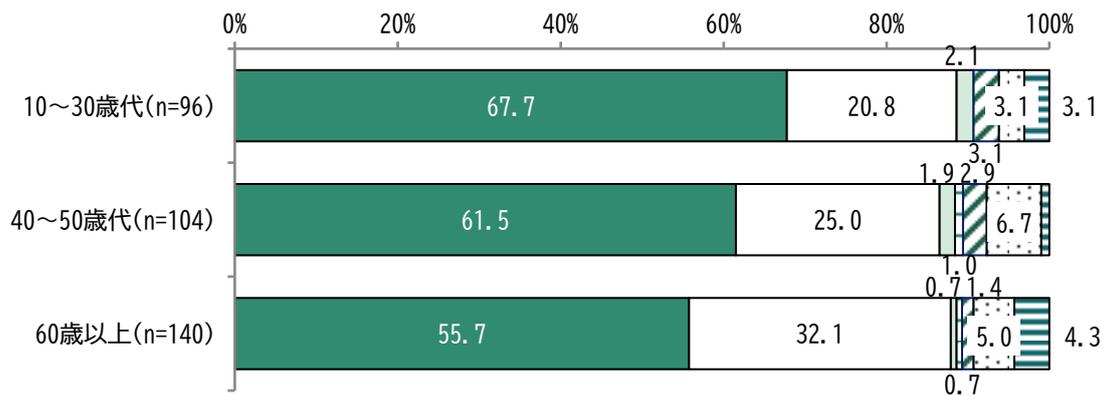
イ 介護休業



ウ 育児休暇



エ 介護休暇



3 固定観念について

問 12 あなたは、男性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。(○は1つ)

【全体の傾向】

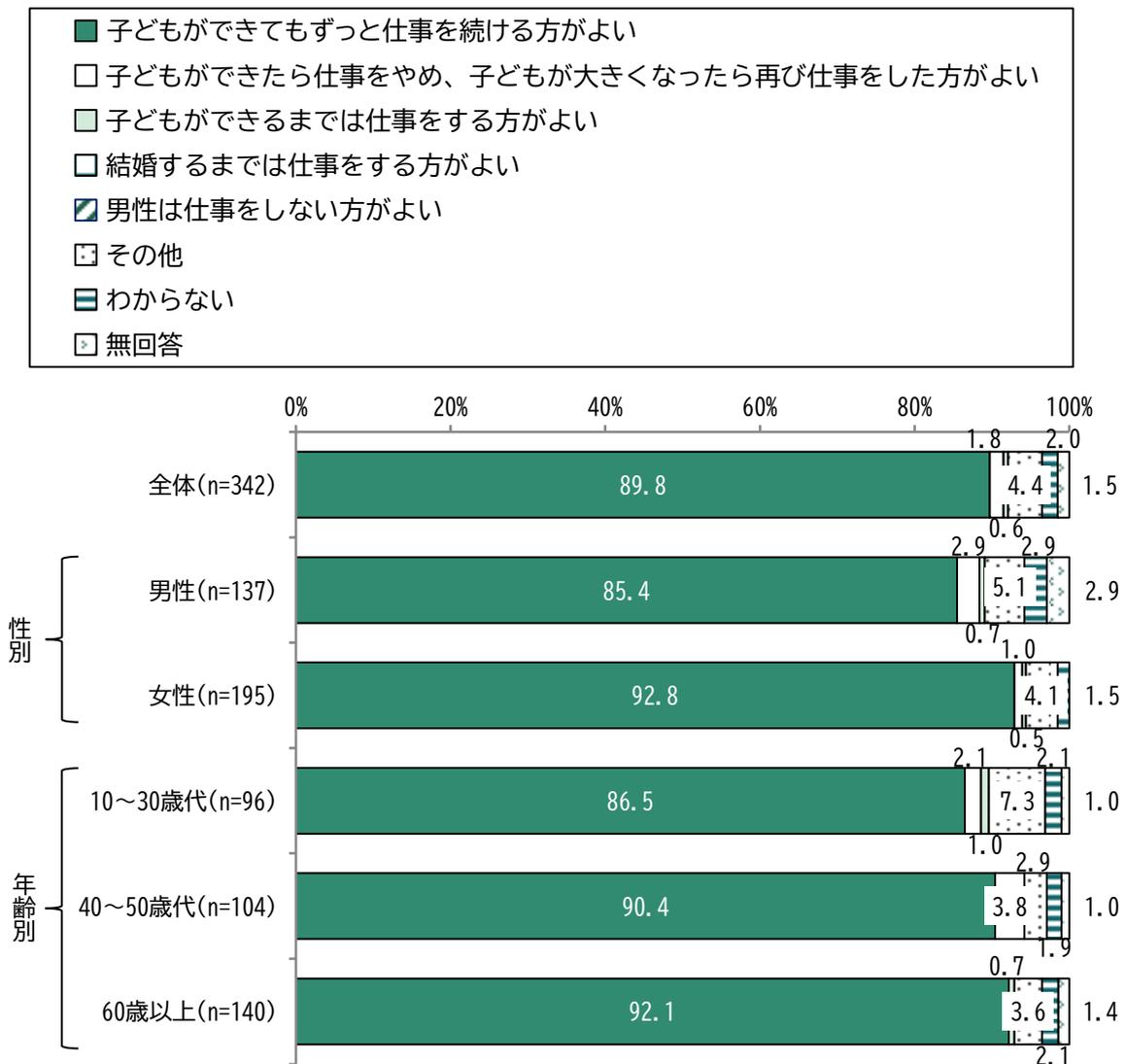
「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が 89.8%と最も高く、その割合は突出しています。

【属性別の傾向】

性別でみると、「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」は、女性が 7.4 ポイント上回っており、9割以上を占めています。

年齢別でみると、「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」は、60歳以上で 92.1%と最も高くなっています。

図表 42 男性が職業を持つことについての考え（全体、性別、年齢別）



問 13 あなたは、女性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。(○は1つ)

【全体の傾向】

「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が54.1%と最も高く、次いで「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をした方がよい」(26.3%)となっています。

また、「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」は、前問の男性の割合を大きく下回り、「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をした方がよい」は男性の割合を上回っています。

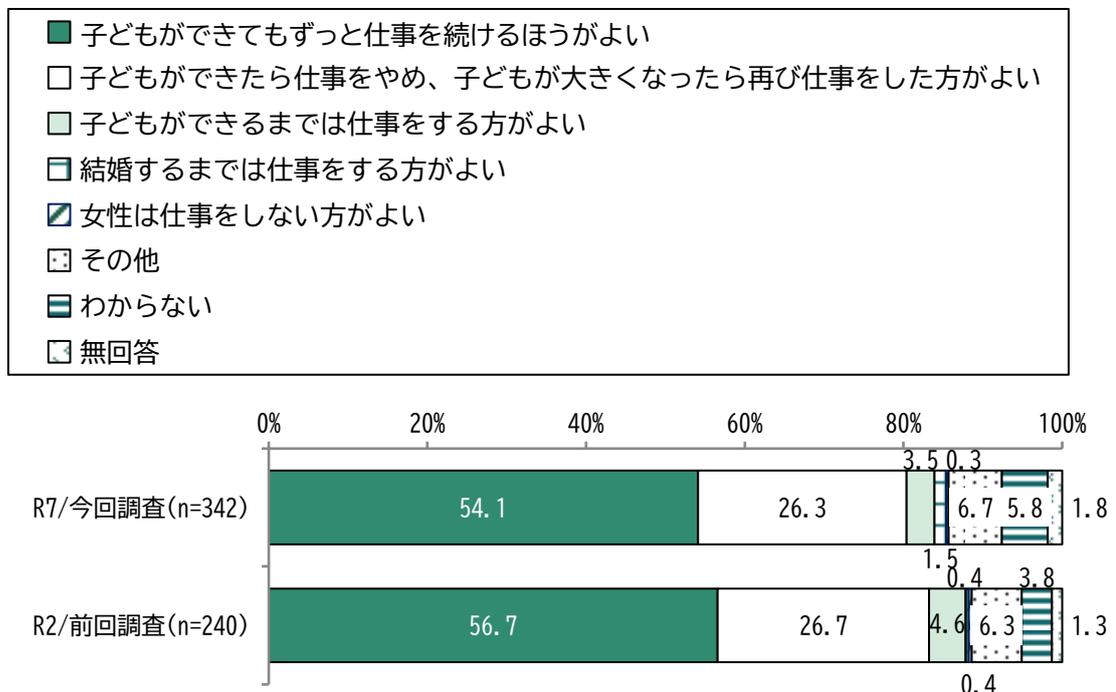
前回調査と比較すると、「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が2.6ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

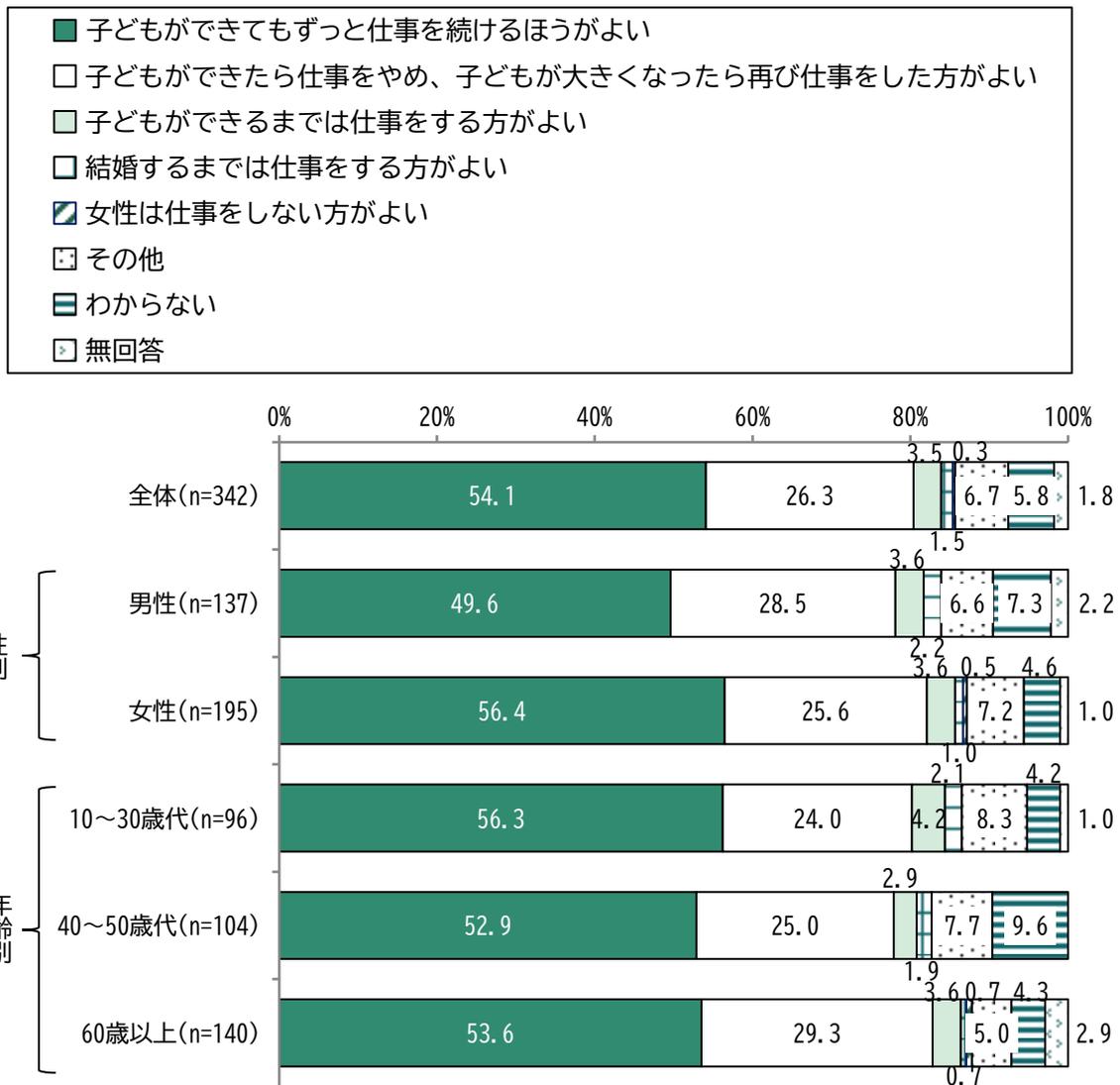
性別でみると、「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」は女性が6.8ポイント上回っており、半数以上を占めています。

年齢別でみると、いずれの年齢でも「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が半数以上を占めており、10～30歳代で最も高くなっています。

図表 43 女性が職業を持つことについての考え (全体、前回比較)



図表 44 女性が職業を持つことについての考え（全体、性別、年齢別）



6 就労について

1 就労状況

問 14 あなたは、現在仕事をしていますか。(パートや内職を含みます) (○は1つ)

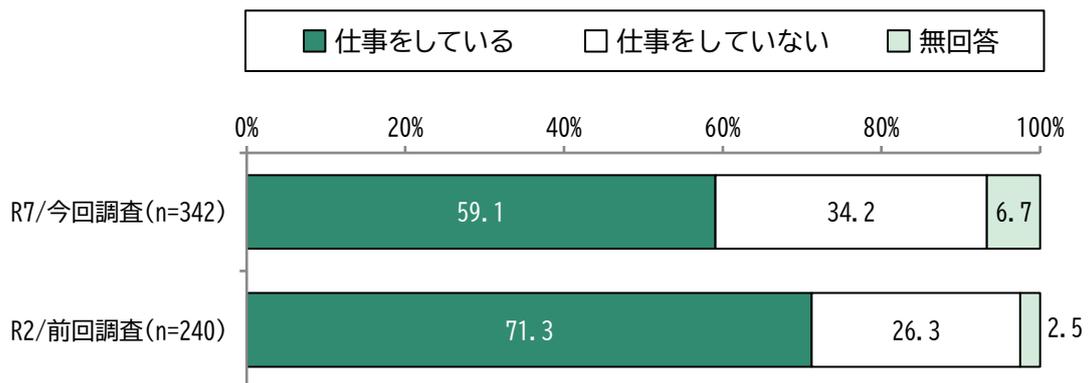
【全体の傾向】

「仕事をしている」が59.1%、「仕事をしていない」が34.2%となっています。
前回調査と比較すると、「仕事をしている」が12.2ポイント減少しています。

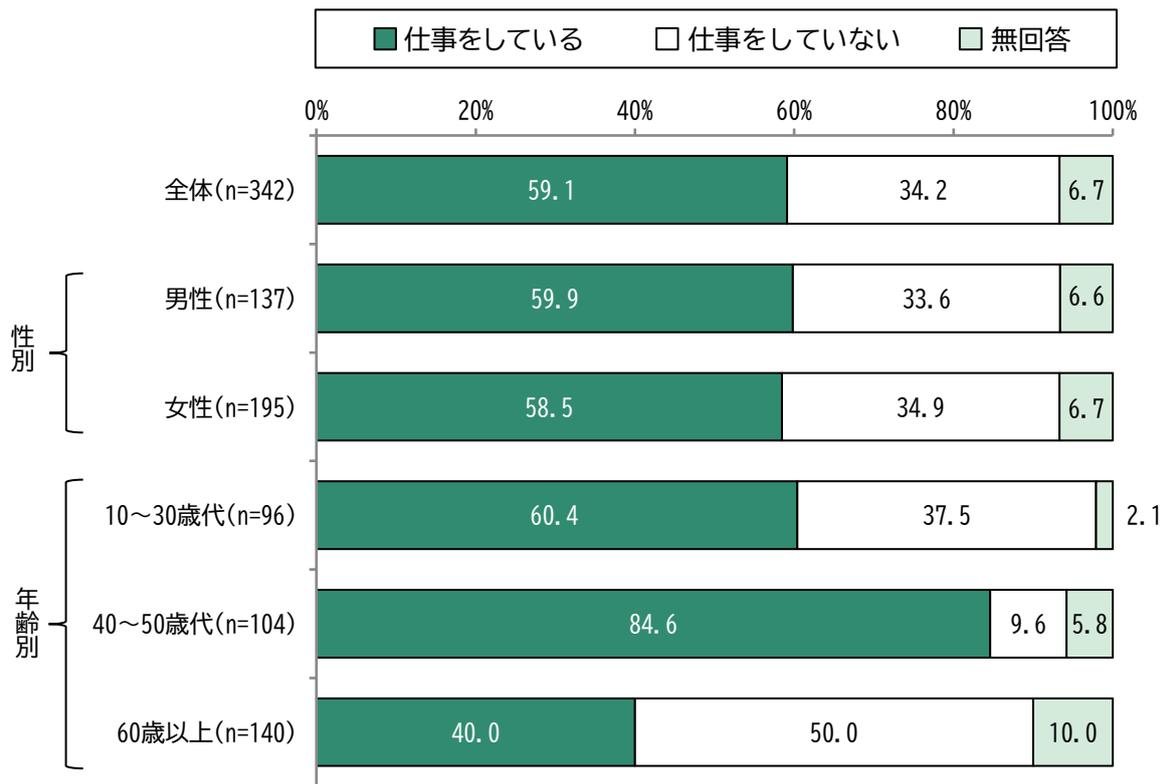
【属性別の傾向】

性別で見ると、「仕事をしている」は、男性が1.4ポイント上回っています。
年齢別で見ると、「仕事をしている」は、40～50歳代で84.6%と最も高くなっています。

図表 45 就労状況（全体、前回比較）



図表 46 就労状況（全体、性別、年齢別）



問 14 で「仕事をしている」と回答した方

問 14-1 あなたの雇用形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

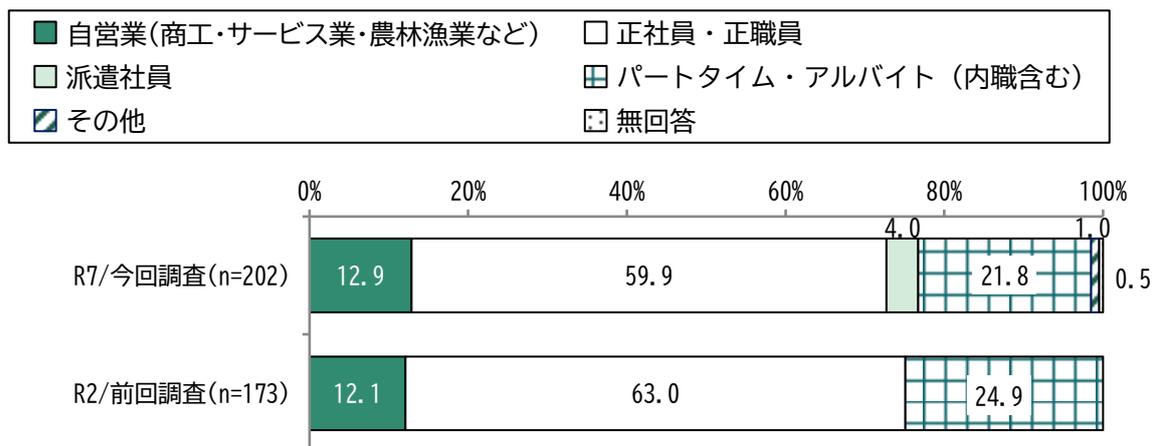
「正社員・正職員」が59.9%と最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト(内職含む)」(21.8%)、「自営業(商工・サービス業・農林漁業など)」(12.9%)となっています。

【属性別の傾向】

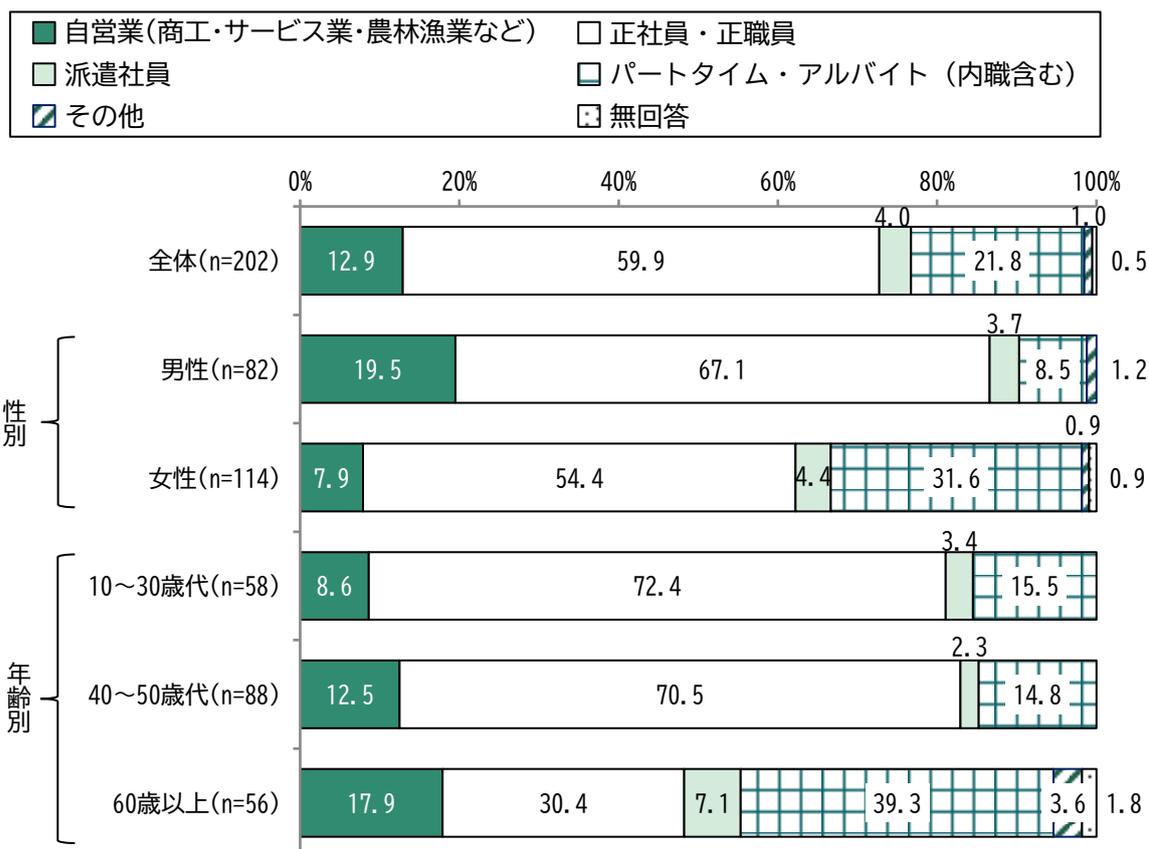
性別で見ると、「自営業(商工・サービス業・農林漁業など)」「正社員・正職員」は男性が上回っており、「パートタイム・アルバイト(内職含む)」は女性が上回っています。

年齢別で見ると、10~50歳代では「正社員・正職員」が7割以上を占めていますが、60歳以上では30.4%となっています。また、60歳以上では「自営業(商工・サービス業・農林漁業など)」「派遣社員」「パートタイム・アルバイト(内職含む)」が10~50歳代よりも高くなっています。

図表 47 雇用形態(全体、前回比較)



図表 48 雇用形態（全体、性別、年齢別）



2 性別による職場での差について

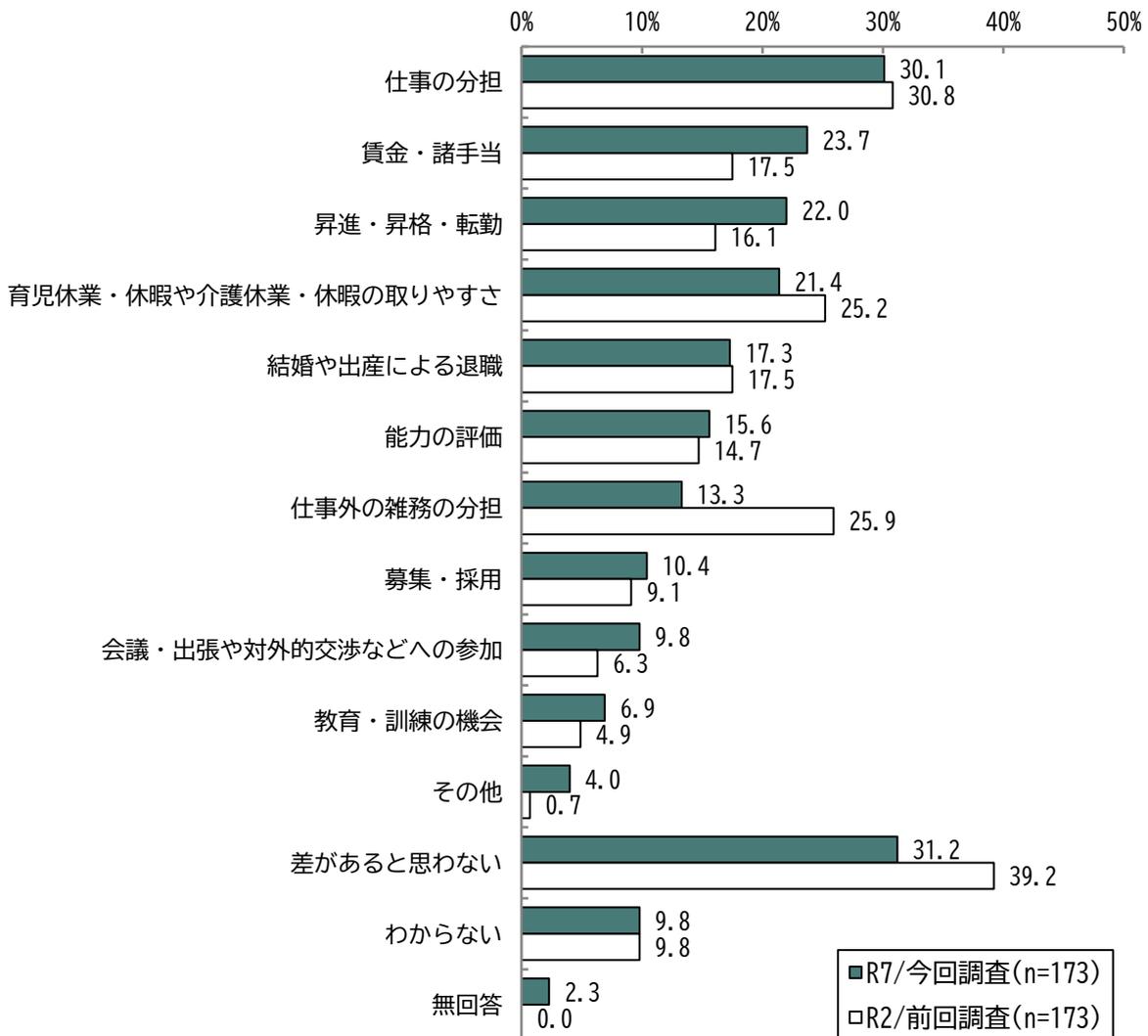
問 14-1 で「正社員・正職員」「派遣社員」「パートタイム・アルバイト（内職含む）」と回答した方
 問 14-2 あなたは現在の職場で、女性と男性の違いについて差があると思う点がありますか。
 （〇はいくつでも）

【全体の傾向】

差があると思う内容については、「仕事の分担」が30.1%と高く、次いで「賃金・諸手当」(23.7%)、「昇進・昇格・転勤」(22.0%)となっています。また、「差があると思わない」は31.2%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「仕事外の雑務の分担」が12.6ポイント減少しています。

図表 49 性別による職場での差の有無（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別でみると、第1位が、男性では「仕事の分担」ですが、女性では「差があると思わない」となっています。また、男性では第3位に「賃金・諸手当」、女性では第2位に「育児休業・休暇や介護休業・休暇の取りやすさ」がそれぞれ挙がっています。

年齢別でみると、60歳以上では第1位が「賃金・諸手当」となっています。また10～30歳代では第3位に「育児休業・休暇や介護休業・休暇の取りやすさ」、40～50歳代では第2位に「昇進・昇格・転勤」がそれぞれ挙がっており、年齢によって感じる差に違いがみられます。

図表 50 性別による職場での差の有無（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=173)		差があると思わない 31.2	仕事の分担 30.1	賃金・諸手当 23.7
性別	男性(n=65)	仕事の分担 40.0	差があると思わない 29.2	賃金・諸手当 24.6
	女性(n=103)	差があると思わない 34.0	仕事の分担／育児休業・休暇や介護休業・休暇の取りやすさ 24.3	
年齢別	10～30歳代(n=53)	仕事の分担／差があると思わない 35.8		育児休業・休暇や介護休業・休暇の取りやすさ 24.5
	40～50歳代(n=77)	仕事の分担 27.3	昇進・昇格・転勤／差があると思わない 26.0	
	60歳以上(n=43)	賃金・諸手当 37.2	差があると思わない 34.9	仕事の分担 27.9

3 男女共同参画推進のための支援について

問 15 男女共同参画を推進するための、就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。男性に対する支援・女性に対する支援それぞれについて、○をつけてください。(○はいくつでも)

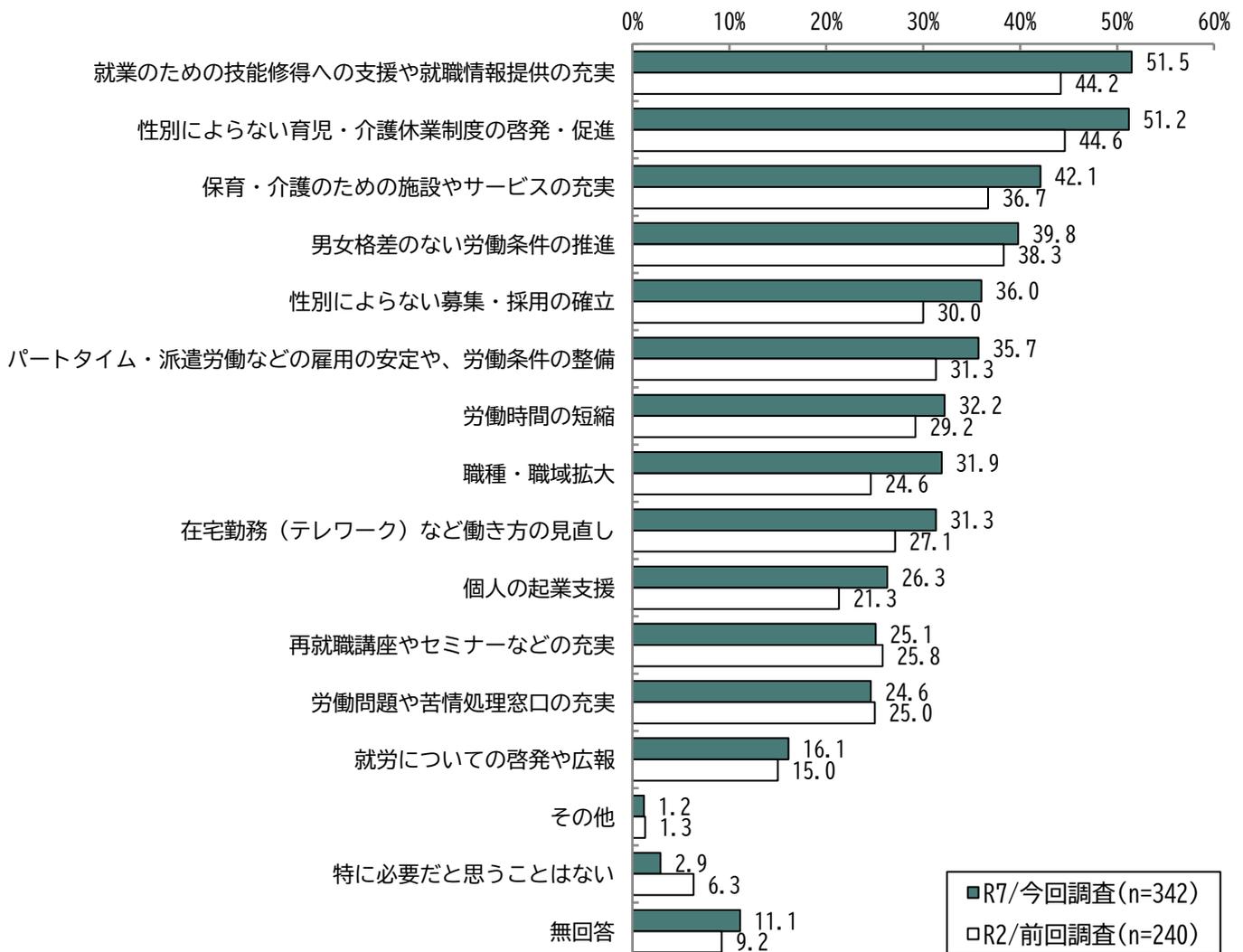
(1) 男性に対する支援

【全体の傾向】

「就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実」が51.5%と最も高く、次いで「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」(51.2%)、「保育・介護のための施設やサービスの充実」(42.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実」「職種・職域拡大」がいずれも7.3ポイント増加しています。

図表 51 男性に対する支援で必要だと思うもの（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別で見ると、第1位が、男性では「就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実」ですが、女性では「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」となっています。

また、男性では「男女格差のない労働条件の推進」、女性では「保育・介護のための施設やサービスの充実」がそれぞれ第3位となっています。

年齢別で見ると、第1位が、10～50歳代では「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」ですが、60歳以上では「就業のための技能習得への支援や就職情報提供の充実」となっています。

また、60歳以上では第3位に「男女格差のない労働条件の推進」が挙がっています。

図表 52 男性に対する支援で必要だと思うもの（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実 51.5	性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進 51.2	保育・介護のための施設やサービスの充実 42.1
性別	男性(n=137)	就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実 58.4	性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進 43.8	男女格差のない労働条件の推進 42.3
	女性(n=195)	性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進 56.4	就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実 47.2	保育・介護のための施設やサービスの充実 44.1
年齢別	10～30歳代(n=96)	性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進 63.5	就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実 61.5	保育・介護のための施設やサービスの充実 54.2
	40～50歳代(n=104)	性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進 49.0	就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実 46.2	保育・介護のための施設やサービスの充実 41.3
	60歳以上(n=140)	就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実 48.6	性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進 44.3	男女格差のない労働条件の推進／保育・介護のための施設やサービスの充実 34.3

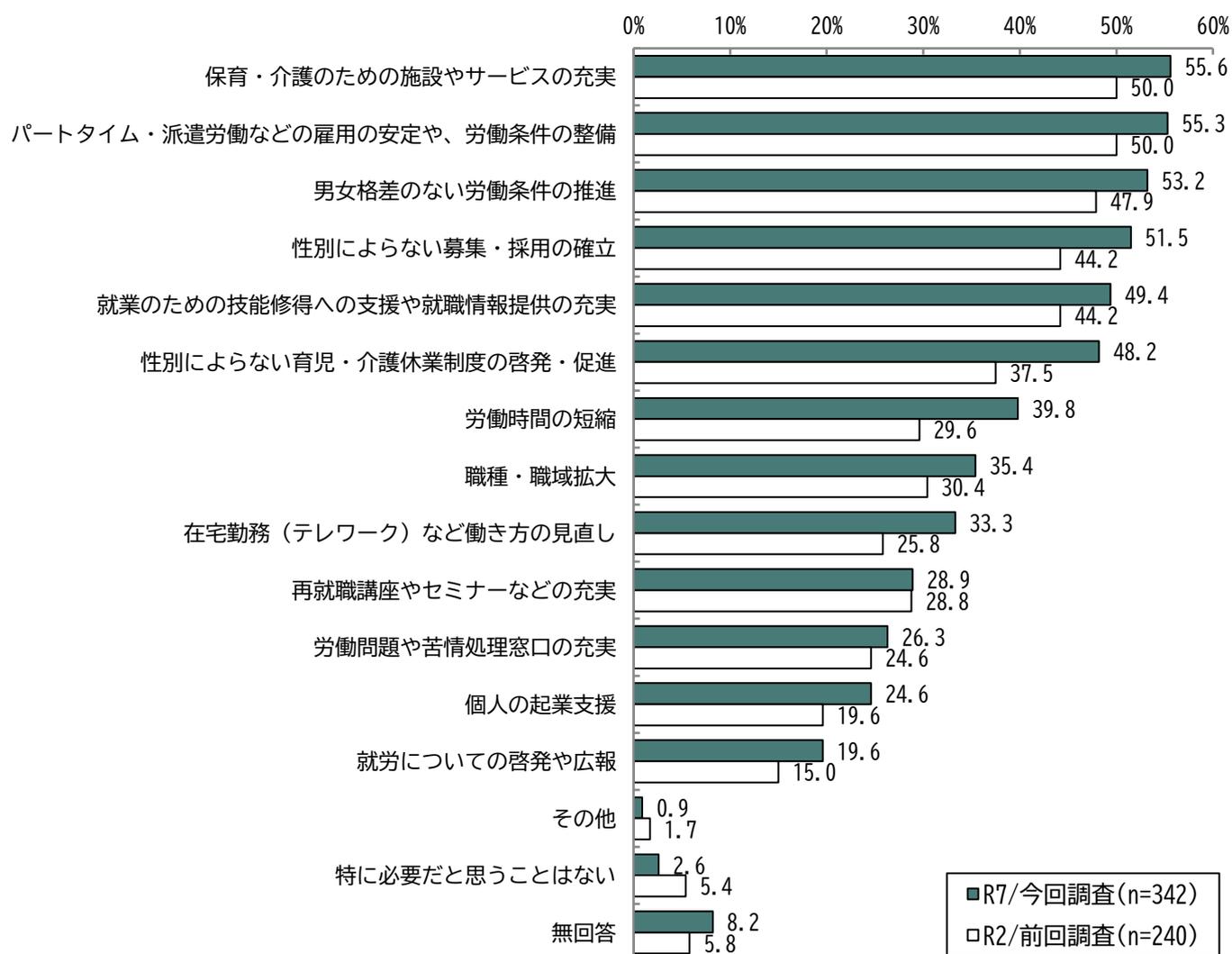
(2) 女性に対する支援

【全体の傾向】

「保育・介護のための施設やサービスの充実」が55.6%と最も高く、次いで「パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や、労働条件の整備」(55.3%)、「男女格差のない労働条件の推進」(53.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」が10.7ポイント、「労働時間の短縮」が10.2ポイント増加しています。

図表 53 女性に対する支援で必要だと思うもの（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別で見ると、第1位が、男性では「就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実」ですが、女性では「保育・介護のための施設やサービスの充実」となっています。

また、男性では「性別によらない募集・採用の確立」が第3位、女性では「パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備」が第2位となっています。

年齢別で見ると、第1位が、10～30歳代では「性別によらない募集・採用の確立」ですが、40歳以上では「保育・介護のための施設やサービスの充実」となっています。

また、10～30歳代では第3位に「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」が挙がっています。

図表 54 女性に対する支援で必要だと思うもの（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		保育・介護のための施設やサービスの充実 55.6	パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や、労働条件の整備 55.3	男女格差のない労働条件の推進 53.2
性別	男性(n=137)	就業のための技能修得への支援や就職情報提供の充実 56.2	男女格差のない労働条件の推進 51.8	性別によらない募集・採用の確立 50.4
	女性(n=195)	保育・介護のための施設やサービスの充実 62.1	パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や、労働条件の整備 60.0	男女格差のない労働条件の推進 54.4
年齢別	10～30歳代(n=96)	性別によらない募集・採用の確立 69.8	パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や、労働条件の整備 67.7	性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進 64.6
	40～50歳代(n=104)	保育・介護のための施設やサービスの充実 52.9	パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や、労働条件の整備 51.0	男女格差のない労働条件の推進 48.1
	60歳以上(n=140)	保育・介護のための施設やサービスの充実 52.1	男女格差のない労働条件の推進／パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や、労働条件の整備 50.0	

7 地域・社会参加について

1 地域活動の参加状況・参加希望

問16 あなたが、「(1) 現在関わっている活動」「(2) これからやってみたい活動」をお答えください。(○は(1)、(2)の項目ごとにいくつでも)

(1) 現在関わっている活動

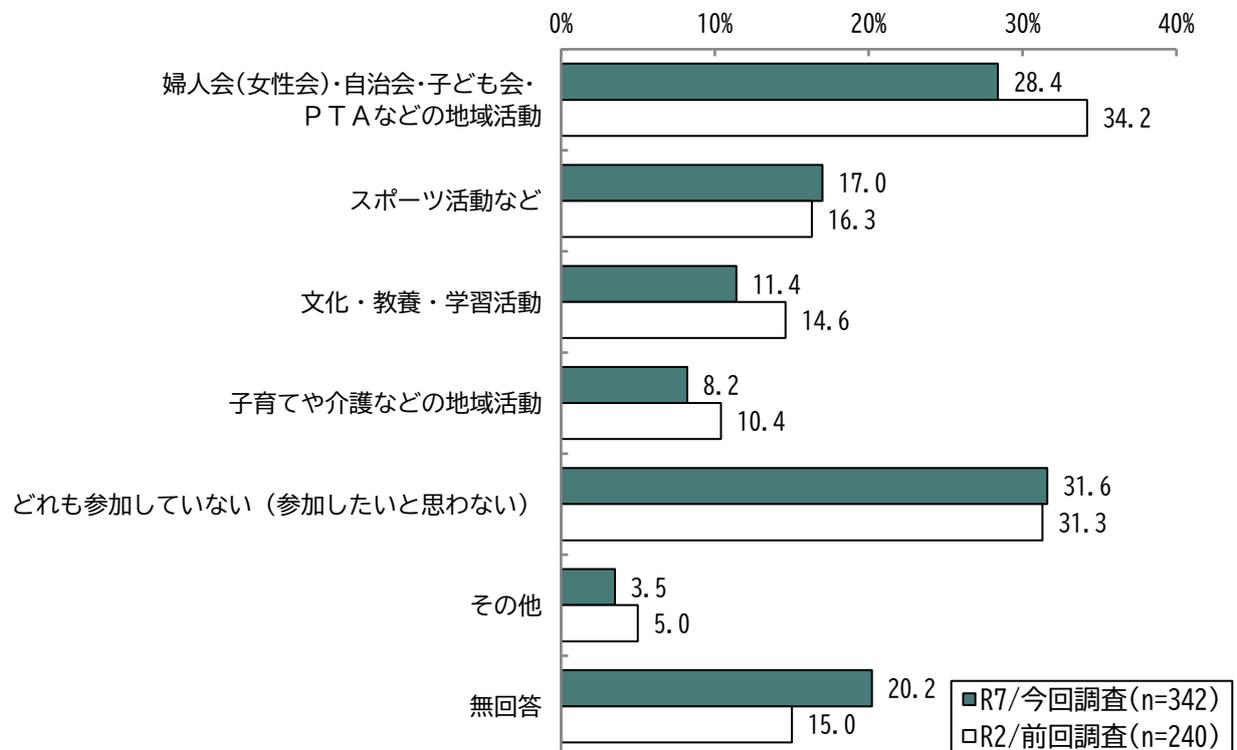
【全体の傾向】

現在関わっている活動では、「婦人会(女性会)・自治会・子ども会・PTAなどの地域活動」が28.4%と高く、次いで「スポーツ活動など」(17.0%)、「文化・教養・学習活動」(11.4%)、「子育てや介護などの地域活動」(8.2%)となっています。

一方、「どれも参加していない(参加したいと思わない)」は31.6%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「婦人会(女性会)・自治会・子ども会・PTAなどの地域活動」が5.8ポイント減少しています。

図表 55 現在関わっている活動(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

現在関わっている活動を性別で見ると、上位3項目に違いはみられません。

年齢別で見ると、10～50歳代では「どれも参加していない（参加したいと思わない）」が第1位となっていますが、60歳以上では「婦人会（女性会）・自治会・子ども会・PTAなどの地域活動」が第1位となっています。

図表 56 現在関わっている活動（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		どれも参加していない (参加したいと思わない)	婦人会(女性会)・自治会・ 子ども会・PTAなどの地 域活動	スポーツ活動など
		31.6	28.4	17.0
性別	男性(n=137)	どれも参加していない (参加したいと思わない)	婦人会(女性会)・自治会・ 子ども会・PTAなどの地 域活動	スポーツ活動など
		31.4	27.7	16.1
	女性(n=195)	どれも参加していない (参加したいと思わない)	婦人会(女性会)・自治会・ 子ども会・PTAなどの地 域活動	スポーツ活動など
		31.8	29.7	17.4
年齢別	10～30歳代 (n=96)	どれも参加していない (参加したいと思わない)	スポーツ活動など	婦人会(女性会)・自治会・ 子ども会・PTAなどの地 域活動
		33.3	22.9	19.8
	40～50歳代 (n=104)	どれも参加していない (参加したいと思わない)	婦人会(女性会)・自治会・ 子ども会・PTAなどの地 域活動	スポーツ活動など
		39.4	32.7	16.3
	60歳以上 (n=140)	婦人会(女性会)・自治会・ 子ども会・PTAなどの地 域活動	どれも参加していない (参加したいと思わない)	スポーツ活動など／文 化・教養・学習活動
		30.7	25.0	13.6

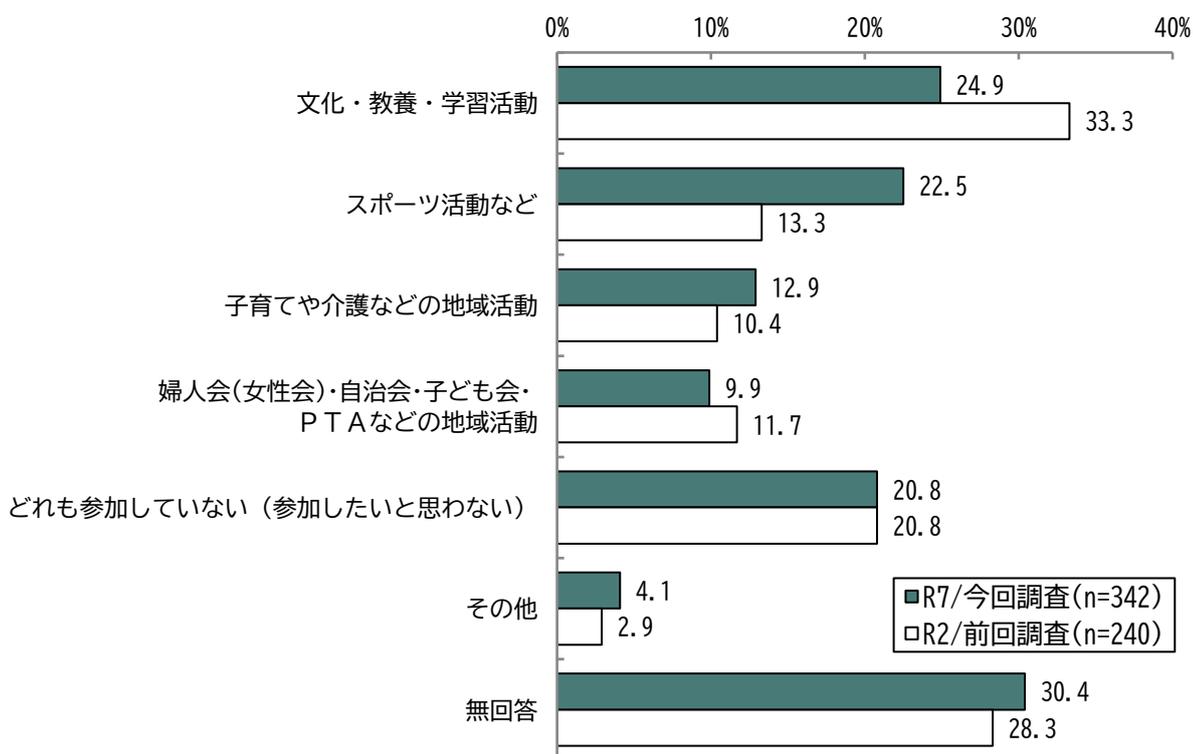
(2) これからやってみたい活動

【全体の傾向】

これからやってみたい活動では、「文化・教養・学習活動」が24.9%と最も高く、次いで「スポーツ活動など」(22.5%)、「子育てや介護などの地域活動」(12.9%)、「婦人会(女性会)・自治会・子ども会・PTAなどの地域活動」(9.9%)となっています。

一方、「どれも参加していない(参加したいと思わない)」は20.8%となっています。

図表 57 これからやってみたい活動(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

これからやってみたい活動を性別で見ると、第1位は、男性では「スポーツ活動など」「どれも参加していない（参加したいと思わない）」、女性では「文化・教養・学習活動」が第1位となっています。

年齢別で見ると、第1位は、10～30歳代では「スポーツ活動など」、40歳以上では「文化・教養・学習活動」となっています。

図表 58 これからやってみたい活動（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		文化・教養・学習活動 24.9	スポーツ活動など 22.5	どれも参加していない （参加したいと思わ ない） 20.8
性別	男性(n=137)	スポーツ活動など／どれも参加していない（参加し たいと思わない） 21.2		文化・教養・学習活動 19.0
	女性(n=195)	文化・教養・学習活動 30.3	スポーツ活動など 24.1	どれも参加していない （参加したいと思わ ない） 20.0
年齢別	10～30歳代 (n=96)	スポーツ活動など 34.4	文化・教養・学習活動 29.2	どれも参加していない （参加したいと思わ ない） 22.9
	40～50歳代 (n=104)	文化・教養・学習活動 28.8	どれも参加していない （参加したいと思わ ない） 27.9	スポーツ活動など 26.9
	60歳以上 (n=140)	文化・教養・学習活動 19.3	どれも参加していない （参加したいと思わ ない） 14.3	スポーツ活動など 11.4

2 女性が代表者になることについて

問 17 地域活動において女性が代表者になることについてどのようにお考えですか。(○は1つ)

【全体の傾向】

「女性も積極的に参画する方がよい」が59.6%と最も高く、次いで「女性が参画することは賛成だが、現実にはむずかしい」(22.8%)、「わからない」(9.9%)となっています。

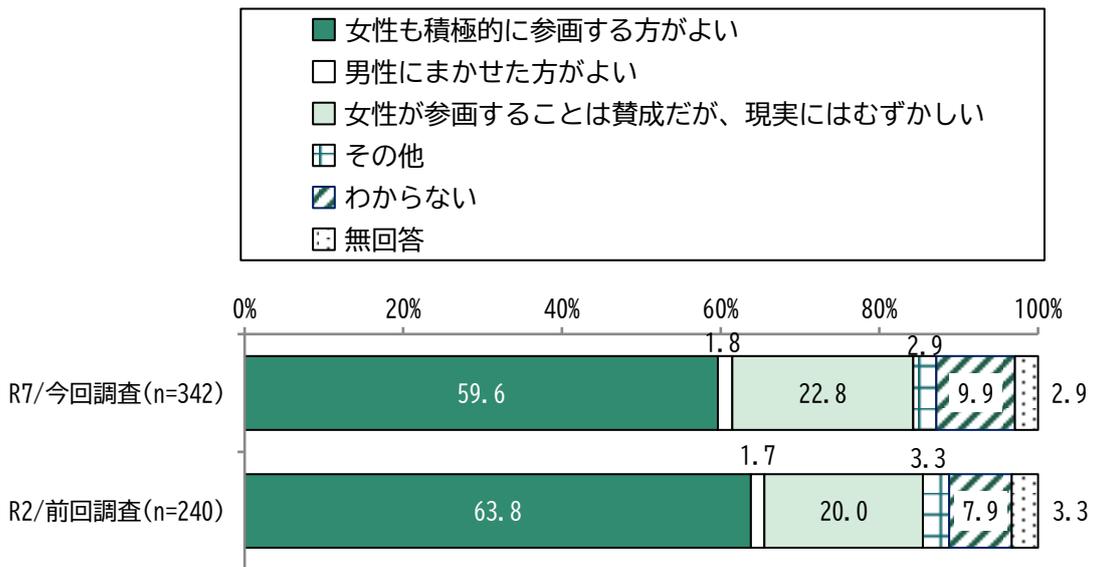
前回調査と比較すると、「女性も積極的に参画する方がよい」が4.2ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

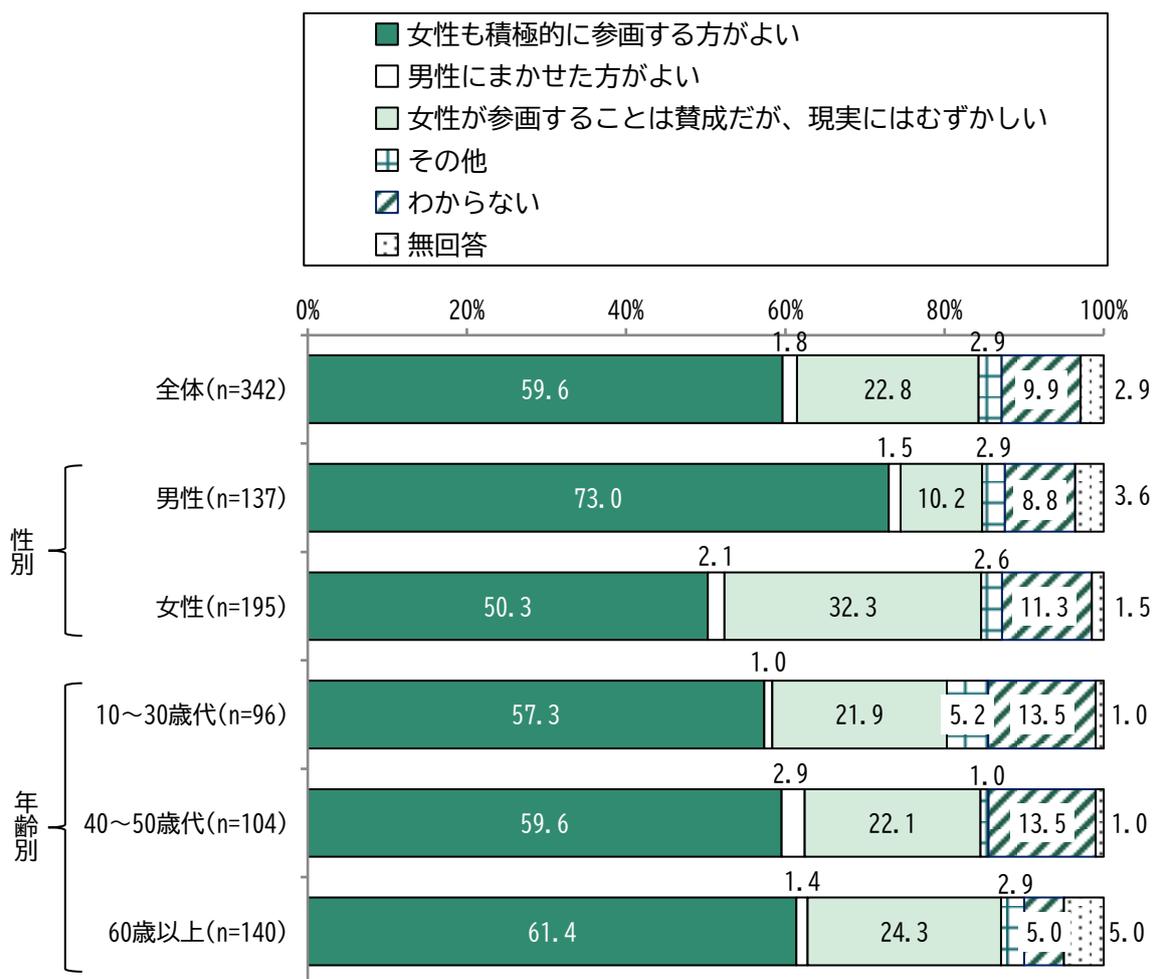
性別でみると、男女ともに「女性も積極的に参画する方がよい」が最も高くなっていますが、割合に大差がみられ、男性が22.7ポイント上回っています。次いで「女性が参画することは賛成だが、現実にはむずかしい」については、女性が22.1ポイント上回っています。

年齢別でみると、「女性も積極的に参画する方がよい」が最も高くなっており、年齢が上がるにつれ高くなっています。

図表 59 女性が代表者になることについての考え（全体、前回比較）



図表 60 女性が代表者になることについての考え（全体、性別、年齢別）



8 妊娠・出産について

1 妊娠・出産についての考え

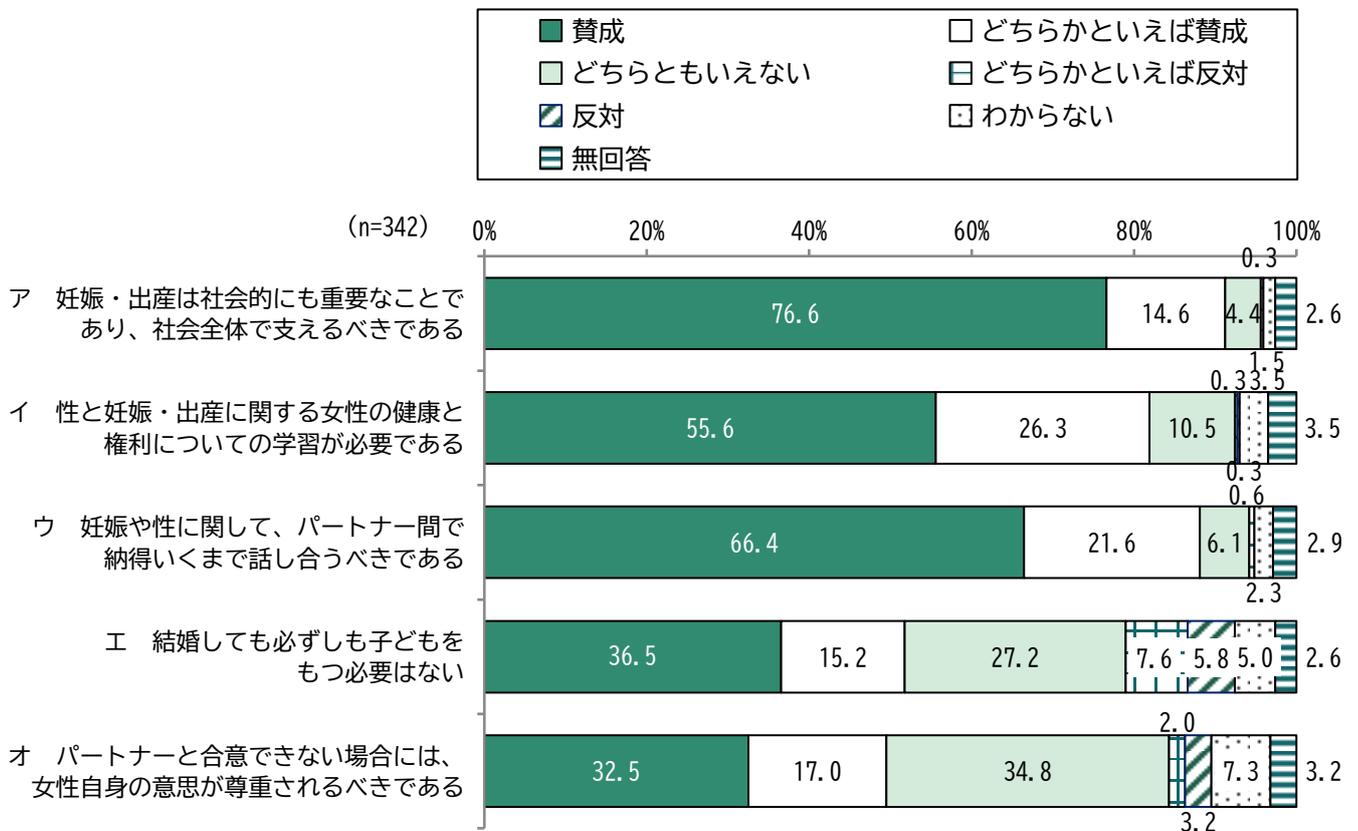
問 18 妊娠・出産を担う女性は、男性と異なった体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身ともに健康であるために、あなたは次のア～エについてどう思いますか。
(○は各項目ごとに1つずつ)

【全体の傾向】

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』の割合をみると、“ア 妊娠・出産は社会的にも重要なことであり、社会全体で支えるべきである”が91.2%と最も高く、次いで“ウ 妊娠や性に関して、パートナー間で納得いくまでで話し合うべきである”（88.0%）、“イ 性と妊娠・出産に関する女性の健康と権利についての学習が必要である”（81.9%）となっています。

一方、“オ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである”については、「どちらともいえない」が34.8%と最も高くなっており、『賛成』の割合は、49.5%と他の項目と比較して低くなっています。

図表 61 心身の健康について（全体）

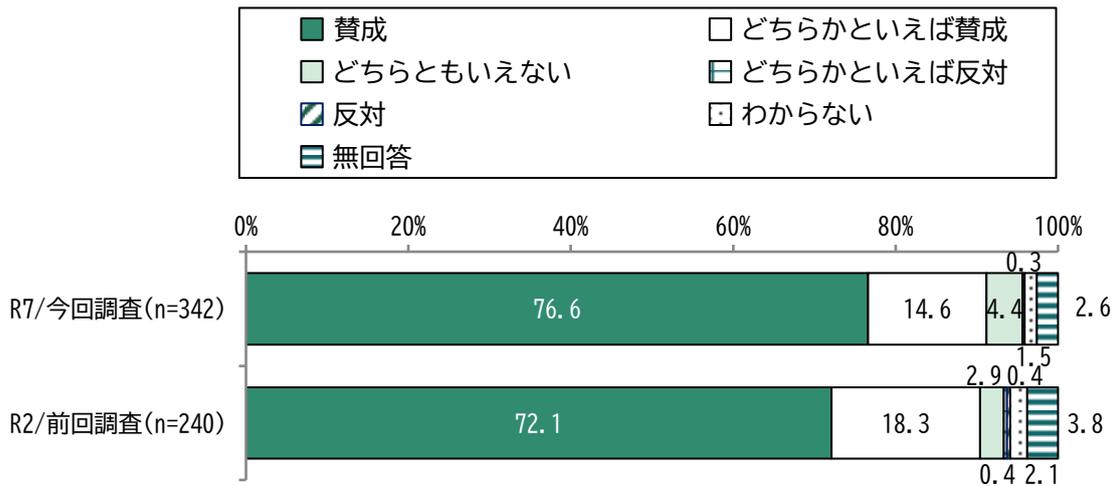


【前回比較】

前回調査と比較すると、『賛成』の割合は、いずれも増加しています。特に“エ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない”は4.6ポイント増加しており、また、前回調査では「どちらともいえない」が最も高かったのに対し、今回調査では「賛成」が最も高くなっています。

図表 62 心身の健康について（前回比較）

ア 妊娠・出産は社会的にも重要なことであり、社会全体で支えるべきである



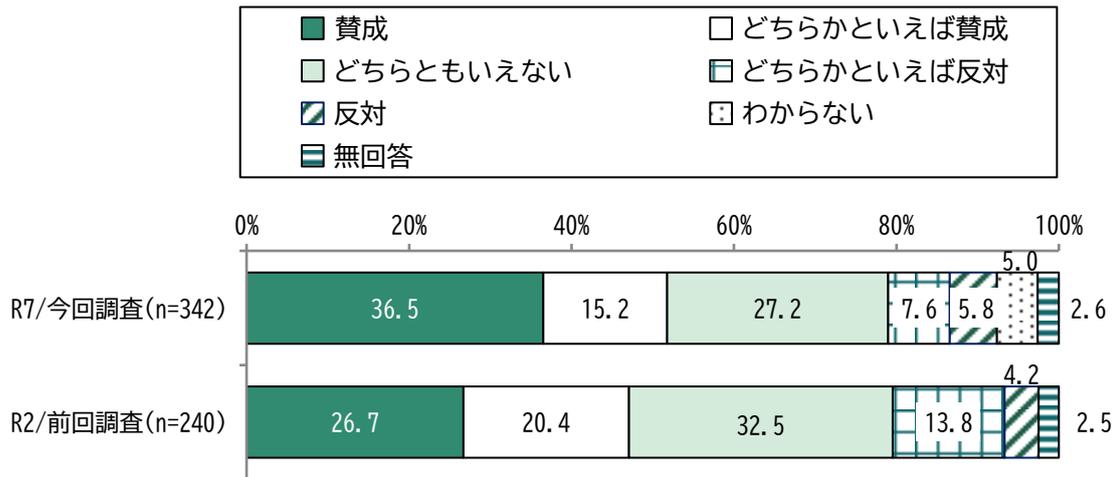
イ 性と妊娠・出産に関する女性の健康と権利についての学習が必要である



ウ 妊娠や性に関して、パートナー間で納得いくまで話し合うべきである



エ 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



オ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである

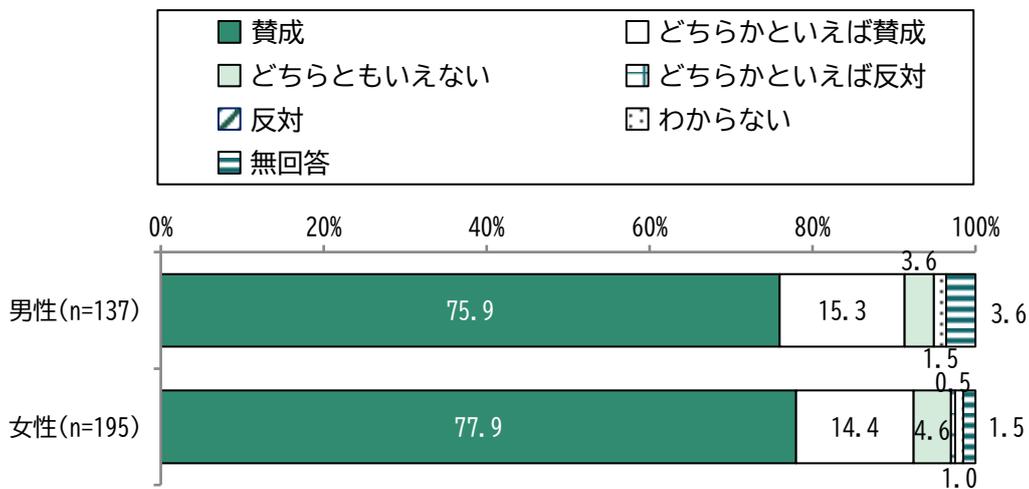


【属性別の傾向】

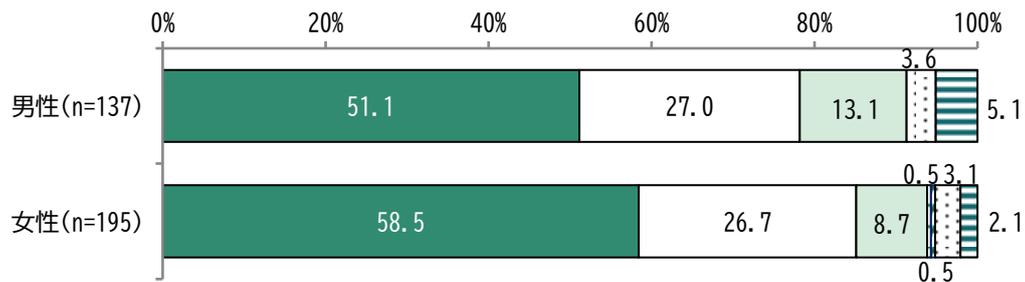
性別でみると、『賛成』の割合は、いずれの項目も女性が男性の割合を上回っており、特に、“エ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない”は16.8ポイント上回っています。また、“オ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである”では、男性は「どちらともいえない」が最も高くなっており、『賛成』の割合が最も高くなっていない他の項目との違いがみられます。

図表 63 心身の健康について（性別）

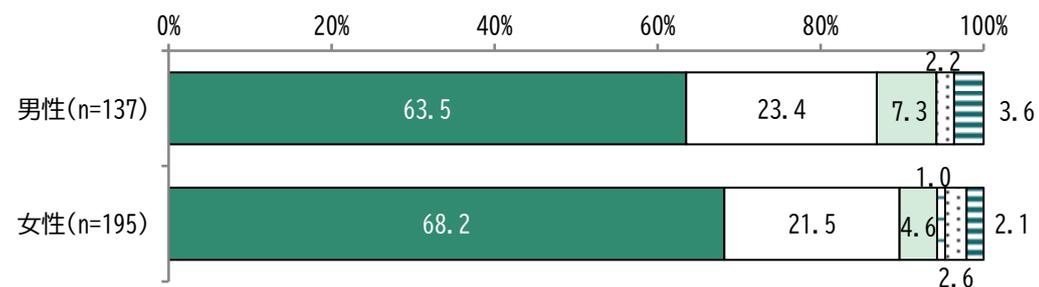
ア 妊娠・出産は社会的にも重要なことであり、社会全体で支えるべきである



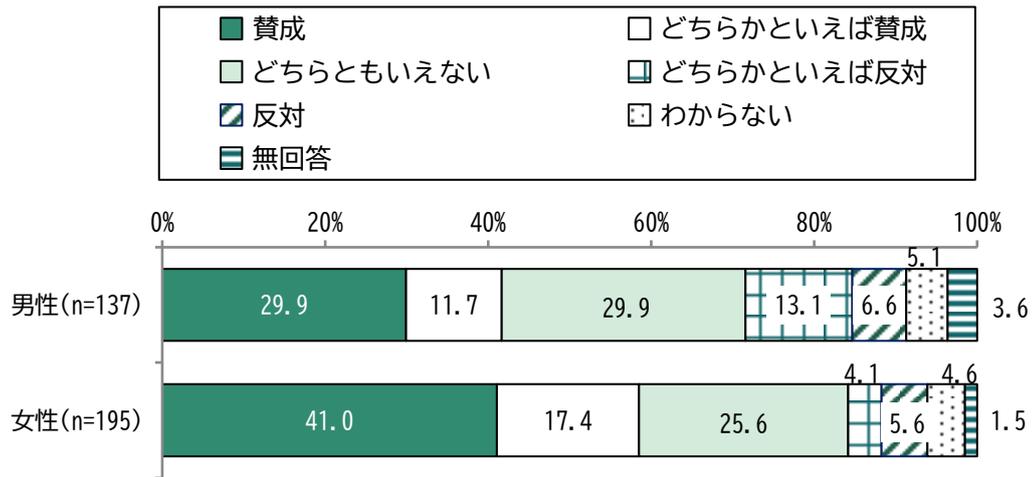
イ 性と妊娠・出産に関する女性の健康と権利についての学習が必要である



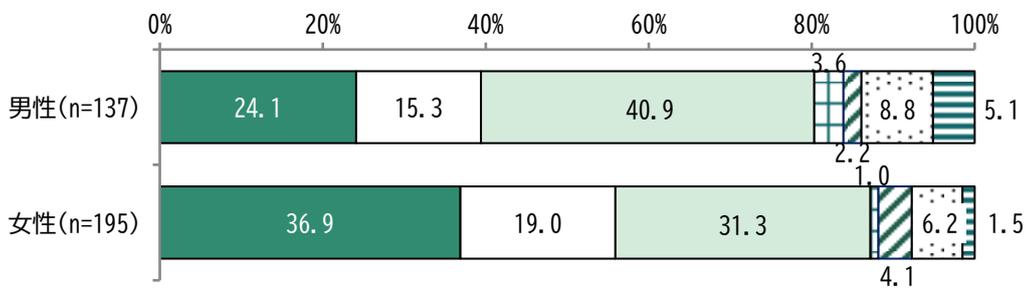
ウ 妊娠や性に関して、パートナー間で納得いくまで話し合うべきである



エ 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



オ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである

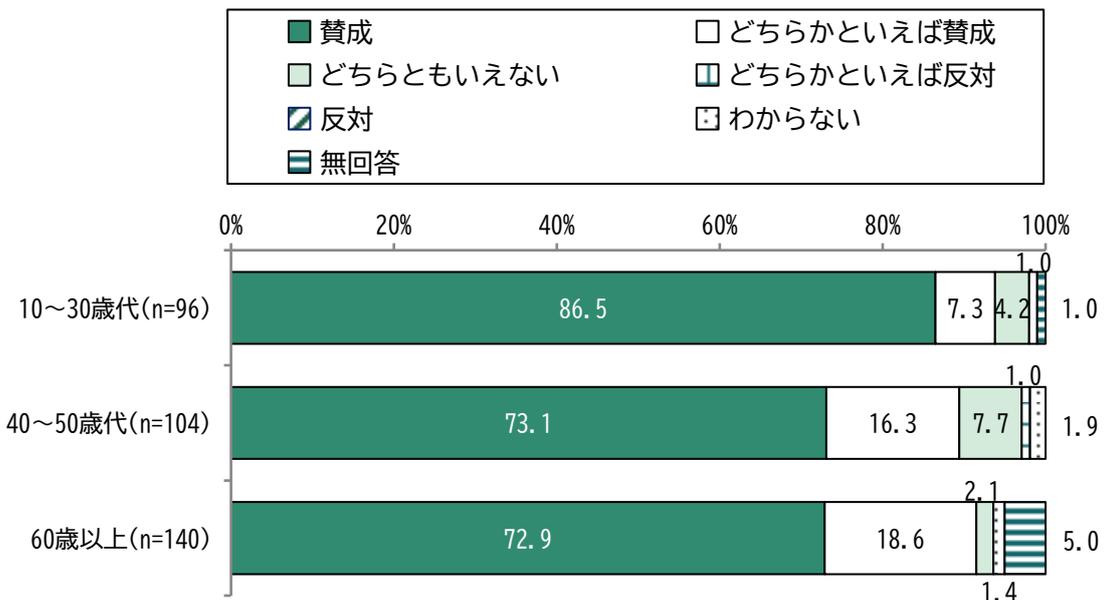


年齢別でみると、『賛成』の割合は、“ア 妊娠・出産は社会的にも重要なことであり、社会全体で支えるべきである”については、いずれの年齢も8割以上を占めています。

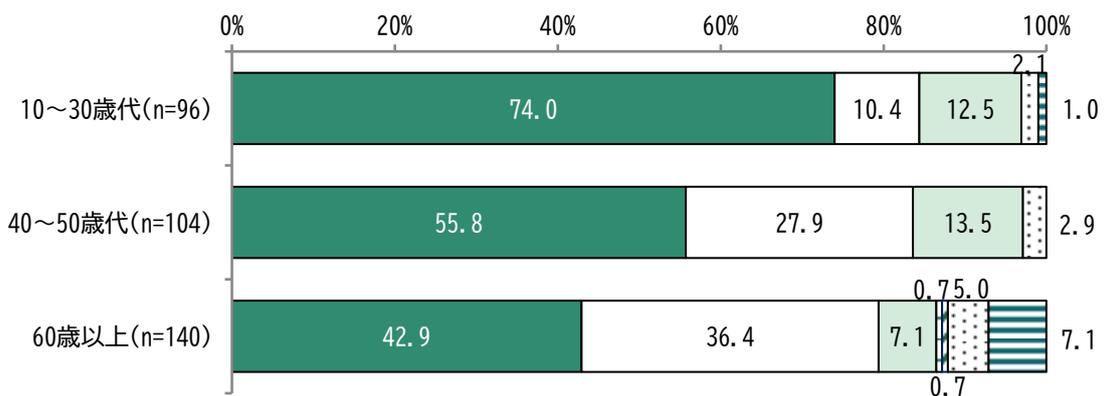
一方、イ～オの項目では、『賛成』の割合は年齢が上がるにつれ低くなっており、特に、“エ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない”、“オ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである”ではその傾向が顕著に表れています。

図表 64 心身の健康について（年齢別）

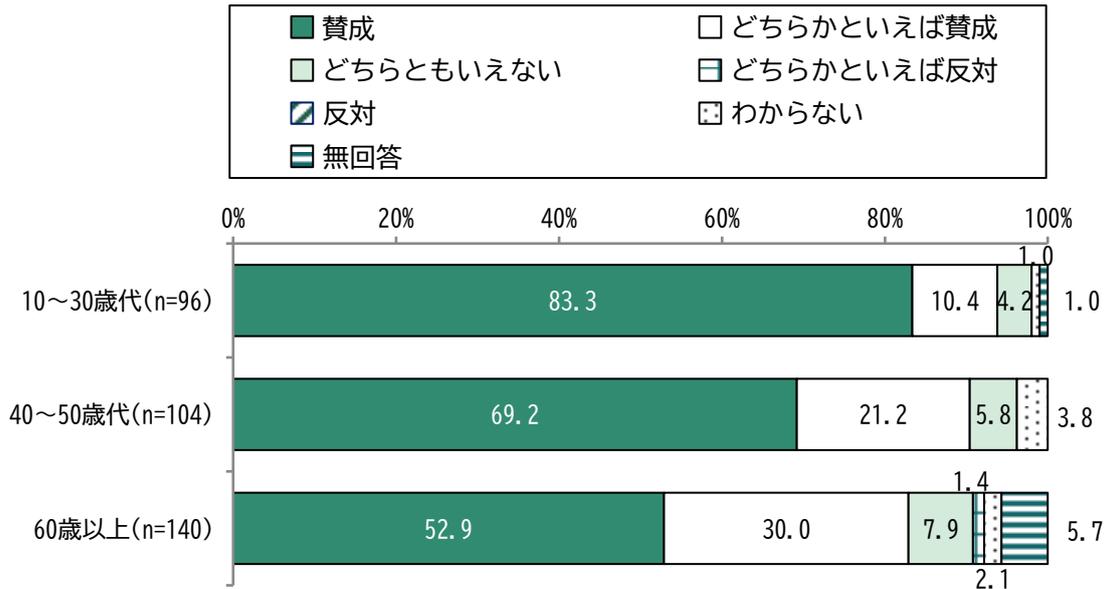
ア 妊娠・出産は社会的にも重要なことであり、社会全体で支えるべきである



イ 性と妊娠・出産に関する女性の健康と権利についての学習が必要である



ウ 妊娠や性に関して、パートナー間で納得いくまで話し合うべきである



エ 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



オ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである



2 妊娠・出産のための支援について

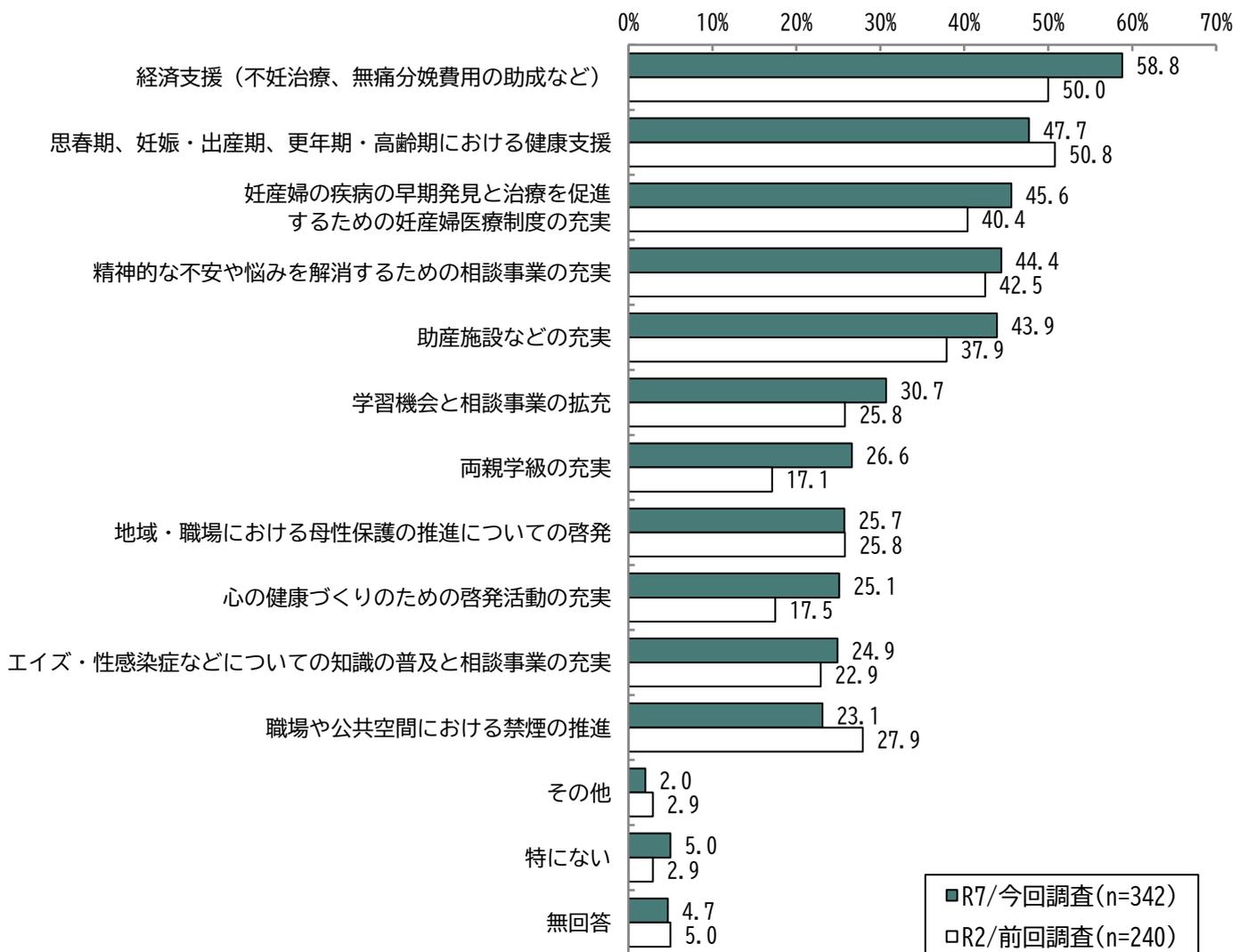
問 19 妊娠、出産のために、どのような支援を望みますか。(〇はいくつでも)

【全体の傾向】

「経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など）」が 58.8%と最も高く、次いで「思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援」（47.7%）、「妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実」（45.6%）となっています。

前回調査と比較すると、「両親学級の充実」が 9.5 ポイント、「経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など）」が 8.8 ポイント、「心の健康づくりのための啓発活動の充実」が 7.6 ポイントそれぞれ増加しています。

図表 65 妊娠、出産のために望む支援（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別で見ると、男女ともに「経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など）」が第1位となっています。

一方、男性の第3位に「精神的な不安や悩みを解消するための相談事業の充実」、女性の第2位に「思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援」が挙げられています。

年齢別で見ると、いずれの年齢においても第1位、2位は同様となっていますが、第3位に違いがみられ、10～30歳代、60歳以上では「妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実」、40～50歳代では「精神的な不安や悩みを解消するための相談事業の充実」となっています。

図表 66 妊娠、出産のために望む支援（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など） 58.8	思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援 47.7	妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実 45.6
性別	男性(n=137)	経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など） 56.9	妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実 42.3	精神的な不安や悩みを解消するための相談事業の充実 41.6
	女性(n=195)	経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など） 60.0	思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援 54.4	妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実 48.7
年齢別	10～30歳代(n=96)	経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など） 68.8	思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援 56.3	妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実 54.2
	40～50歳代(n=104)	経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など） 63.5	思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援 46.2	精神的な不安や悩みを解消するための相談事業の充実 45.2
	60歳以上(n=140)	経済支援（不妊治療、無痛分娩費用の助成など） 48.6	思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援 42.9	妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実 41.4

9 男女間の暴力について

1 ドメスティック・バイオレンスの経験

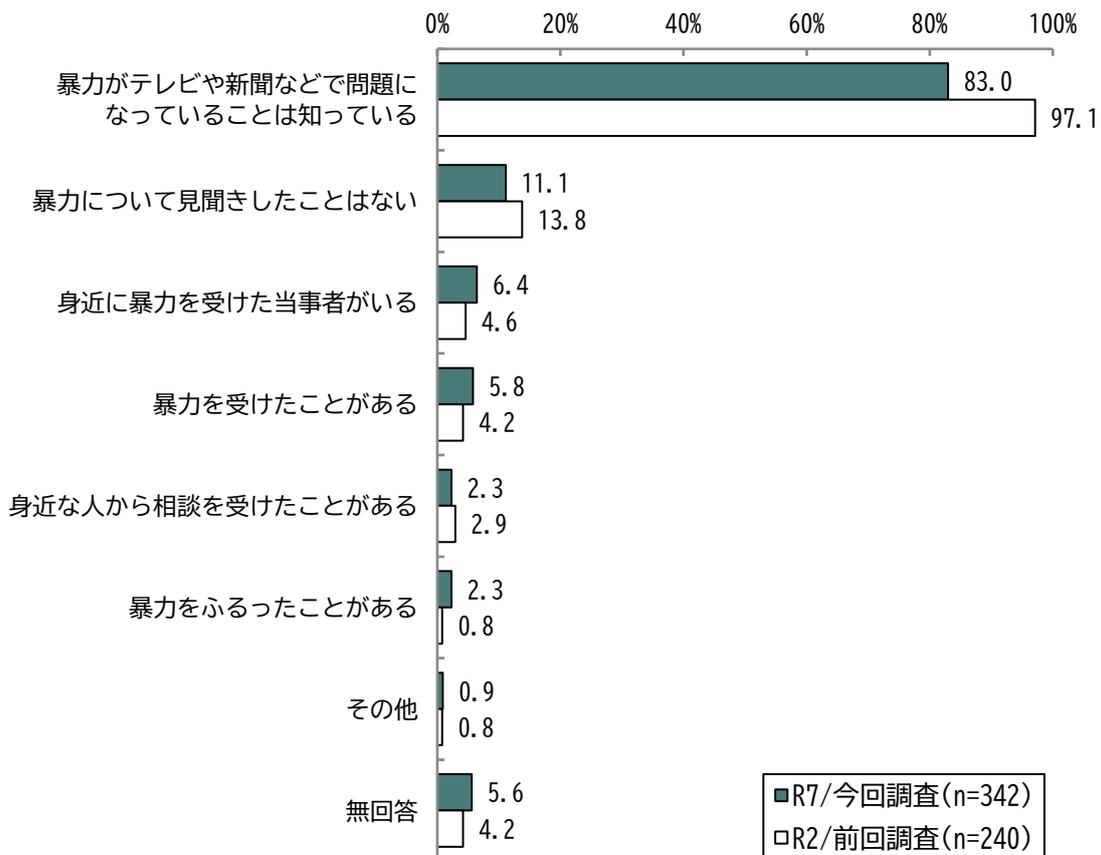
問 20 夫婦・恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が問題視されていますが、あなたはドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。（○はい/□いいえ）

【全体の傾向】

「暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が83.0%と最も高く、その割合は突出しています。次いで「暴力について見聞きしたことはない」（11.1%）、「身近に暴力を受けた当事者がいる」（6.4%）となっています。

前回調査と比較すると、「暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が14.1ポイント減少しています。

図表 67 ドメスティック・バイオレンスについて（全体、前回比較/複数回答）



【属性別の傾向】

性別でみると、男女ともに第2位までは同様の結果となっていますが、第3位に違いがみられ、男性では「身近に暴力を受けた当事者がいる」、女性では「暴力を受けたことがある」となっています。

年齢別でみると、10～30歳代、60歳以上では全体同様の結果となっていますが、40～50歳代で違いがみられ、第2位が「暴力を受けたことがある」となっています。

図表 68 ドメスティック・バイオレンスについて（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている 83.0	暴力について見聞きしたことはない 11.1	身近に暴力を受けた当事者がいる 6.4
性別	男性(n=137)	暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている 83.9	暴力について見聞きしたことはない 13.9	身近に暴力を受けた当事者がいる 5.1
	女性(n=195)	暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている 83.6	暴力について見聞きしたことはない 9.2	暴力を受けたことがある 8.2
年齢別	10～30歳代(n=96)	暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている 88.5	暴力について見聞きしたことはない 9.4	身近に暴力を受けた当事者がいる 5.2
	40～50歳代(n=104)	暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている 75.0	暴力を受けたことがある 10.6	暴力について見聞きしたことはない 9.6
	60歳以上(n=140)	暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている 85.7	暴力について見聞きしたことはない 13.6	身近に暴力を受けた当事者がいる 6.4

問 20 で「暴力を受けたことがある」「暴力をふるったことがある」と答えた方

問 20-1 あなたはその時、誰に相談しましたか。(○はいくつでも)

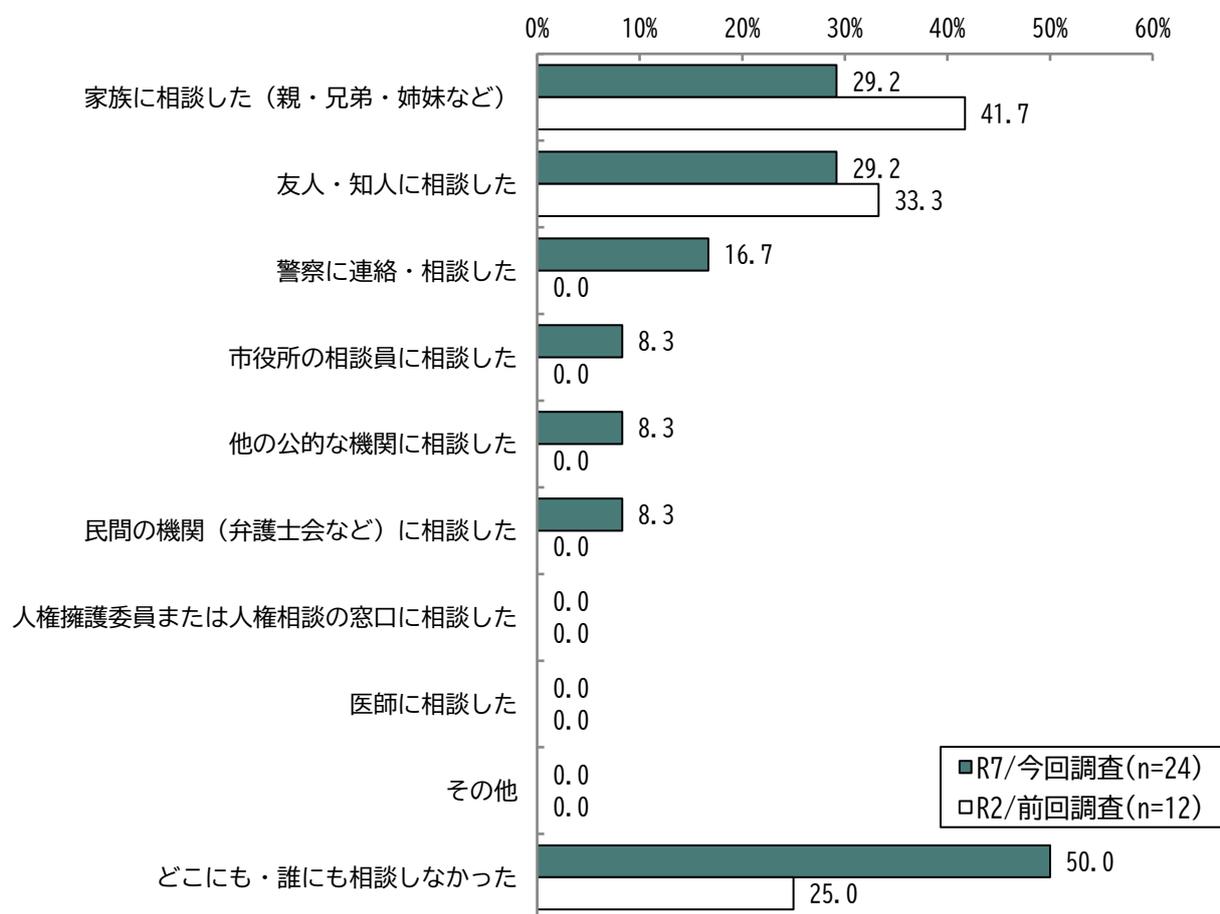
【全体の傾向】

暴力を受けた、またはふるった際の相談相手としては、「家族に相談した（親・兄弟・姉妹など）」「友人・知人に相談した」がともに 29.2%と高く、次いで「警察に連絡・相談した」（16.7%）となっています。

一方、「どこにも・誰にも相談しなかった」は 50.0%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「家族に相談した（親・兄弟・姉妹など）」が 12.5 ポイント減少し、「どこにも・誰にも相談しなかった」が 25.0 ポイント増加しています。

図表 69 相談相手（全体、前回比較／複数回答）



問 20-1 で「どこにも・誰にも相談しなかった」と答えた方

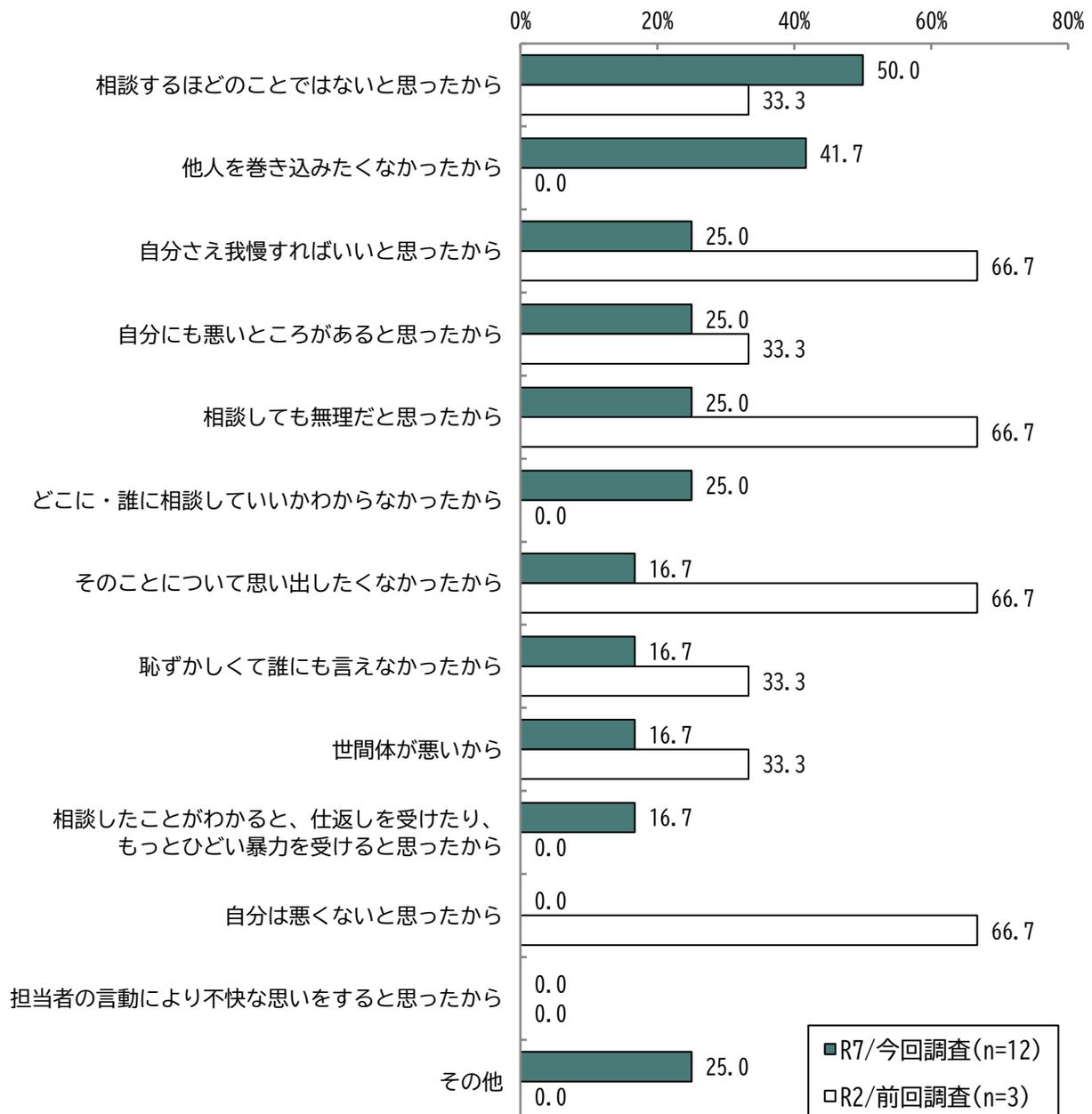
問 20-2 どこにも・誰にも相談しなかったのは、どのような理由からですか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「相談するほどのことではないと思ったから」が50.0%と最も高く、次いで「他人を巻き込みたくなかったから」(41.7%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「他人を巻き込みたくなかったから」、「どこにも・誰にも相談していいかわからなかったから」、「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けるといったこと」などの回答者が新たに増えています。

図表 70 相談しなかった理由（全体、前回比較／複数回答）



2 ドメスティック・バイオレンスをなくす方法について

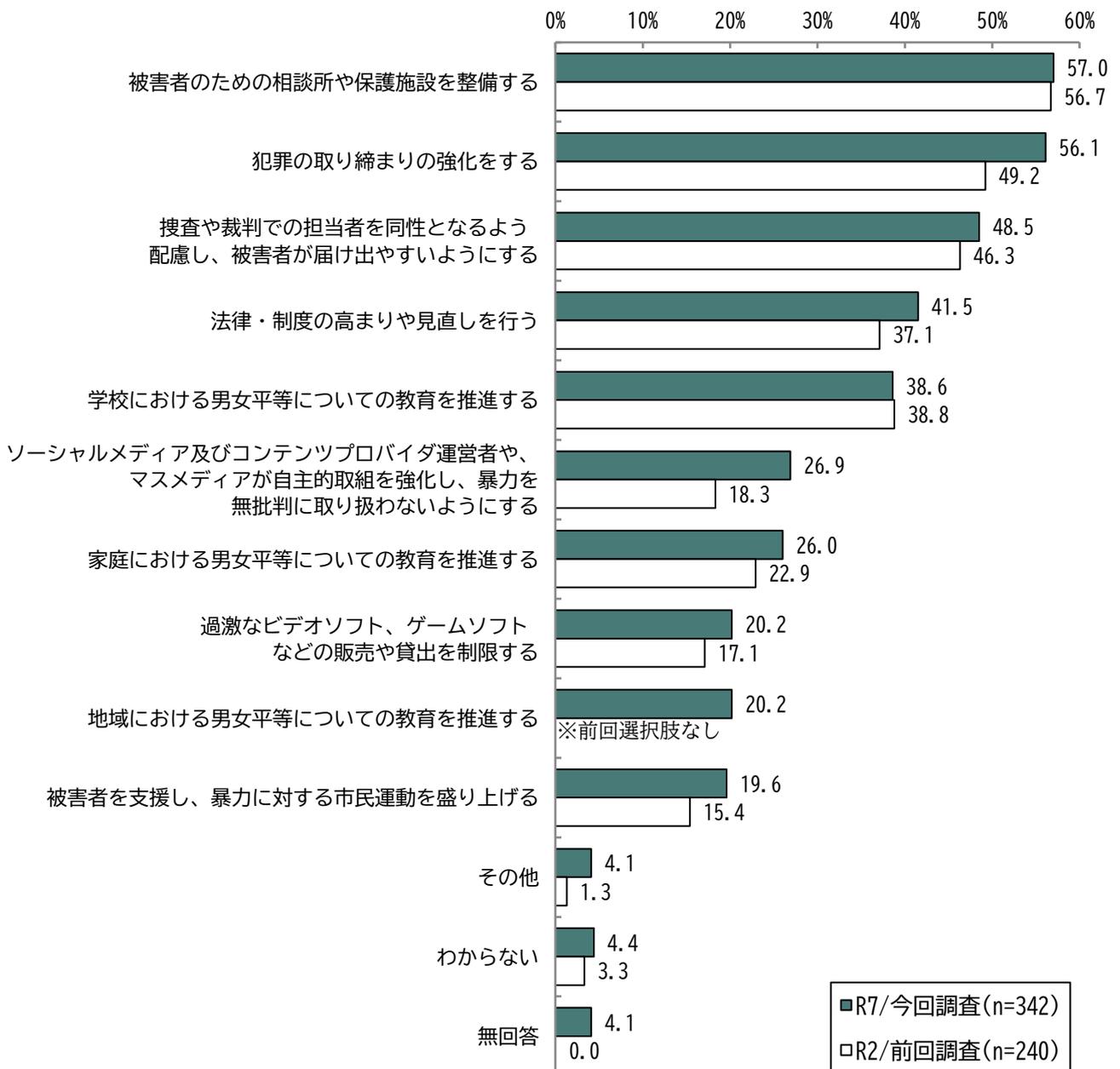
問21 ドメスティック・バイオレンス、セクシュアルハラスメント、性犯罪、売買春など、身体的・精神的・性的な暴力をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体の傾向】

「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が57.0%と最も高く、次いで「犯罪の取り締まりの強化をする」(56.1%)、「捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届け出やすいようにする」(48.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「ソーシャルメディア及びコンテンツプロバイダ運営者やマスメディアが自主的取組を強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする」が8.6ポイント増加しています。

図表 71 ドメスティック・バイオレンスをなくすためには (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

性別でみると、第1位は、男性では「犯罪の取り締まりの強化をする」、女性では「被害者のための相談所や保護施設を整備する」となっています。

年齢別でみると、大きな違いはみられませんが、40～50歳代では、「法律・制度の高まりや見直しを行う」が第3位に挙げられています。

図表 72 ドメスティック・バイオレンスをなくすためには（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		被害者のための相談所や保護施設を整備する 57.0	犯罪の取り締まりの強化をする 56.1	捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届け出やすいようにする 48.5
性別	男性(n=137)	犯罪の取り締まりの強化をする 56.2	被害者のための相談所や保護施設を整備する 49.6	捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届け出やすいようにする 43.8
	女性(n=195)	被害者のための相談所や保護施設を整備する 62.6	犯罪の取り締まりの強化をする 54.4	捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届け出やすいようにする 52.3
年齢別	10～30歳代(n=96)	被害者のための相談所や保護施設を整備する 62.5	犯罪の取り締まりの強化をする 61.5	捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届け出やすいようにする 53.1
	40～50歳代(n=104)	犯罪の取り締まりの強化をする／被害者のための相談所や保護施設を整備する 54.8		捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届け出やすいようにする／法律・制度の高まりや見直しを行う 49.0
	60歳以上(n=140)	被害者のための相談所や保護施設を整備する 55.0	犯罪の取り締まりの強化をする 53.6	捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届け出やすいようにする 45.0

10 困難な問題を抱える女性への支援に関することについて

1 女性支援法の認知状況

問 22 あなたは、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援法）」を知っていますか。
（○は1つ）

【全体の傾向】

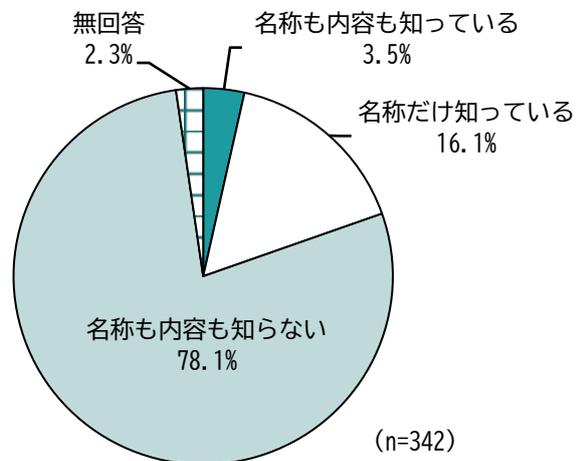
「名称も内容も知っている」が3.5%、「名称だけ知っている」が16.1%となっており、これらを合わせた『名称を知っている』割合は、19.6%と認知度は低くなっています。

【属性別の傾向】

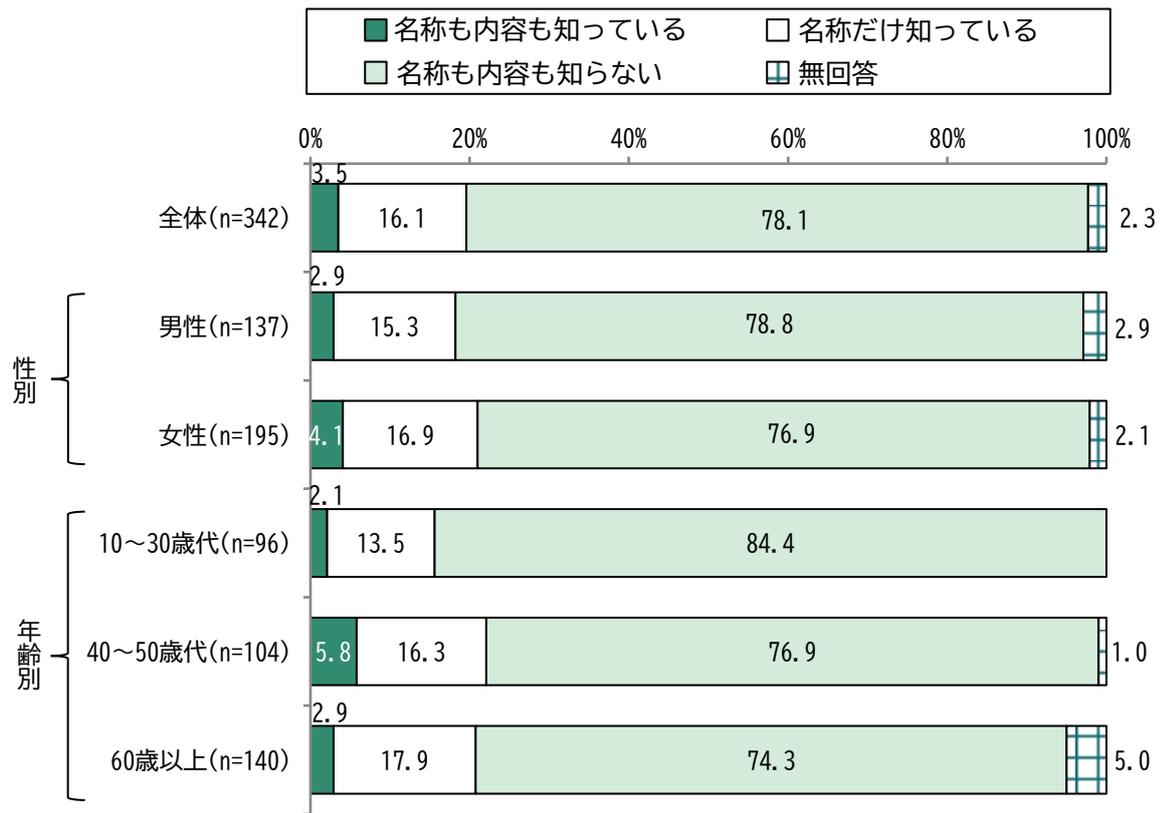
性別で見ると、『名称を知っている』の割合は、男性が18.2%、女性が21.0%と女性が上回っています。

年齢別で見ると、『名称を知っている』の割合は、40～50歳代が22.1%と最も高く、次いで60歳以上が20.8%、10～30歳代が15.6%となっています。

図表 73 女性支援法の認知状況（全体）



図表 74 女性支援法の認知状況（全体、性別、年齢別）



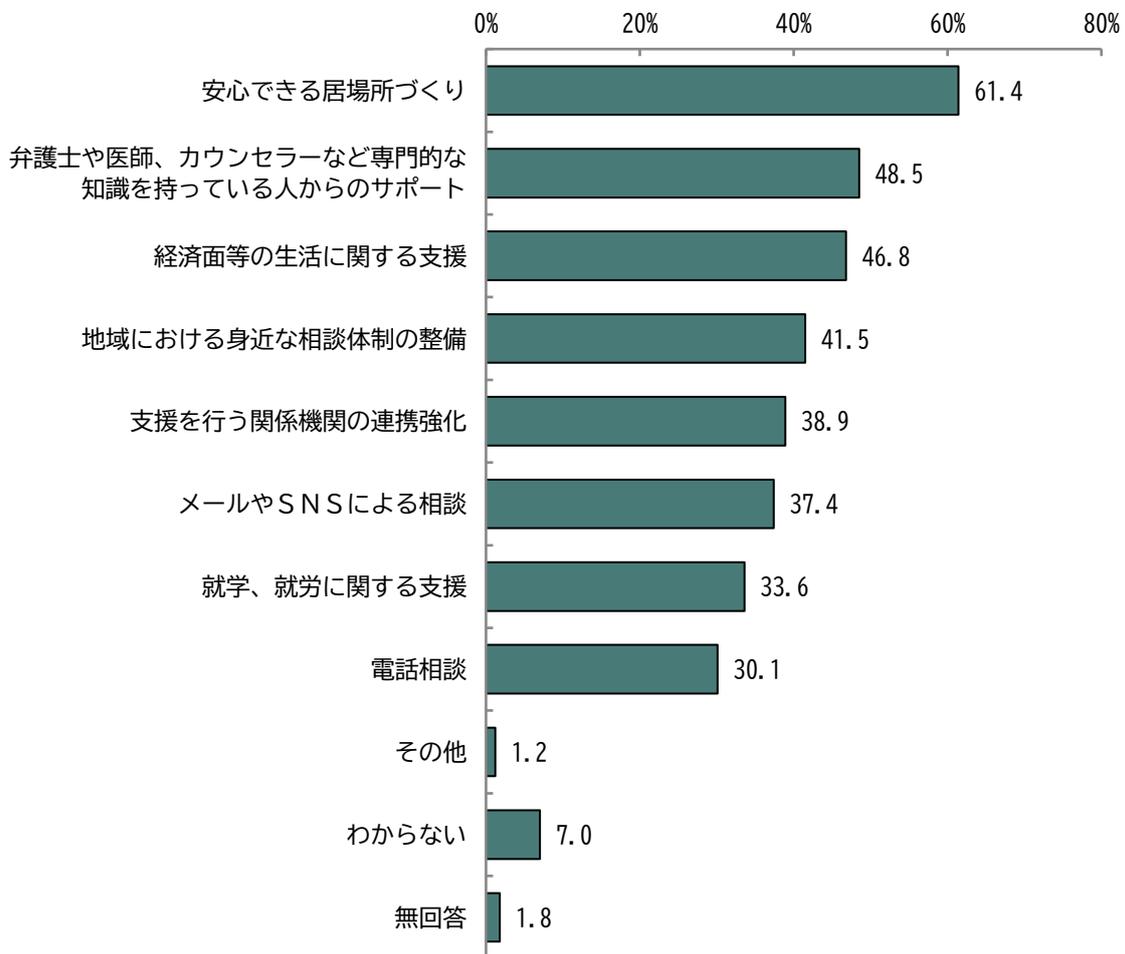
2 困難な問題を抱える女性への支援について

問 23 困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体の傾向】

「安心できる居場所づくり」が61.4%と最も高く、次いで「弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート」(48.5%)、「経済面等の生活に関する支援」(46.8%)となっています。

図表 75 効果的だと思う支援（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別でみると、男女ともに「安心できる居場所づくり」が第1位となっています。また、第2位については、男性では「弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート」、女性では「経済面等の生活に関する支援」となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢においても「安心できる居場所づくり」が第1位となっています。一方、60歳以上では「支援を行う関係機関の連携強化」が第3位に挙げられています。

図表 76 効果的だと思う支援（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		安心できる居場所づくり 61.4	弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート 48.5	経済面等の生活に関する支援 46.8
性別	男性(n=137)	安心できる居場所づくり 48.9	弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート 47.4	経済面等の生活に関する支援 43.1
	女性(n=195)	安心できる居場所づくり 69.2	経済面等の生活に関する支援 50.8	弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート 49.7
年齢別	10～30歳代(n=96)	安心できる居場所づくり 66.7	弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート／経済面等の生活に関する支援 50.0	
	40～50歳代(n=104)	安心できる居場所づくり 59.6	弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート 57.7	経済面等の生活に関する支援 49.0
	60歳以上(n=140)	安心できる居場所づくり 59.3	経済面等の生活に関する支援 43.6	支援を行う関係機関の連携強化／弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート 41.4

11 男女平等に関することについて

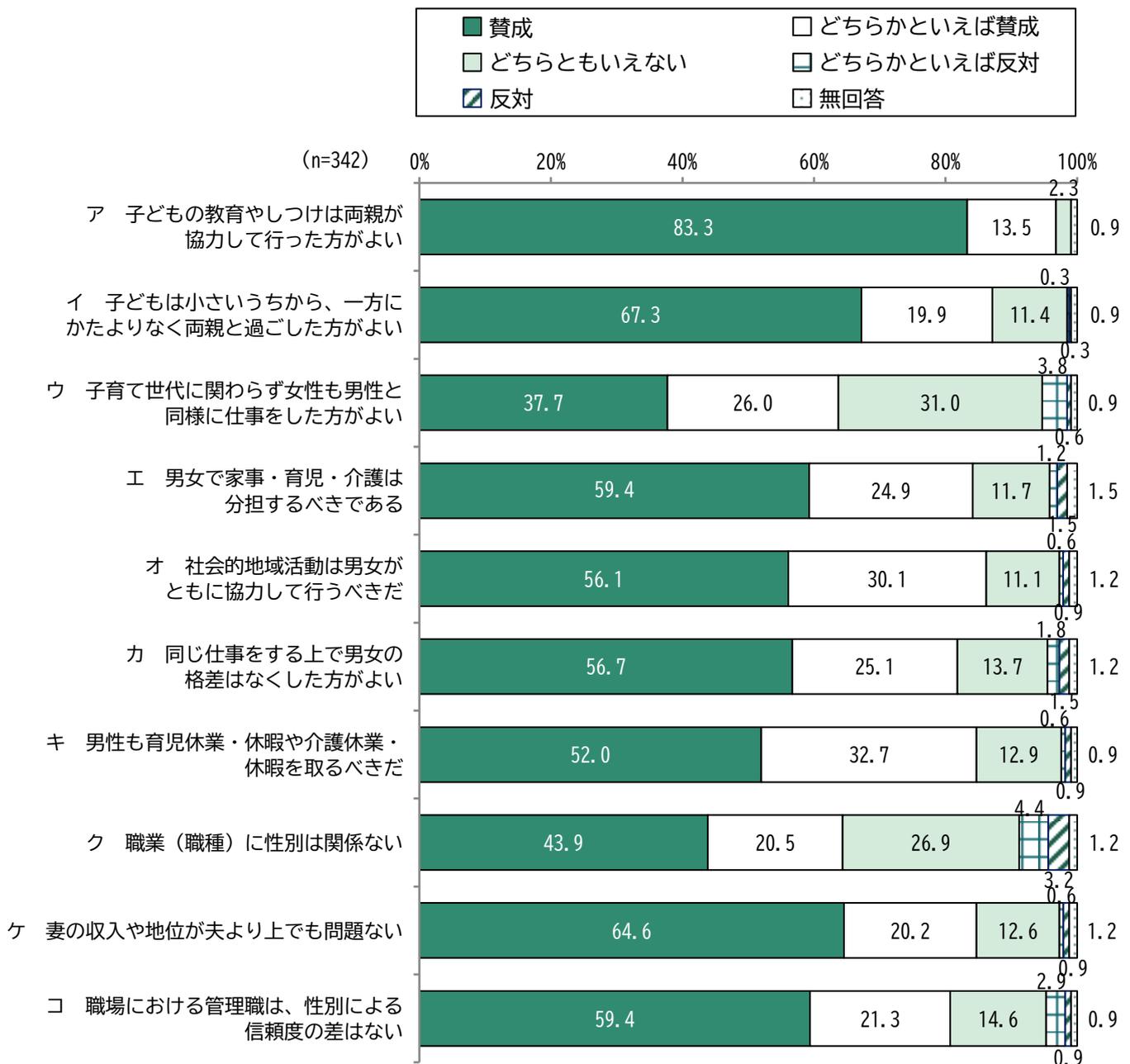
1 男女の役割などについて

問 24 あなたは、次に掲げる項目についてどのように思われますか。(○は各項目ごとに1つずつ)

【全体の傾向】

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』の割合をみると、“ウ 子育て世代に関わらず女性も男性と同様に仕事をした方がよい”、“ク 職業（職種）に性別は関係ない”では7割を下回っていますが、それ以外の項目では8割を超えており、特に“ア 子どもの教育やしつけは両親が協力して行った方がよい”では96.8%と大半を占めています。

図表 77 男女の役割などについて（全体）



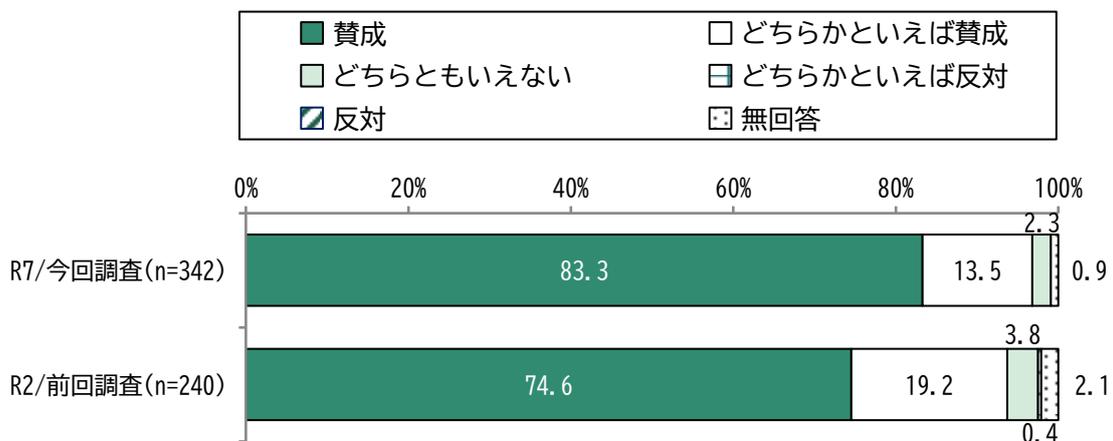
【前回比較】

前回調査と比較すると、“オ 社会的地域活動は男女がともに協力して行うべきだ”、“ク 職業（職種）に性別は関係ない”では『賛成』の割合がわずかに減少しています。

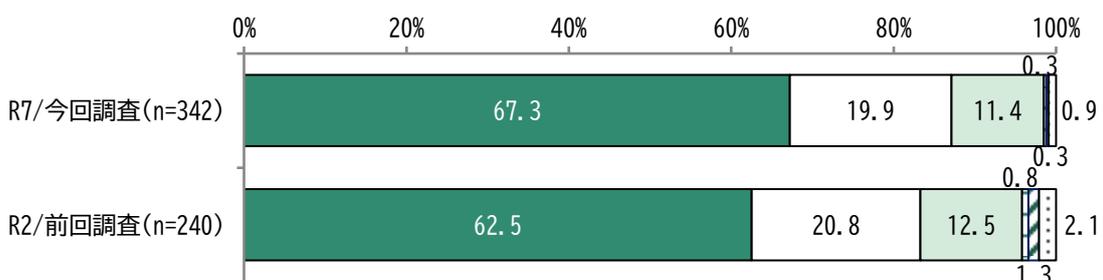
一方、それ以外の項目では『賛成』の割合は増加しており、特に“キ 男性も育児休業・休暇や介護休業・休暇を取るべきだ”が10.5ポイント、“コ 職場における管理職は、性別による信頼度の差はない”が9.5ポイント、“ケ 妻の収入や地位が夫より上でも問題ない”が7.3ポイント増加しています。

図表 78 男女の役割などについて（前回比較）

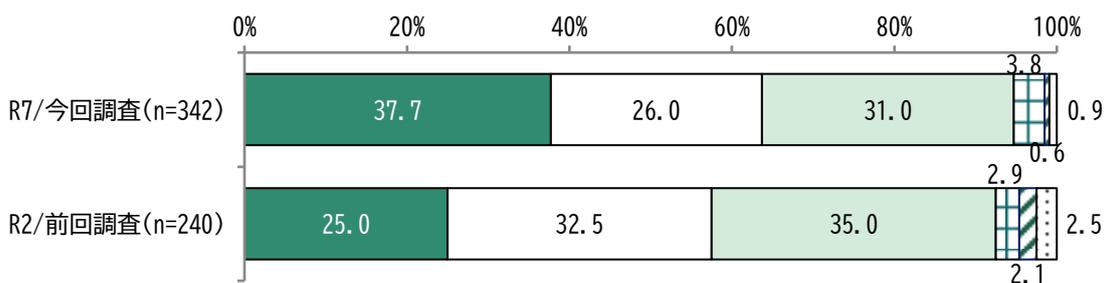
ア 子どもの教育やしつけは両親が協力して行った方がよい



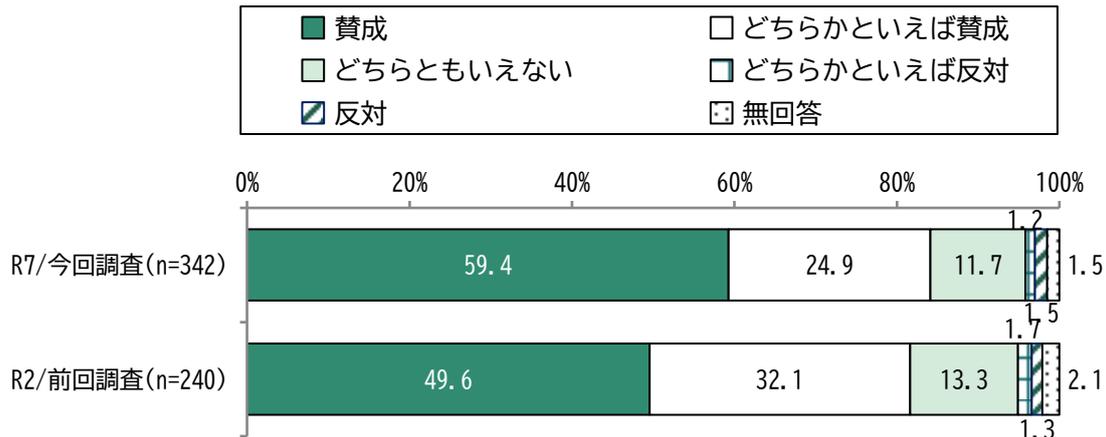
イ 子どもは小さいうちから、一方にかたよりなく両親と過ごした方がよい



ウ 子育て世代に関わらず女性も男性と同様に仕事をした方がよい



エ 男女で家事・育児・介護は分担するべきである



オ 社会的地域活動は男女がともに協力して行うべきだ



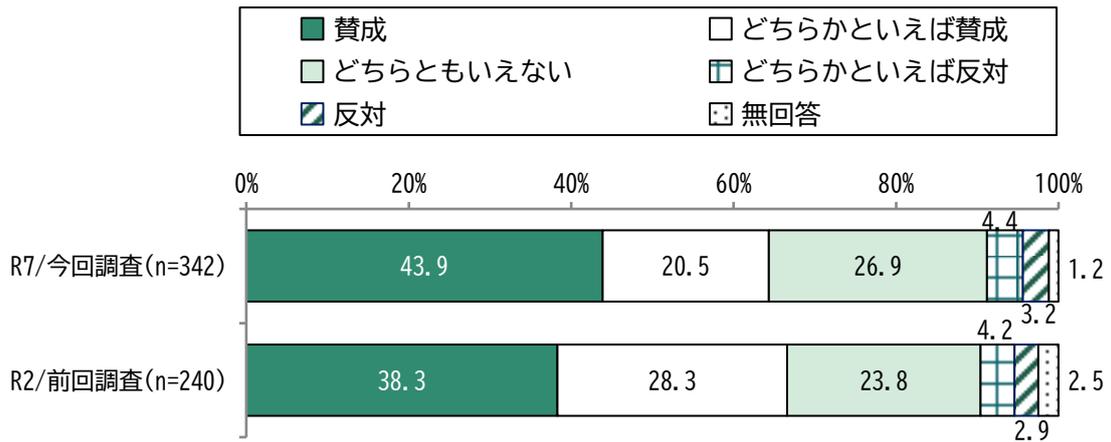
カ 同じ仕事をする上で男女の格差はなくした方がよい



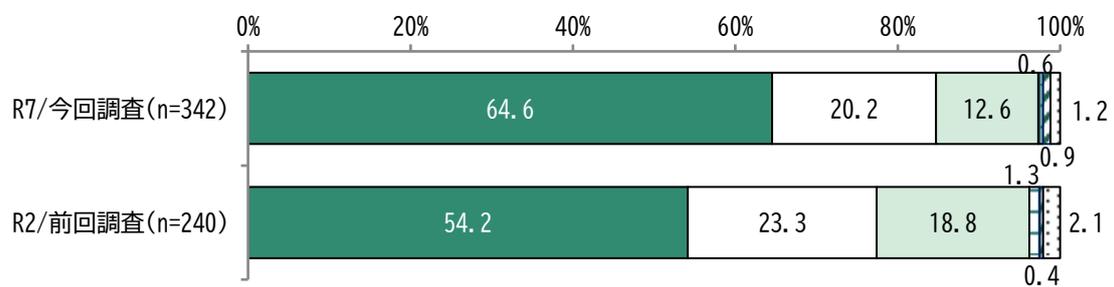
キ 男性も育児休業・休暇や介護休業・休暇を取るべきだ



ク 職業（職種）に性別は関係ない



ケ 妻の収入や地位が夫より上でも問題ない



コ 職場における管理職は、性別による信頼度の差はない

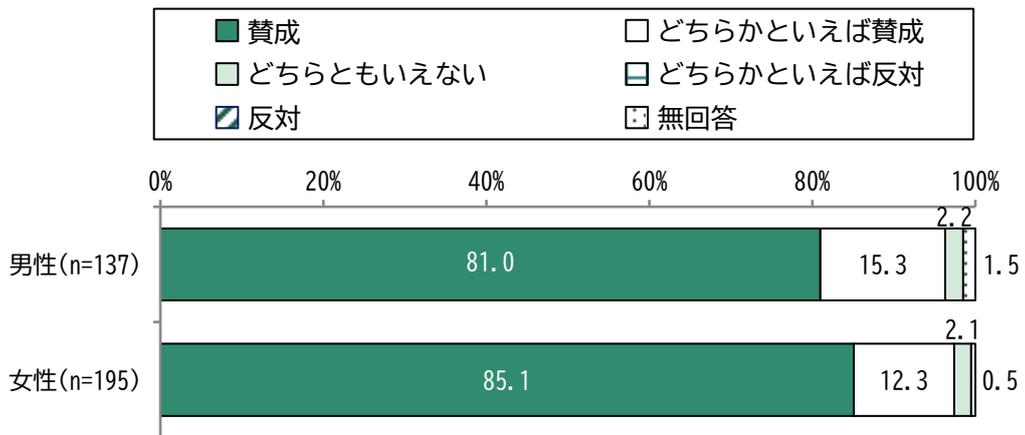


【属性別の傾向】

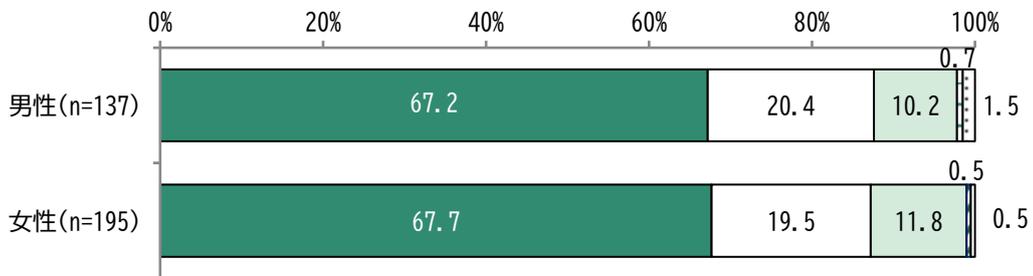
性別で見ると、『賛成』の割合は、ほとんどの項目で女性が男性を上回っています。特に“キ 男性も育児休業・休暇や介護休業・休暇を取るべきだ”が7.9ポイント、“エ 男女で家事・育児・介護は分担するべきである”が6.9ポイント、“オ 社会的地域活動は男女がともに協力して行うべきだ”が6.2ポイント女性が上回っています。

図表 79 男女の役割などについて（性別）

ア 子どもの教育やしつけは両親が協力して行った方がよい



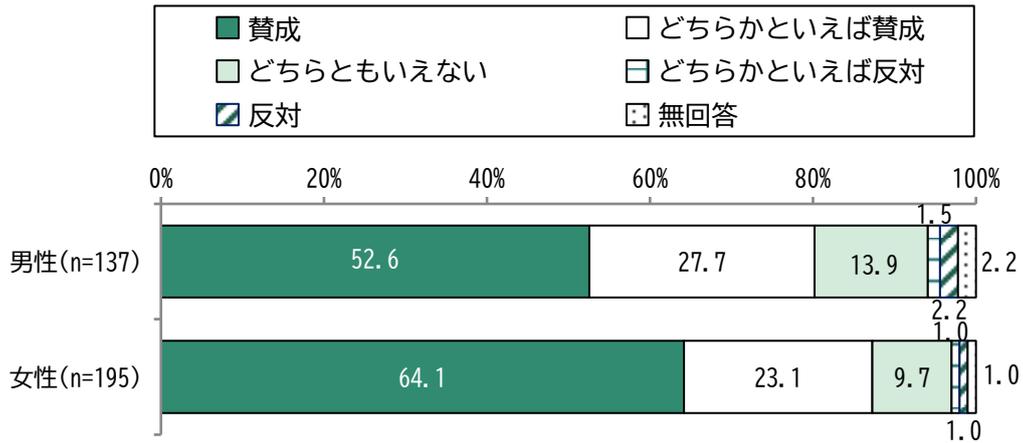
イ 子どもは小さいうちから、一方にかたよりなく両親と過ごした方がよい



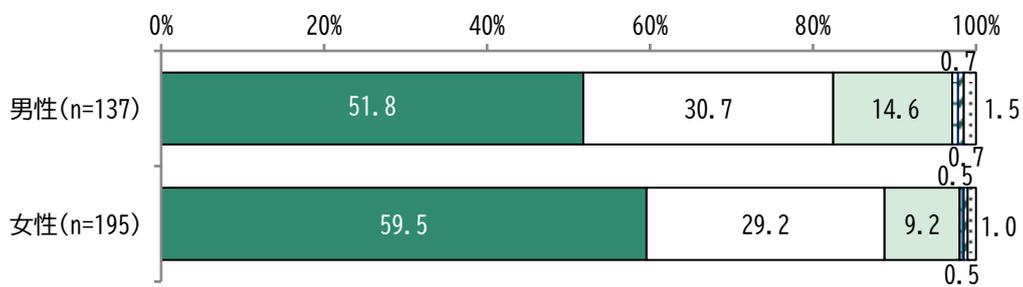
ウ 子育て世代に関わらず女性も男性と同様に仕事をした方がよい



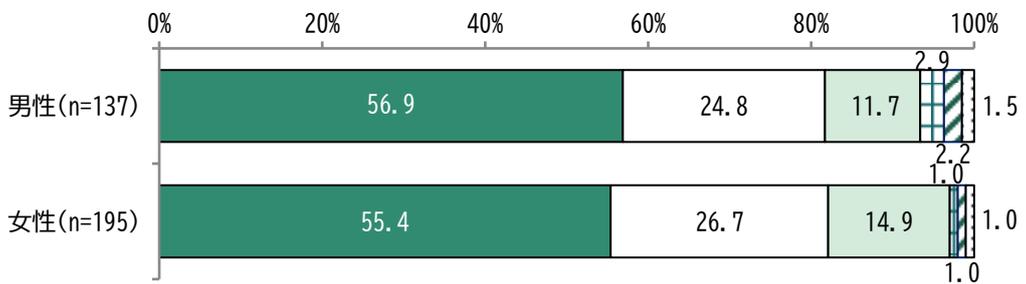
エ 男女で家事・育児・介護は分担するべきである



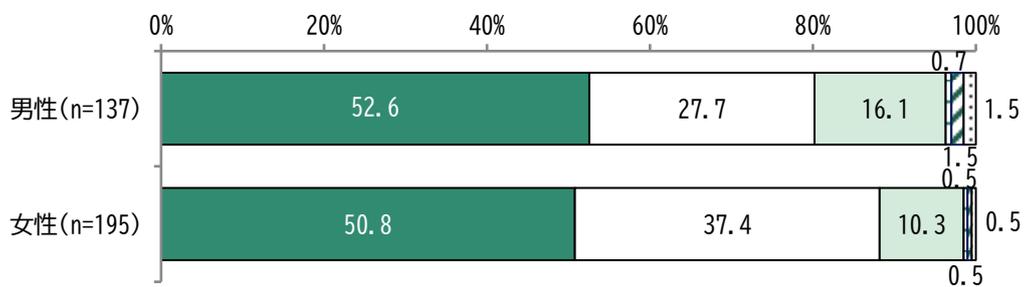
オ 社会的地域活動は男女がともに協力して行うべきだ



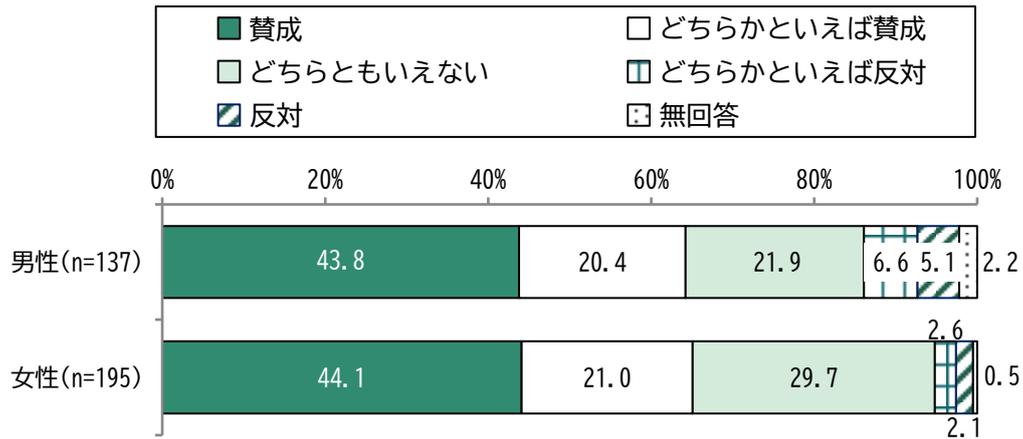
カ 同じ仕事をする上で男女の格差はなくした方がよい



キ 男性も育児休業・休暇や介護休業・休暇を取るべきだ



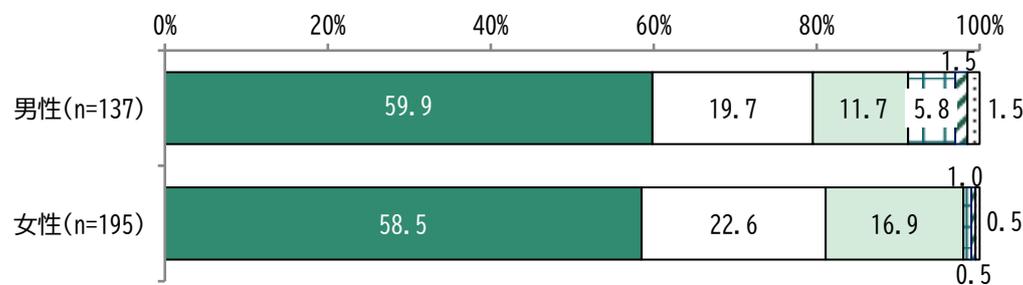
ク 職業（職種）に性別は関係ない



ケ 妻の収入や地位が夫より上でも問題ない



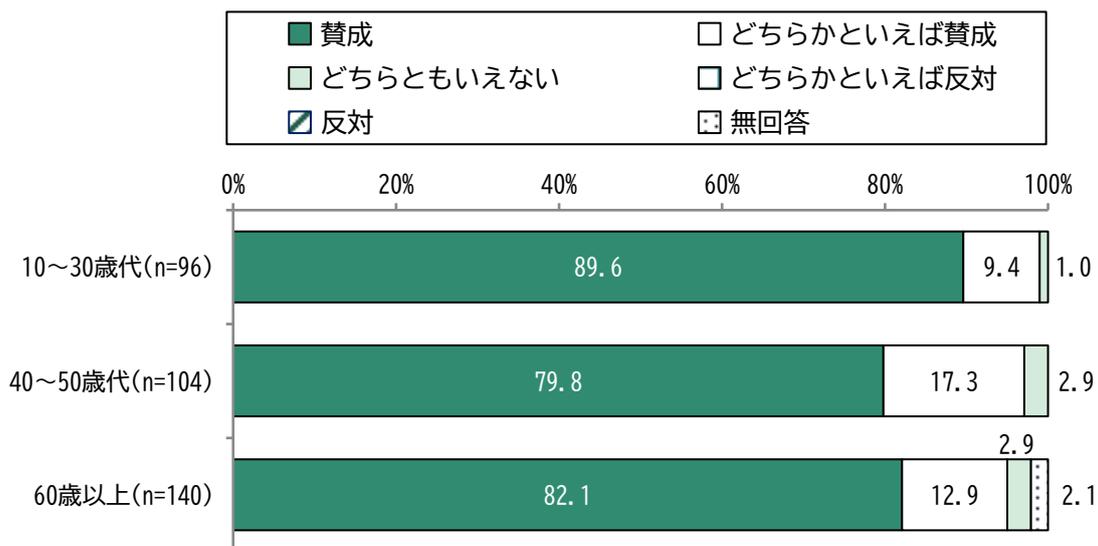
コ 職場における管理職は、性別による信頼度の差はない



年齢別でみると、“ウ 子育て世代に関わらず女性も男性と同様に仕事をした方がよい”、“カ 同じ仕事をする上で男女の格差はなくした方がよい”、“キ 男性も育児休業・休暇や介護休業・休暇を取るべきだ”、“ケ 妻の収入や地位が夫より上でも問題ない”、“コ 職場における管理職は、性別による信頼度の差はない”については、年齢が若くなるほど『賛成』の割合が高くなっています。

図表 80 男女の役割などについて（年齢別）

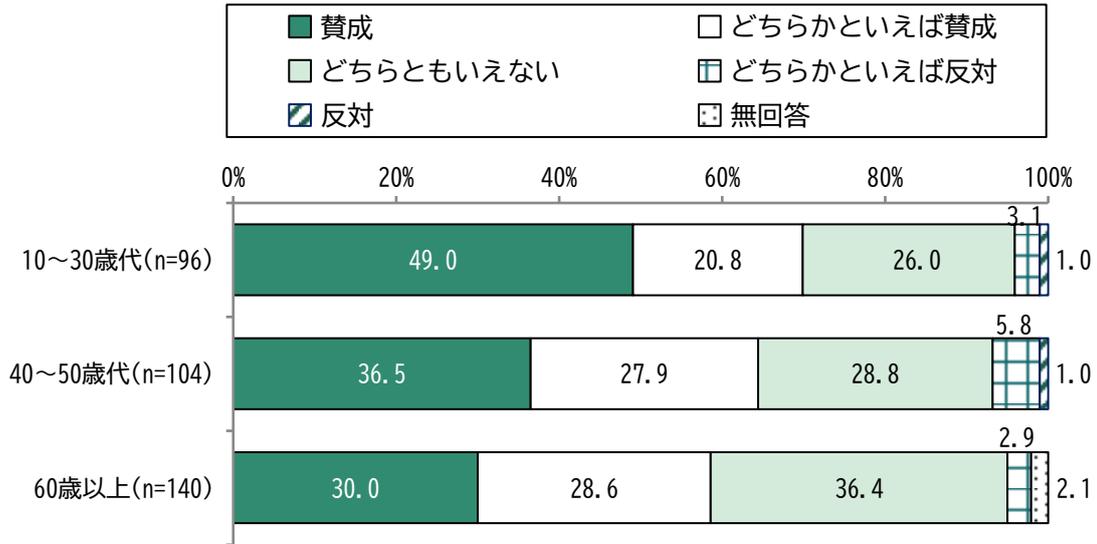
ア 子どもの教育やしつけは両親が協力して行った方がよい



イ 子どもは小さいうちから、一方にかたよりなく両親と過ごした方がよい



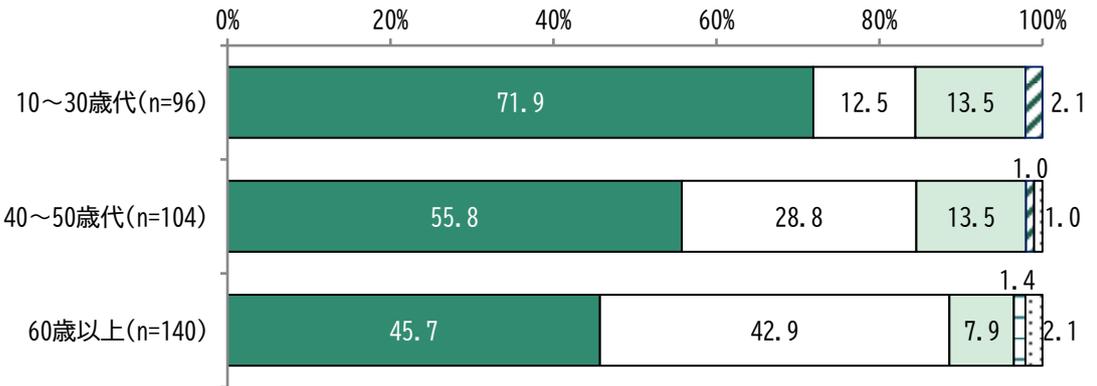
ウ 子育て世代に関わらず女性も男性と同様に仕事をした方がよい



エ 男女で家事・育児・介護は分担するべきである



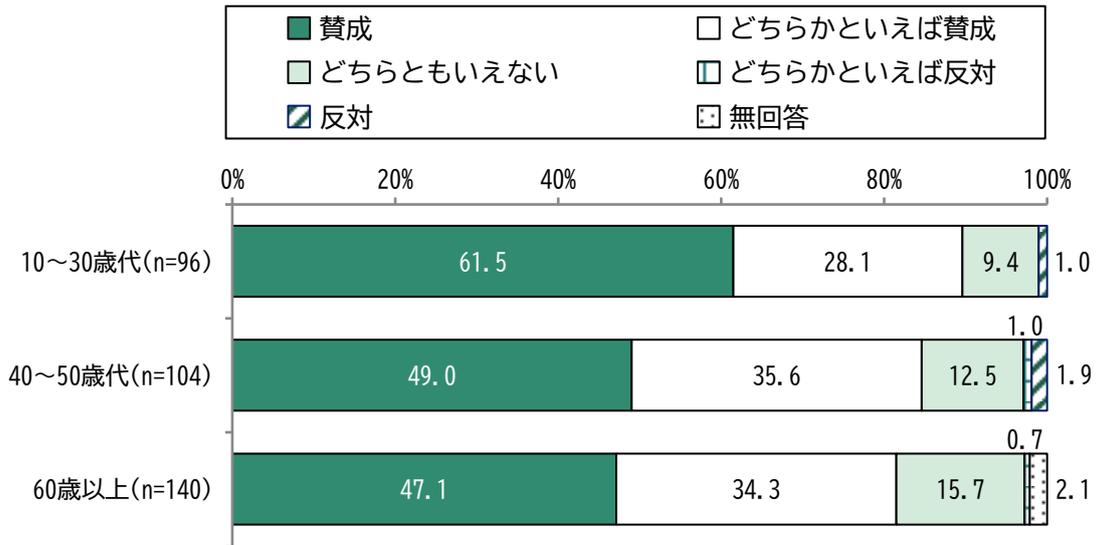
オ 社会的地域活動は男女がともに協力して行うべきだ



カ 同じ仕事をする上で男女の格差はなくした方がよい



キ 男性も育児休業・休暇や介護休業・休暇を取るべきだ



ク 職業（職種）に性別は関係ない



ケ 妻の収入や地位が夫より上でも問題ない



コ 職場における管理職は、性別による信頼度の差はない



2 男女の地位について

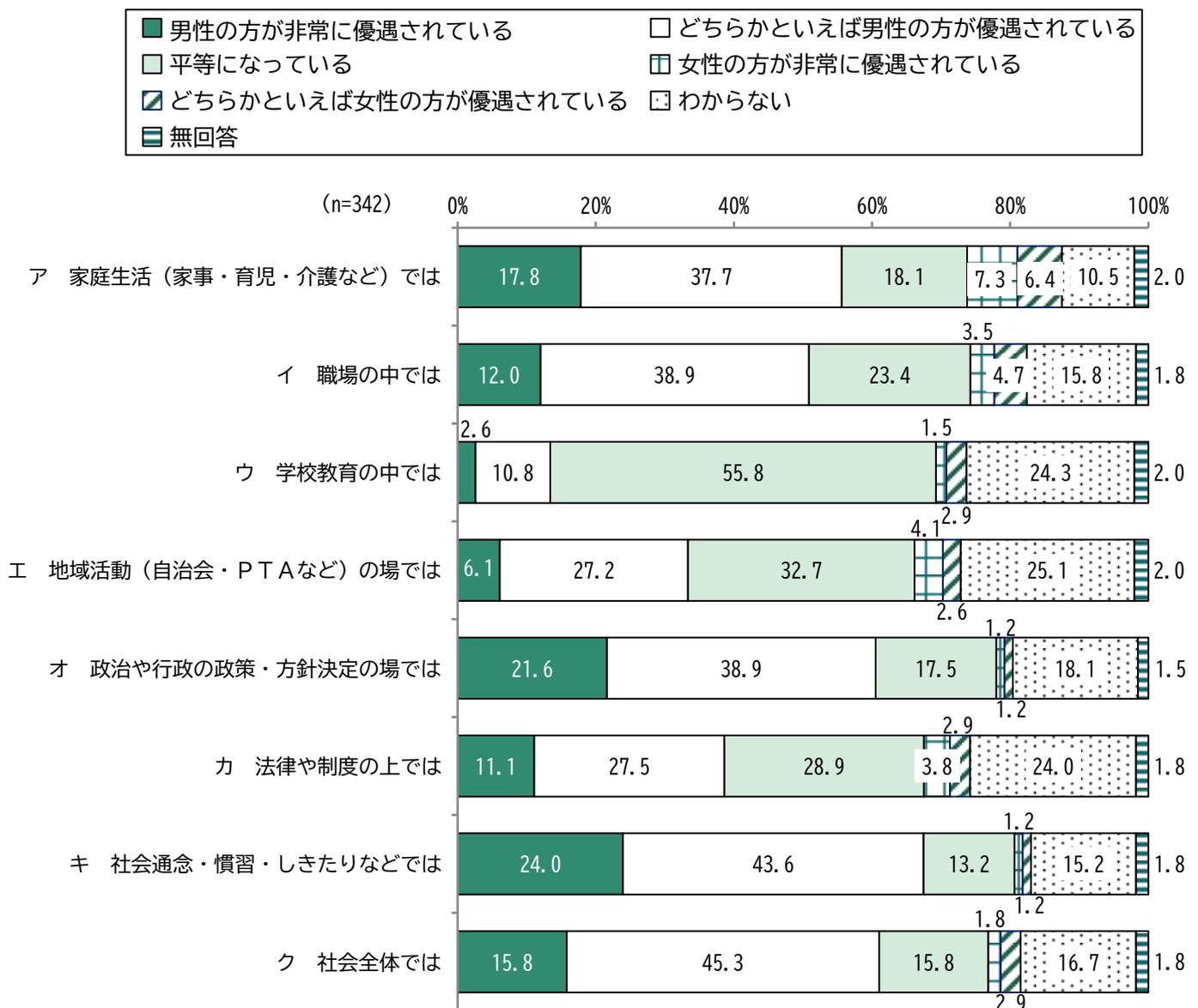
問 25 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇は各項目ごとに1つずつ)

【全体の傾向】

ほとんどの項目で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、「男性の方が非常に優遇されている」を合わせた『男性優遇』の割合は、“オ 政治や行政の政策・方針決定の場では”、“キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは”、“ク 社会全体では”で6割を超えています。

一方、“ウ 学校教育の中では”、“エ 地域活動（自治会・PTAなど）の場では”、“カ 法律や制度の上では”では「平等になっている」が最も高くなっています。

図表 81 男女の地位について（全体）



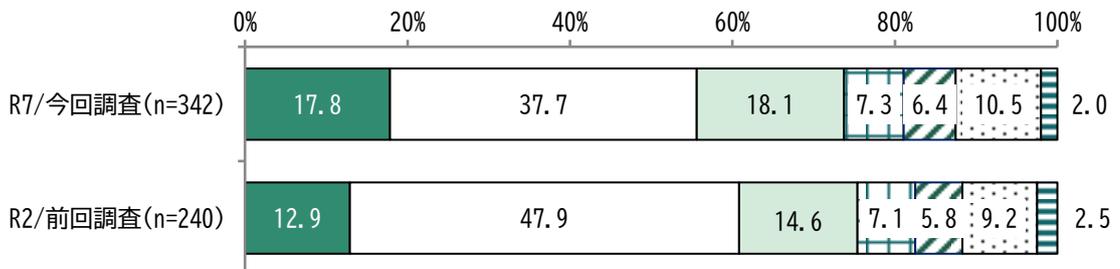
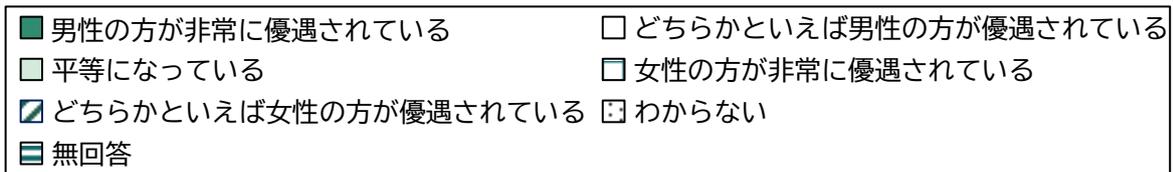
【前回比較】

前回調査と比較すると、“キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは”では『男性優遇』の割合が1.8ポイント増加しています。

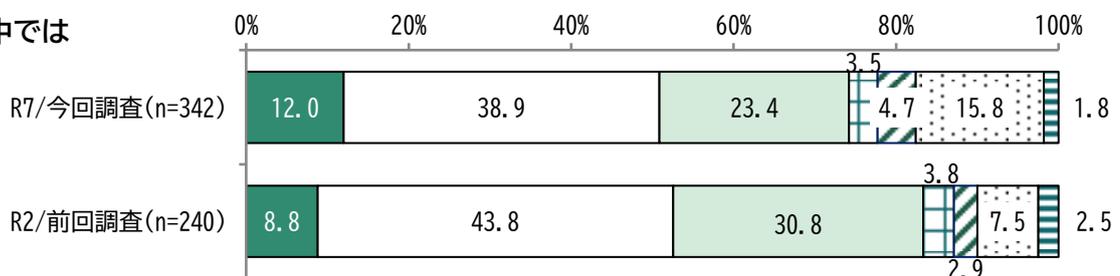
それ以外の項目では『男性優遇』の割合は減少しており、“エ 地域活動（自治会・PTAなど）の場では”が7.2ポイント、“ア 家庭生活（家事・育児・介護など）では”が5.3ポイント、“政治や行政の政策・方針決定の場では”が4.5ポイント減少しています。

図表 82 男女の地位について（前回比較）

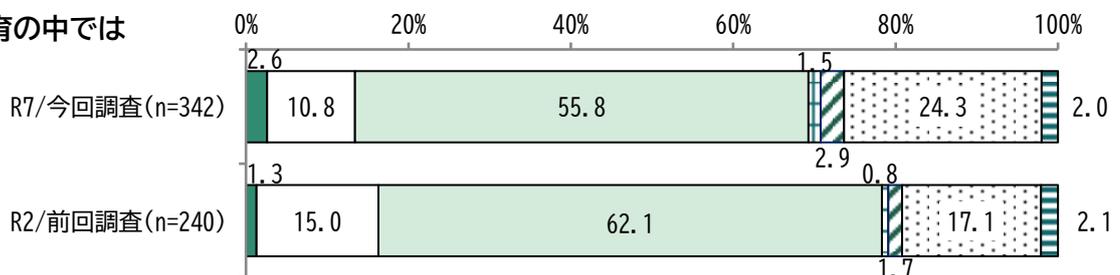
ア 家庭生活（家事・育児・介護など）では



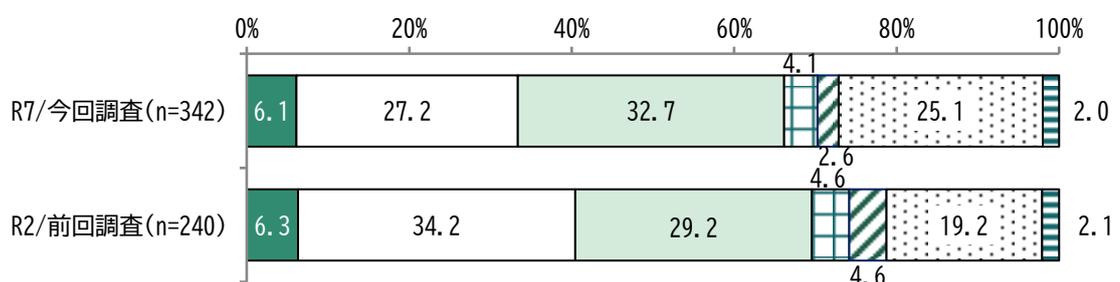
イ 職場の中では



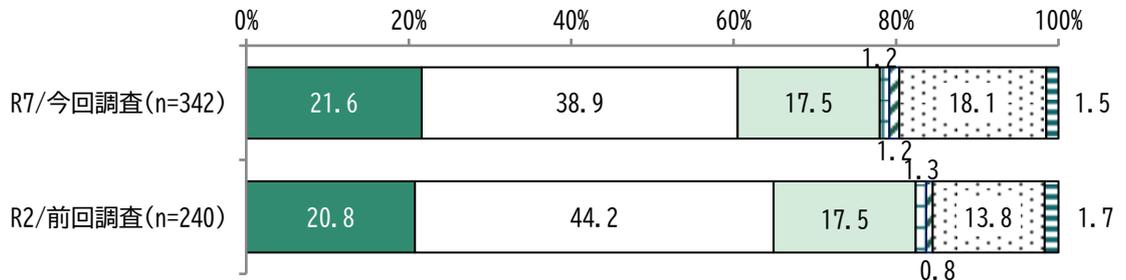
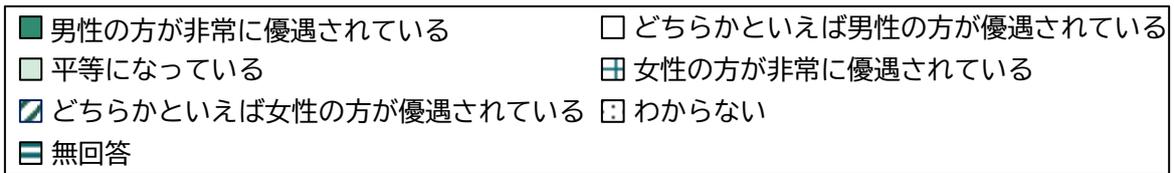
ウ 学校教育の中では



エ 地域活動（自治会・PTAなど）の場では



オ 政治や行政の政策・方針決定の間では



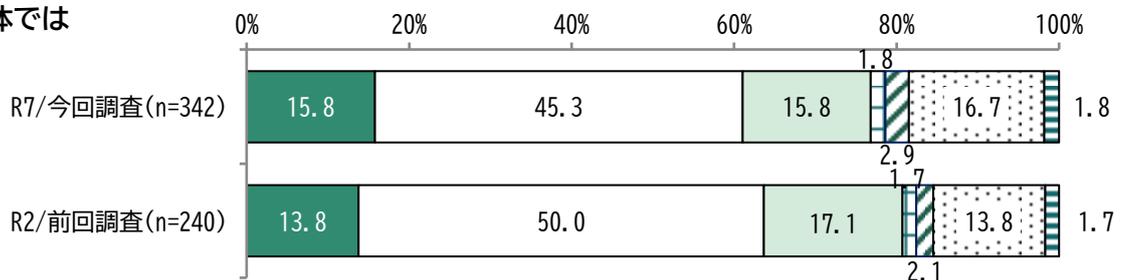
カ 法律や制度の上では



キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



ク 社会全体では



【属性別の傾向】

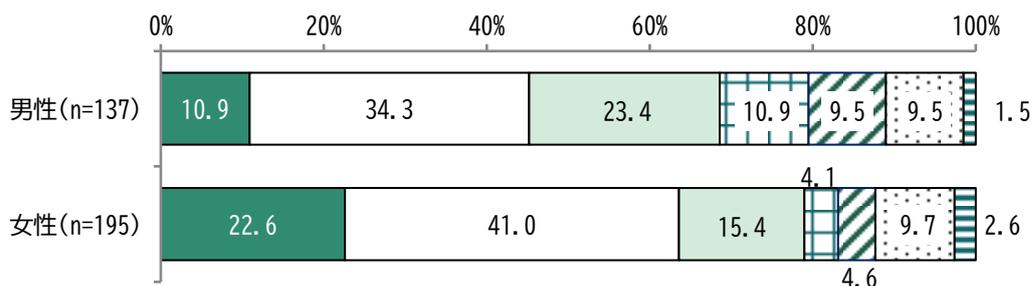
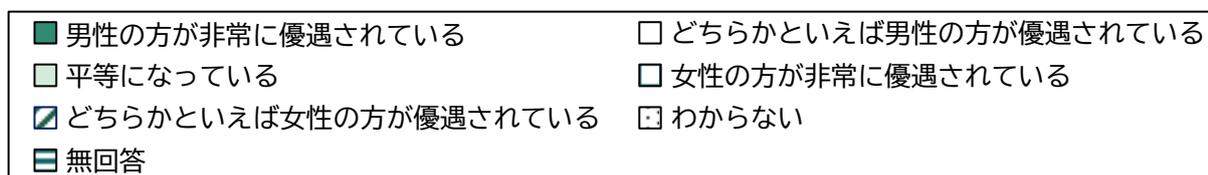
性別で見ると、すべての項目で『男性優遇』の割合は、女性が男性を上回っています。

また、“ア 家庭生活（家事・育児・介護など）では”、“イ 職場の中では”については、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっているものの、『男性優遇』の割合は、女性が男性を10.0ポイント以上上回っています。

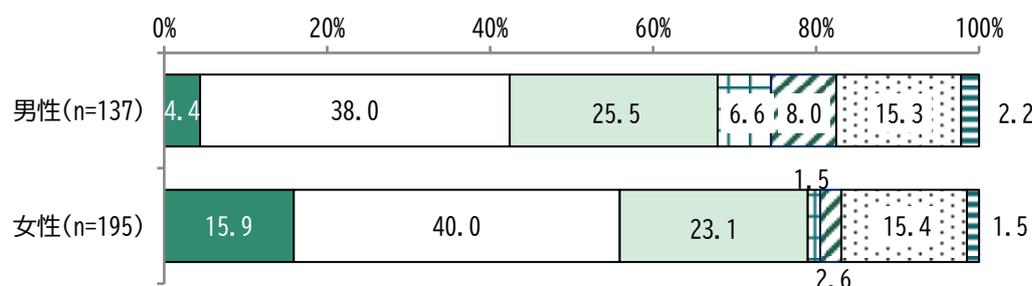
さらに、“エ 地域活動（自治会・PTAなど）の場では”、“カ 法律や制度の上では”については、男性は「平等になっている」、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』の割合は、女性が男性を10.0ポイント以上上回っています。

図表 83 男女の地位について（性別）

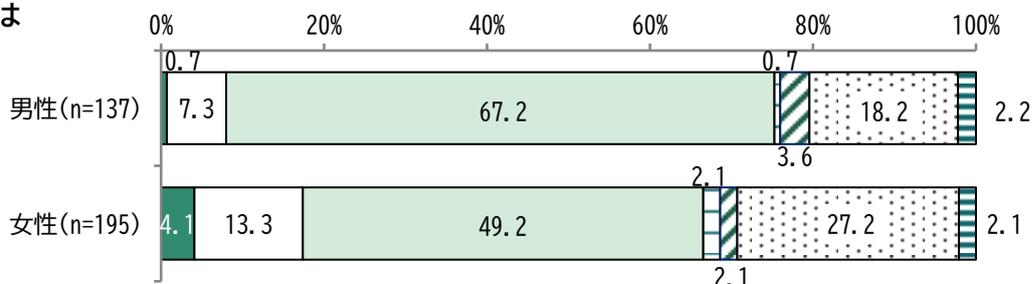
ア 家庭生活（家事・育児・介護など）では



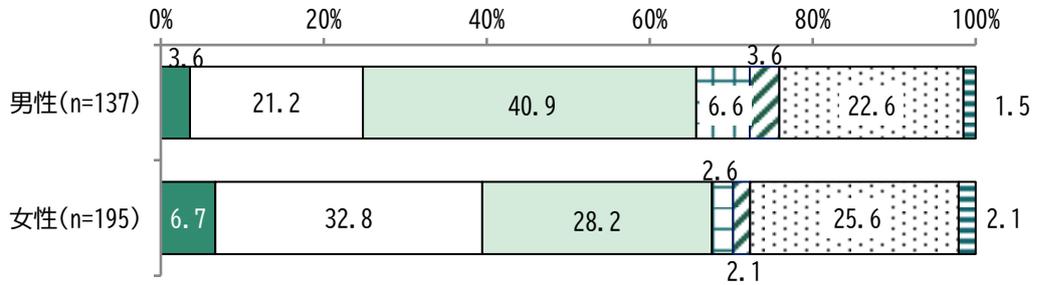
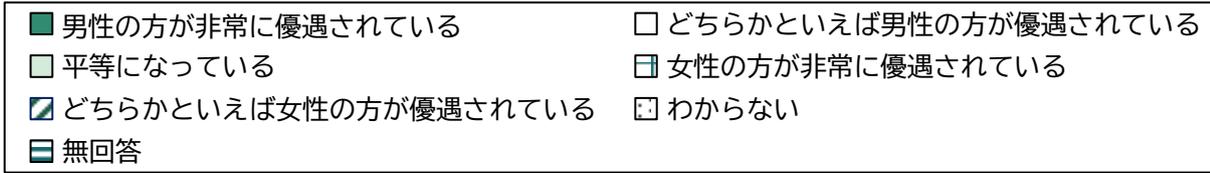
イ 職場の中では



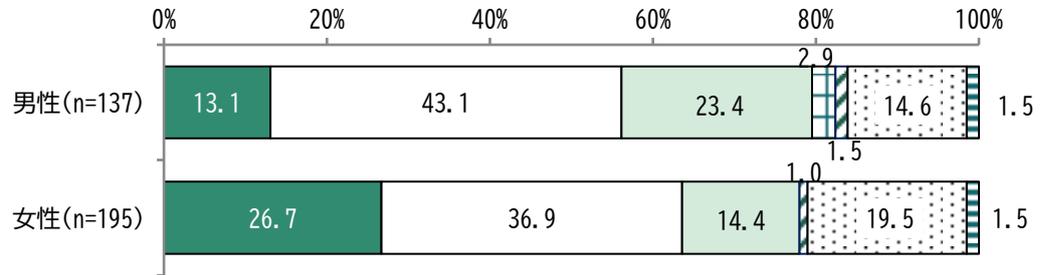
ウ 学校教育の中では



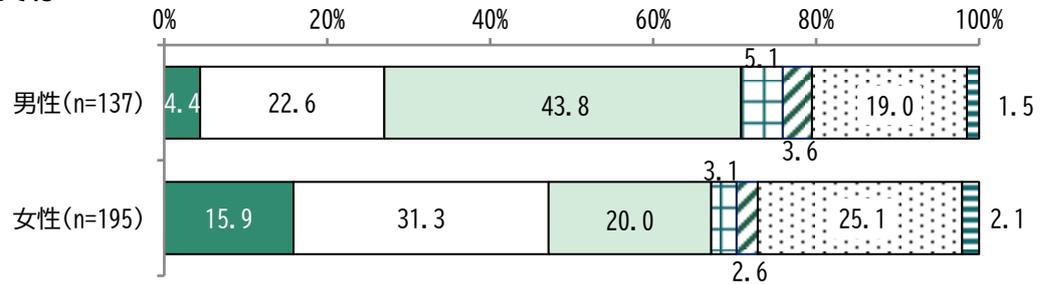
エ 地域活動（自治会・PTAなど）の場では



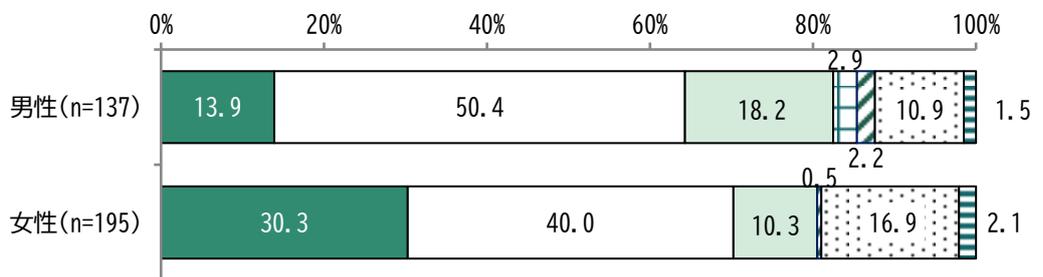
オ 政治や行政の政策・方針決定の場では



カ 法律や制度の上では



キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



ク 社会全体では

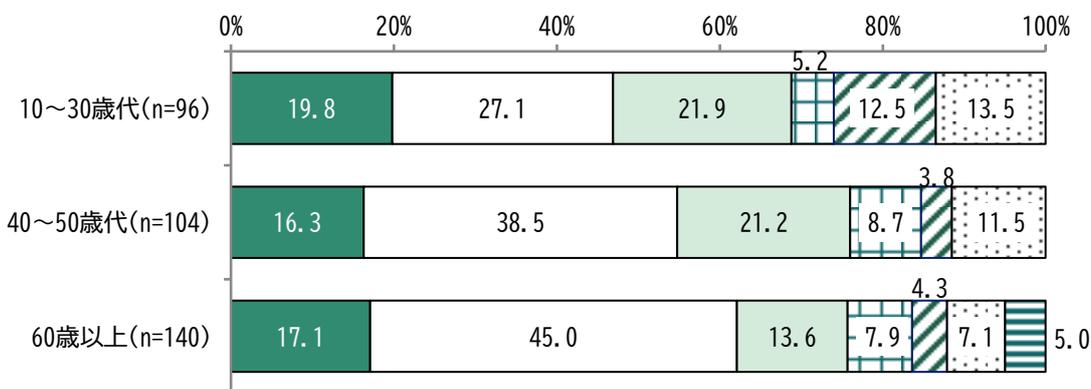
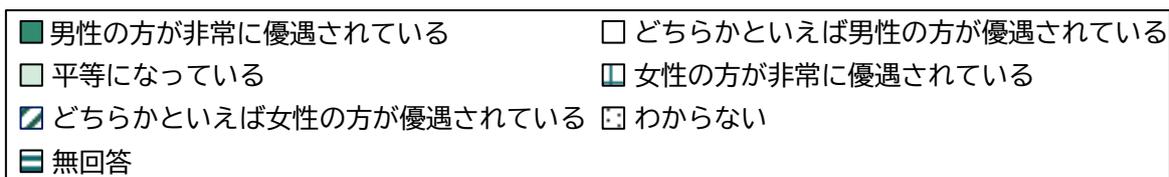


年齢別でみると、“ア 家庭生活（家事・育児・介護など）では”、“イ 職場の中では”、“オ 政治や行政の政策・方針決定の場では”、“カ 法律や制度の上では”、“ク 社会全体では”については、年齢が上がるにつれ『男性優遇』の割合が高くなっています。

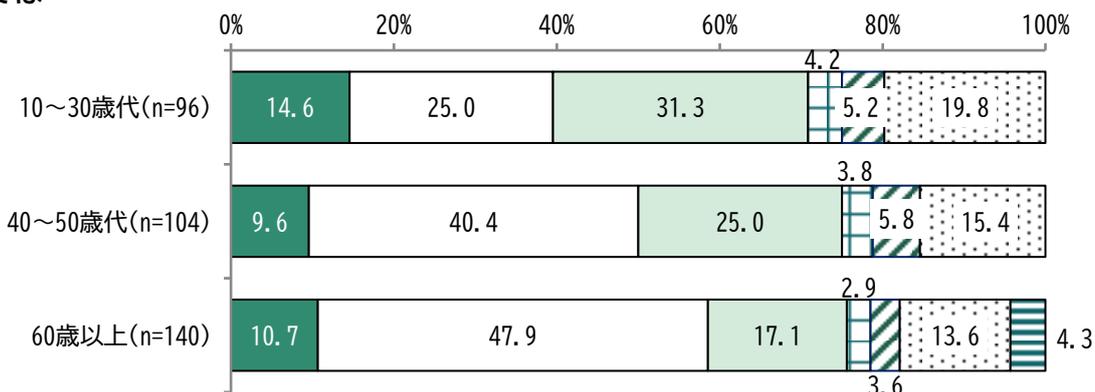
また、“社会通念・慣習・しきたりなどでは”については、40～50歳代で『男性優遇』の割合が74.1%と他の年齢層に比べて高くなっています。

図表 84 男女の地位について（年齢別）

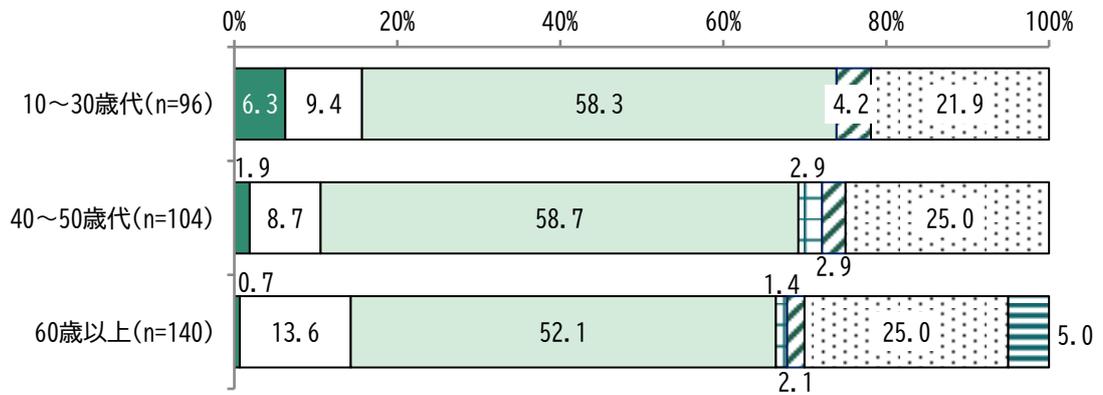
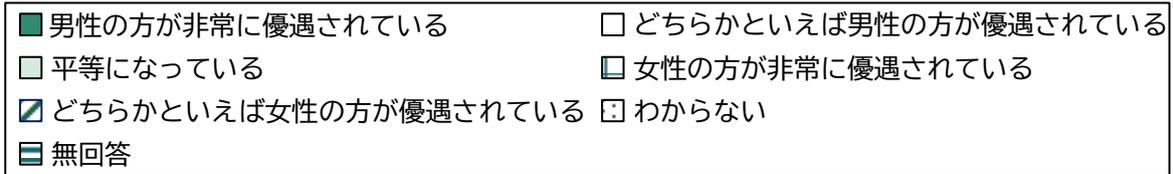
ア 家庭生活（家事・育児・介護など）では



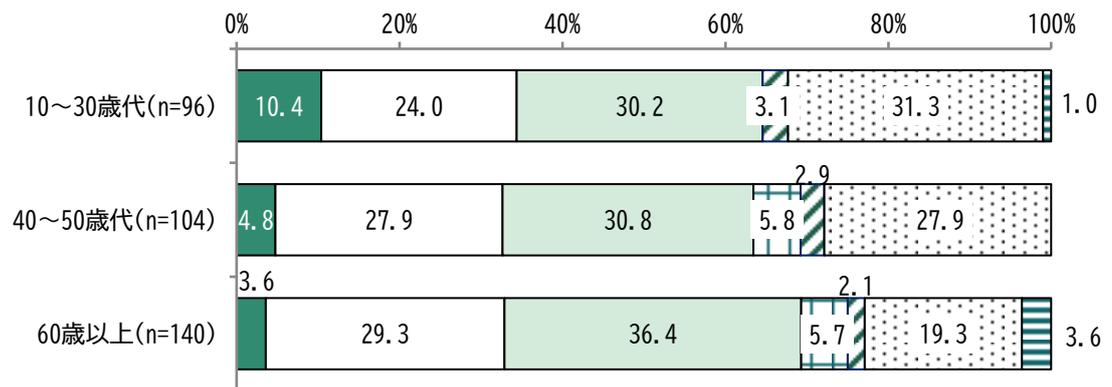
イ 職場の中では



ウ 学校教育の中では



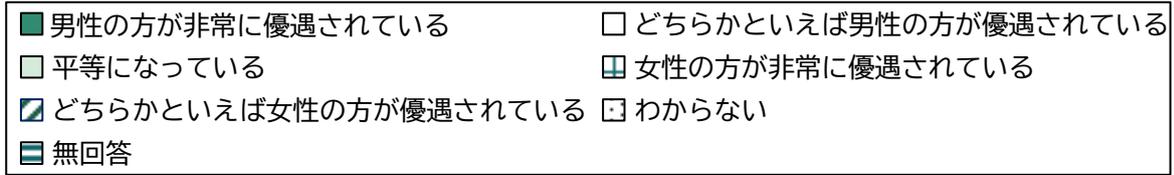
エ 地域活動（自治会・PTAなど）の場では



オ 政治や行政の政策・方針決定の場では



カ 法律や制度の上では



キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



ク 社会全体では



3 女性の社会的な立場について

問 26 あなたは、この 10 年間に女性の社会的な立場はよくなったと思いますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

「少しずつよくなっている」が 46.2%と最も高く、次いで「変わらない」(22.5%)、「よくなっている」(14.6%)となっています。

「少しずつよくなっている」と「よくなっている」を合わせた『よくなっている』割合は 60.8%となっています。

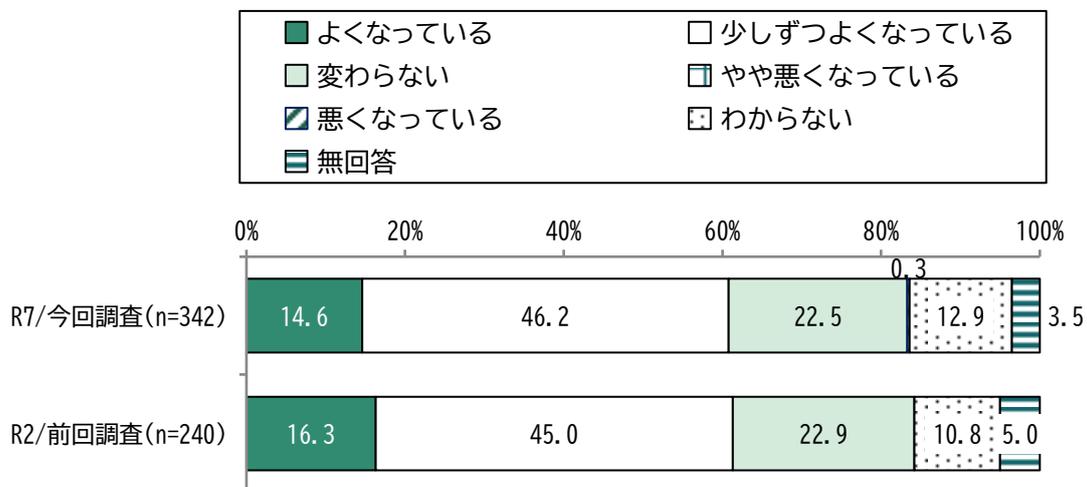
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。

【属性別の傾向】

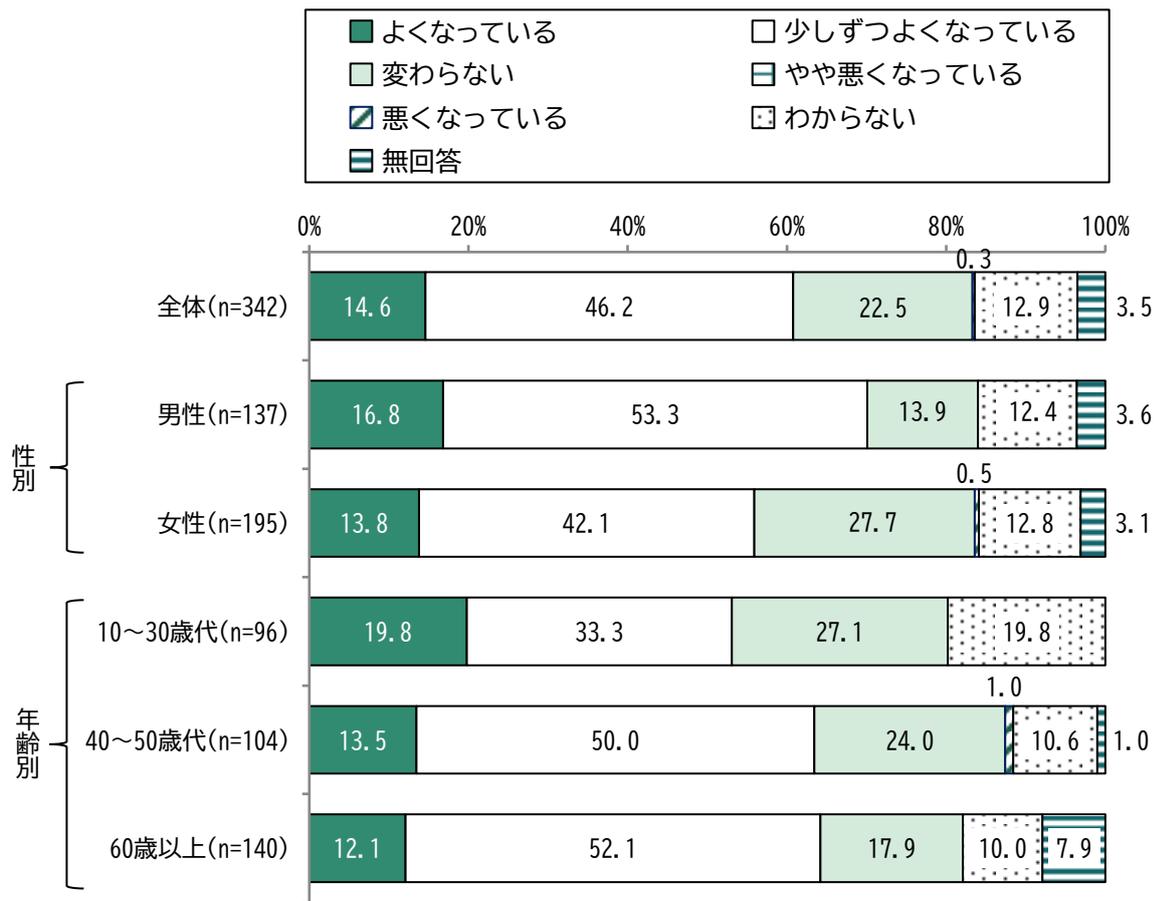
性別でみると、男女ともに「少しずつよくなっている」が最も高く、『よくなっている』割合は、男性が 70.1%、女性が 55.9%となっており、男性が 14.2 ポイント上回っています。

年齢別でみると、いずれの年齢においても「少しずつよくなっている」が最も高く、『よくなっている』割合は、40 歳以上で 6 割を超えています。

図表 85 女性の社会的な立場について（全体、前回比較）



図表 86 女性の社会的な立場について（全体、性別、年齢別）



問26で「よくなっている」「少しずつよくなっている」と答えた方

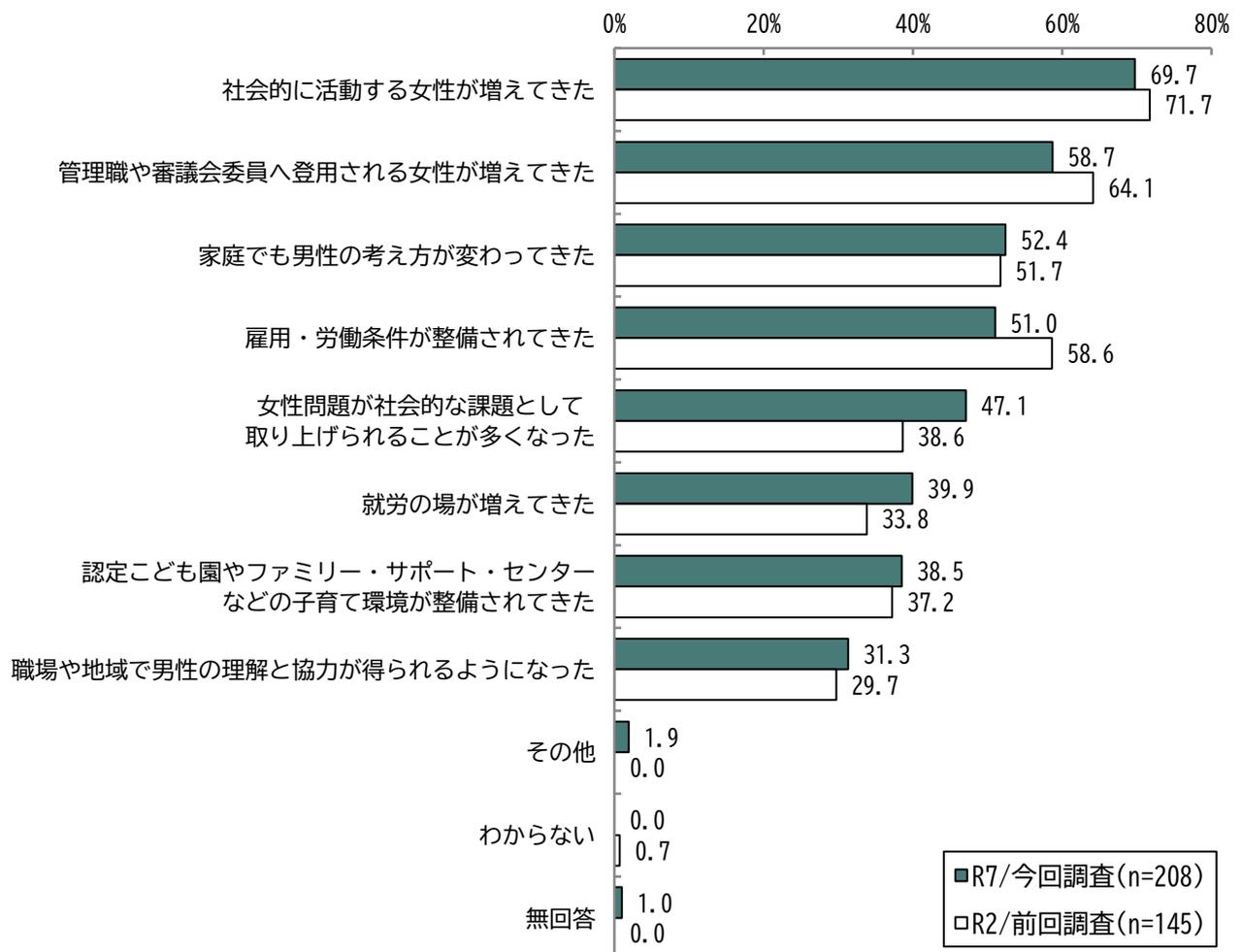
問26-1 どのような点がよくなったと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体の傾向】

「社会的に活動する女性が増えてきた」が69.7%と最も高く、次いで「管理職や審議会委員へ登用される女性が増えてきた」(58.7%)、「家庭でも男性の考え方が変わってきた」(52.4%)となっています。

前回調査と比較すると、「女性問題が社会的な課題として取り上げられることが多くなった」は8.5ポイント増加しており、「雇用・労働条件が整備されてきた」は7.6ポイント減少しています。

図表 87 女性の立場で良くなったと思う点 (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

性別でみると、男女ともに第1位は「社会的に活動する女性が増えてきた」となっています。

一方、男性では第3位に「雇用・労働条件が整備されてきた」、女性では第2位に「家庭でも男性の考え方が変わってきた」がそれぞれ挙げられています。

年齢別でみると、第1位に違いはみられませんが、第2位は10～30歳代では「家庭でも男性の考え方が変わってきた」、40歳以上では「管理職や審議会委員へ登用される女性が増えてきた」、第3位は10～30歳代および60歳以上では「雇用・労働条件が整備されてきた」、40～50歳代では「家庭でも男性の考え方が変わってきた」となっています。

図表 88 女性の立場で良くなったと思う点（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=208)		社会的に活動する女性が増えてきた 69.7	管理職や審議会委員へ登用される女性が増えてきた 58.7	家庭でも男性の考え方が変わってきた 52.4
性別	男性(n=96)	社会的に活動する女性が増えてきた 72.9	管理職や審議会委員へ登用される女性が増えてきた 64.6	雇用・労働条件が整備されてきた 62.5
	女性(n=109)	社会的に活動する女性が増えてきた 68.8	家庭でも男性の考え方が変わってきた 55.0	管理職や審議会委員へ登用される女性が増えてきた 53.2
年齢別	10～30歳代(n=51)	社会的に活動する女性が増えてきた 72.5	家庭でも男性の考え方が変わってきた 70.6	雇用・労働条件が整備されてきた 62.7
	40～50歳代(n=66)	社会的に活動する女性が増えてきた 75.8	管理職や審議会委員へ登用される女性が増えてきた 53.0	家庭でも男性の考え方が変わってきた 47.0
	60歳以上(n=90)	社会的に活動する女性が増えてきた 64.4	管理職や審議会委員へ登用される女性が増えてきた 62.2	雇用・労働条件が整備されてきた 50.0

4 「男女共同参画社会」形成のために東かがわ市がすべきこと

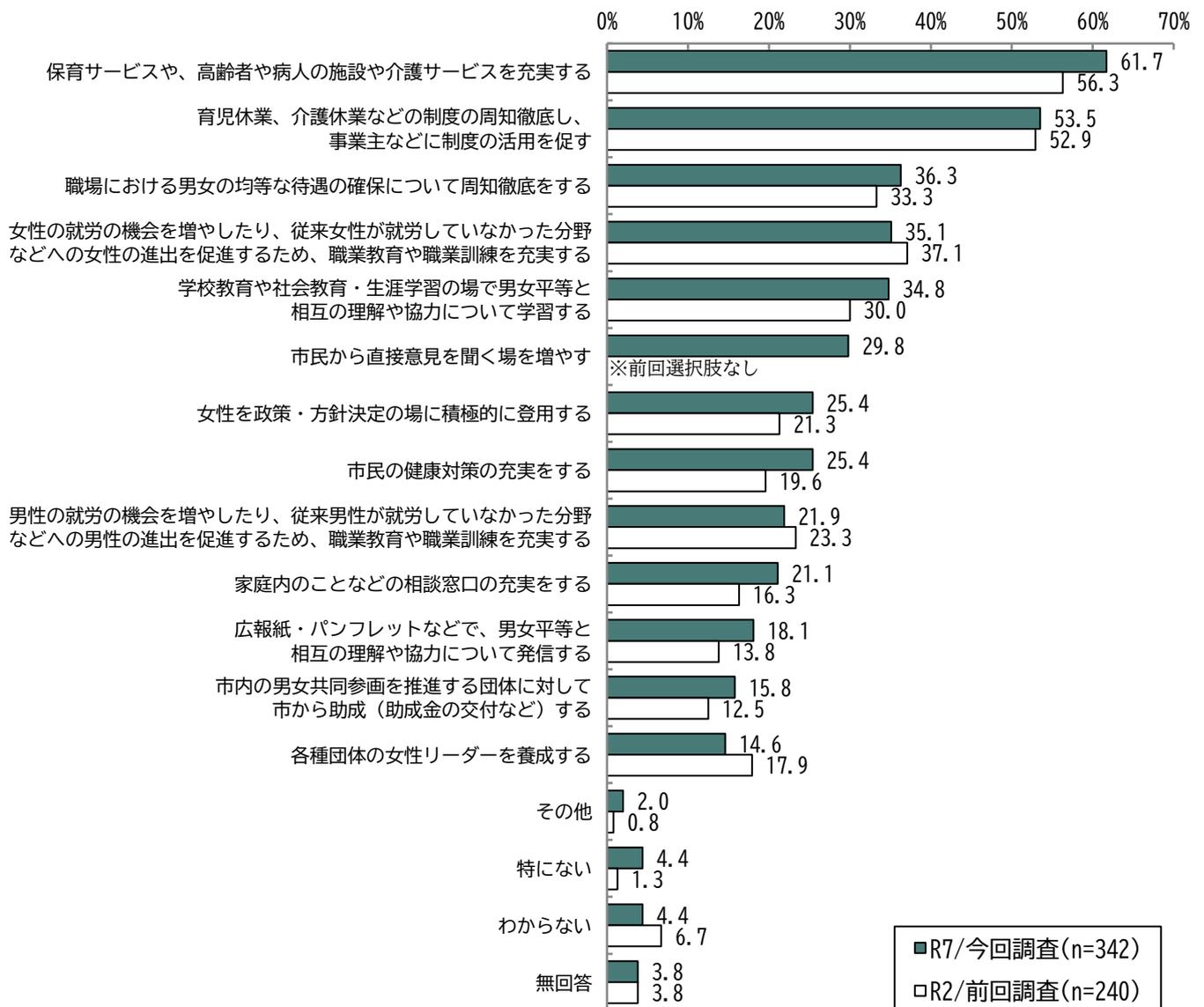
問 27 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、東かがわ市はどのようなことをすべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体の傾向】

「保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が61.7%と最も高く、次いで「育児休業、介護休業などの制度の周知徹底し、事業主などに制度の活用を促す」(53.5%)、「職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底をする」(36.3%)となっています。

前回調査と比較すると、「保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」、「市民の健康対策の充実をする」が5.0ポイント以上増加しています。

図表 89 「男女共同参画社会」形成のために東かがわ市がすべきこと（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別で見ると、第2位までは同様の結果となっていますが、第3位に違いがみられ、男性では「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するため、職業教育や職業訓練を充実する」、女性では「職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底をする」となっています。

年齢別で見ると、10～50歳代までの結果は同様となっていますが、第3位が、60歳以上では「職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底をする」となっています。

図表 90 「男女共同参画社会」形成のために東かがわ市がすべきこと
(全体、性別、年齢別/複数回答)

上位3位 (%)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=342)		保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する 61.7	育児休業、介護休業などの制度の周知徹底し、事業主などに制度の活用を促す 53.5	職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底をする 36.3
性別	男性(n=137)	保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する 59.9	育児休業、介護休業などの制度の周知徹底し、事業主などに制度の活用を促す 51.1	女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するため、職業教育や職業訓練を充実する 38.0
	女性(n=195)	保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する 64.1	育児休業、介護休業などの制度の周知徹底し、事業主などに制度の活用を促す 56.4	職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底をする 36.9
年齢別	10～30歳代(n=96)	保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する 58.3	育児休業、介護休業などの制度の周知徹底し、事業主などに制度の活用を促す 54.2	女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するため、職業教育や職業訓練を充実する 46.9
	40～50歳代(n=104)	保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する 58.7	育児休業、介護休業などの制度の周知徹底し、事業主などに制度の活用を促す 52.9	女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するため、職業教育や職業訓練を充実する 41.3
	60歳以上(n=140)	保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する 67.1	育児休業、介護休業などの制度の周知徹底し、事業主などに制度の活用を促す 54.3	職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底をする 32.9

12 LGBTQ+など性的少数者について

1 性的少数者について

問 28 現在、LGBTQ+など性的少数者の方々にとって、偏見や差別などの人権侵害により、生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

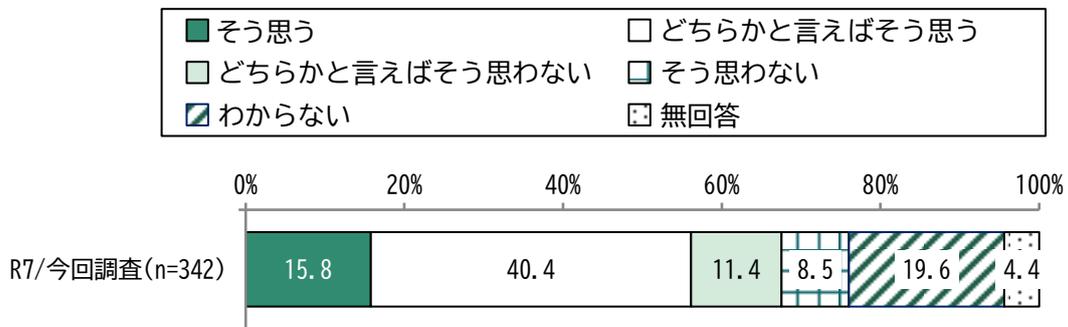
「どちらかと言えばそう思う」が40.4%と最も高く、「そう思う」を合わせた『そう思う』割合は、56.2%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』割合は19.9%となっています。

【属性別の傾向】

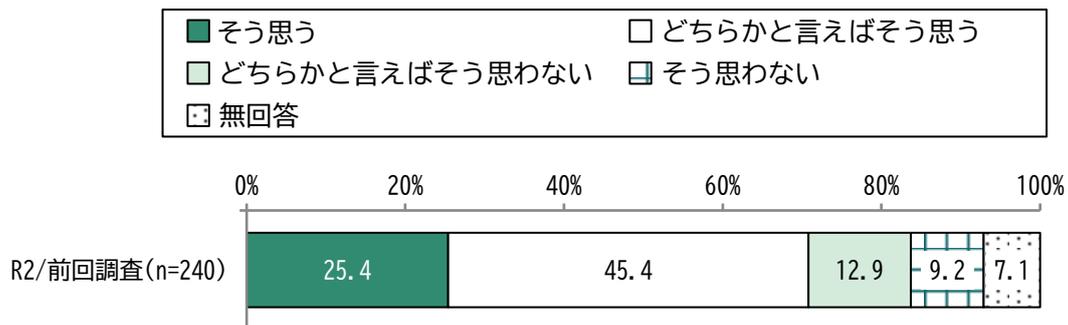
性別でみると、『そう思う』割合は、男女ともに半数以上を占めており、女性が6.4ポイント上回っています。

年齢別でみると、『そう思う』割合が最も高いのは40～50歳代で64.5%となっています。60歳以上では47.2%と半数以下になっています。

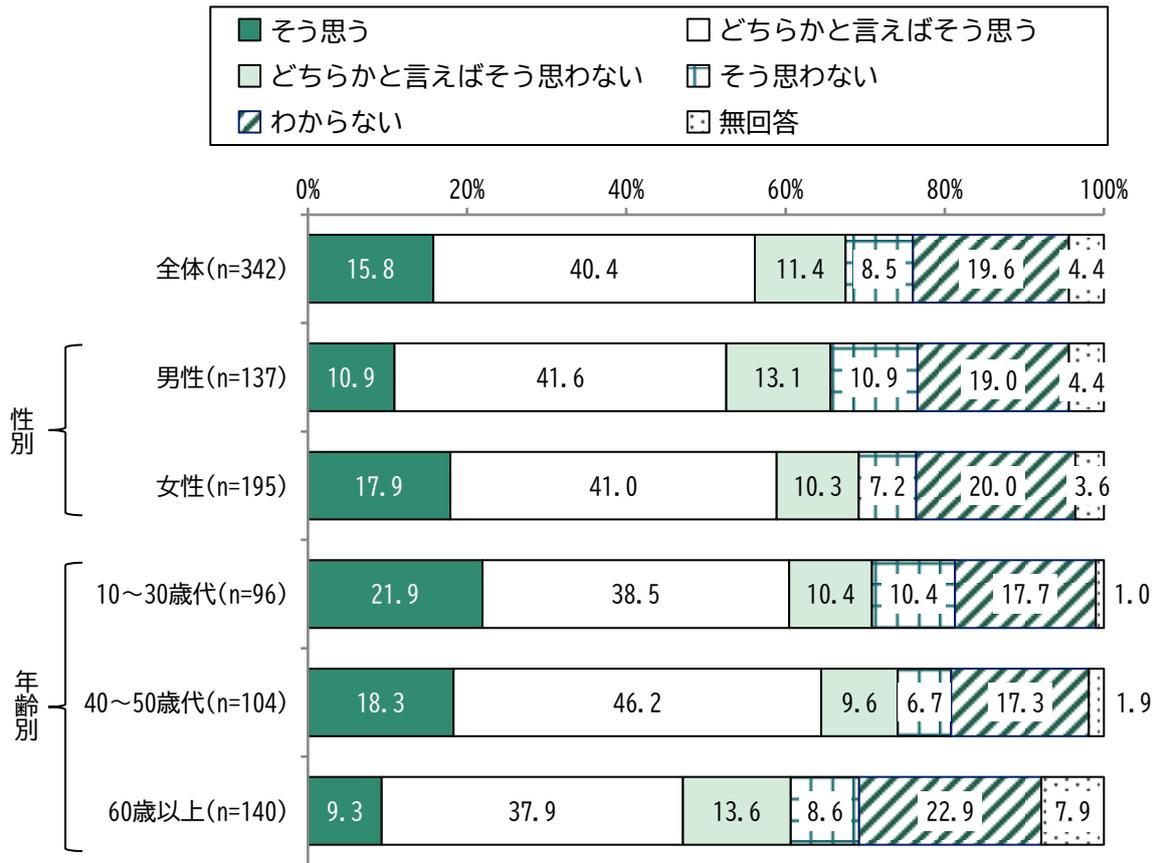
図表 91 性的少数者が生活しづらい社会だと思うか（全体）



(前回：参考比較) ※前回調査では、選択肢「わからない」が無いため参考比較としている。



図表 92 性的少数者が生活しづらい社会だと思うか（全体、性別、年齢別）



問 28 で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた方

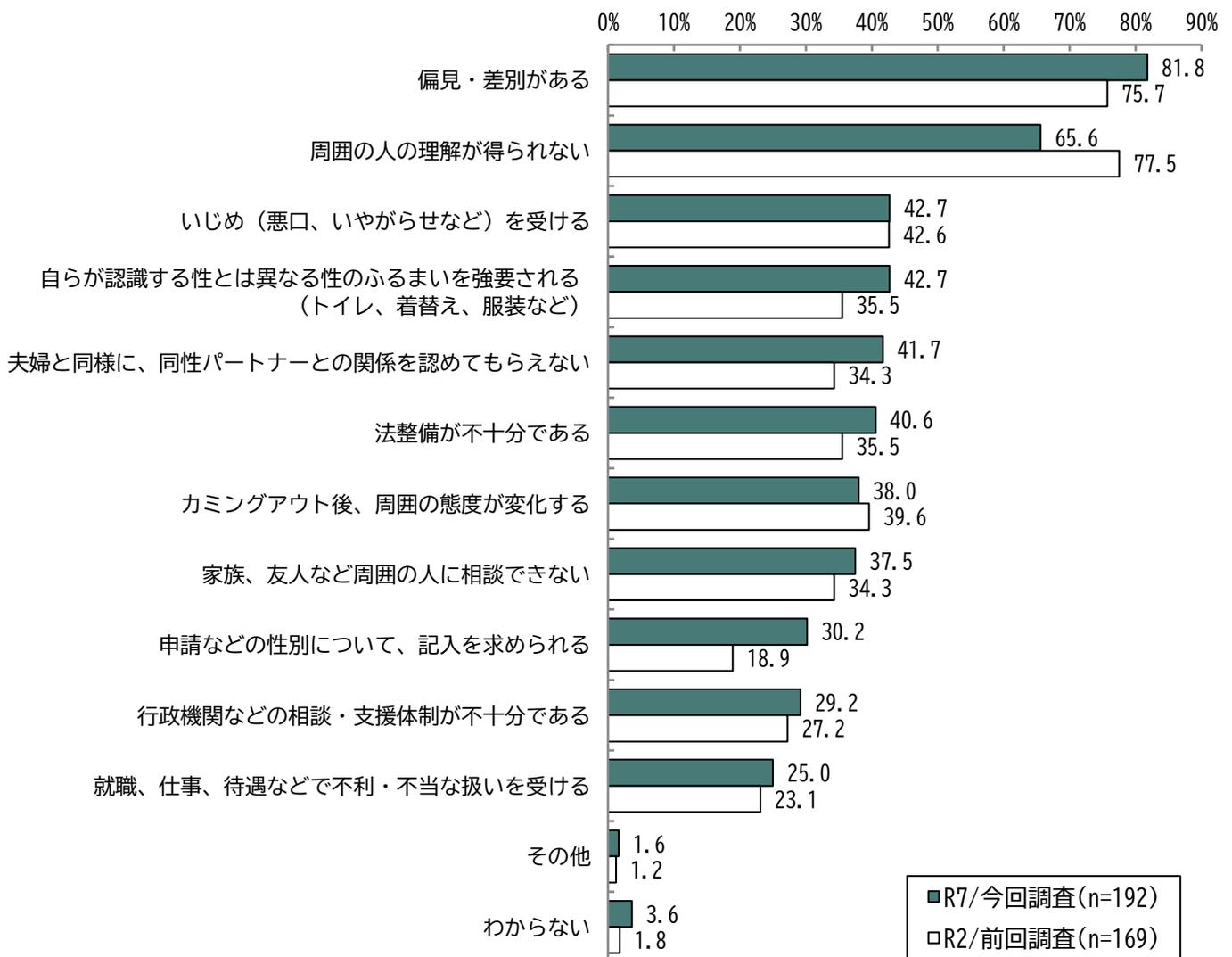
問 28-1 なぜ生活しづらい社会だと思いますか（○はいくつでも）

【全体の傾向】

「偏見・差別がある」が 81.8%と最も高く、次いで「周囲の人の理解が得られない」（65.6%）、「いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける」「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要される（トイレや着替え、服装など）」（ともに 42.7%）となっています。

前回調査と比較すると、「周囲の人の理解が得られない」が 11.9 ポイント減少しており、「申請などの性別について、記入を求められる」が 11.3 ポイント増加しています。

図表 93 性的少数者が生活しづらいと思う理由（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別で見ると、第2位までは同様の結果となっていますが、第3位に違いがみられ、男性では「いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける」、女性では「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」となっています。

年齢別にみると、第2位までは同様の結果となっていますが、第3位に違いがみられ、10～30歳代では「いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける」、40～50歳代では「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要される」、60歳以上では「法整備が不十分である」となっています。

図表 94 性的少数者が生活しづらいと思う理由（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=192)		偏見・差別がある 81.8	周囲の人の理解が得られない 65.6	いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける／自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要される 42.7
性別	男性(n=72)	偏見・差別がある 76.4	周囲の人の理解が得られない 66.7	いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける 44.4
	女性(n=115)	偏見・差別がある 86.1	周囲の人の理解が得られない 64.3	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない 47.8
年齢別	10～30歳代(n=58)	偏見・差別がある 82.8	周囲の人の理解が得られない 67.2	いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける 56.9
	40～50歳代(n=67)	偏見・差別がある 82.1	周囲の人の理解が得られない 65.7	自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要される 55.2
	60歳以上(n=66)	偏見・差別がある 80.3	周囲の人の理解が得られない 63.6	法整備が不十分である 39.4

13 自由意見

問 29 最後に、男女共同参画に関する市政へのご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

自由記述については、合計 50 件の意見が寄せられました。内容については、「男女共同参画全般について」が 12 件、「まちづくりについて」が 11 件、「就労について」が 8 件、「結婚・子育てについて」が 6 件、「LGBTQ+など性的少数者について」が 5 件、「教育について」が 3 件、「情報提供について」が 2 件、「その他」 3 件となっており、代表的な意見を抜粋して掲載しています。

・男女共同参画全般について

NO.	意見	年代	性別
1	現在東かがわ市には男女共同参画に関する機関、団体が二つあると聞いている。市の機関は必要だが、市民団体は必要なのか疑問だ。二つは情報交換や連携は密にしているのか？進むベクトルが異なれば意見の衝突など計画策定もスムーズに進まないのでは。私は私的な団体は必要ないと思う。	70歳代以上	男性
2	男女平等の社会にしてゆくことが理想ですが、男女の体質の違いによって男の役割、女の役割があるので全ての事を肩代わりは出来ないと思います。それぞれの役割を協力して助け合ってより良き社会にしていけたらと思います。	70歳代以上	女性
3	同じ仕事をしていても事業主さんが男性を選べば男性だし女性を選べば女性です。私達がどうすることも出来ません。上の人の古い考えをなくすことが、大事だと思います。今まで政治の世界でも男性が多く、男性が多いと男性を選びます。少数の意見は通りません。半数が女性と決めればいいものをいつまでも男性が決めているので、世の中も同じ事だと思えます。上の決めている人達に男女差別があるのです。	70歳代以上	女性
4	男女共同参画なので、女性だけでなく、男性への支援も考えた方がいいと思う。	40歳代	女性
5	男女の差別はいけなない、しかし男女の区別は現存する。それぞれには特性がある。特性を生かすことはまちがっていない。特性を生かした共同参画社会でありたい。	70歳代以上	男性
6	男女間の性差が存在するのに、それを無視した人材登用は社会をぐちゃぐちゃにしてしまう。日本を滅ぼす施策にならないように願う。	60歳代	男性

・まちづくりについて

NO.	意見	年代	性別
1	こども園をもっと使いやすくしてほしい。	30歳代	その他
2	東かがわ市は、移住者が少ない方だと思うのでもっと住みやすい地域だという事を、SNSなどで発信すべきだと思う。瀬戸芸みたいに発信すれば全国的にテレビでも知ってもらえると思う。予算もかかるとは思いますが、レジャー施設がもうひとつ位あればいいかなと思います。	60歳代	女性
3	もっと若者への支援をぜひよろしくお願いいたします。	20歳代	女性
4	ずっと東かがわ市に住み続けたいですが、都会の男性と結婚をすると、どうしても相手方を優先するしかなく、出ていきます。とても住みやすい所だと思います。私は東かがわ市が大好きです。都会から香川に住みたくなるようにしたらいいと思います。あと外国人はたくさん入れてほしい。	20歳代	女性
5	高齢者が増えるため、介護士の手当を増やす。もしくは介護士を増やせる制度をつくる。	40歳代	男性

・就労について

NO.	意見	年代	性別
1	男女共同参画とは性別にかかわらず誰もが個性と能力を十分に発揮し社会のあらゆる分野で喜びや責任を分かち合える社会。男女平等、130万円の壁がある限り自由に個性と能力を発揮できず時間とお金に縛られるのはどうかと思います。自由に働き、時間やお金が気にならないようにしてほしい。	50歳代	女性
2	小さな会社においても長期の育児休暇を取っても不利にならない支援制度の拡充を！	60歳代	男性
3	特に要望はありません。男女に関わらず能力の高い人が、影響力を持てるような役職につけたらいいなと思います。	60歳代	女性
4	男女共同参画を進めようとしているあまり、女性でも働いて当然みたいな社会になっている気がする。本来の男女共同参画とは、女性が働く際に、男性よりも不遇な条件で働かされたり、女性であるだけで不採用になったりするのを防ぐためのものであるはず。これ以上の強化はさほど必要ないと思う。	20歳代	男性

・結婚・子育てについて

NO.	意見	年代	性別
1	妊娠、出産により女性のキャリアが失われるのが人口減少(少子化)に繋がっていると思う。会社勤め(正社員)が厳しくなり、パートやフリーランスに変わる女性も多い。子どもを産みたいが、金銭的に1人、2人でやめておこうと言っている人がとても多い。子育て支援に力を入れることで東かがわ市がよりよい町になると思う。	30歳代	女性
2	セクハラ等の観点から出会いの場が少なくなっていると思うのと、民間の結婚相談所は料金が高く、20代の収入では負担が大きいと思います。20~40歳までの無償結婚支援所等の設立もしくは、条件付きの結婚支援金制度があると良いと思います。	20歳代	男性
3	男女共同参画には結婚、子育てとの両立の問題があり、女性の社会進出は望ましい事ですが、その分、結婚、出産は減ってゆくと思います。子育ての時間は削られて他者では補なうことの出来ない情愛の時間が薄くなり、昨今の子どもの問題が増えてると思います。人作りを優先にするか繁栄を優先にするかによって未来の社会が変わります。今は親も自分ファーストの人が多くなっています。	70歳代以上	女性

・LGBTQ+など性的少数者について

NO.	意見	年代	性別
1	子どもの頃から植えつけられた価値観はなかなか変えられないと思いますが、行政には少しずつでも啓発活動をして頂くしかないと思っています。私たち夫婦の間でも特にLGBTQ+など受け入れにくいと感じることが多いのですが、『そうなんだね』『そういう事もあるんだね』とまず肯定しようと話しています。時間をかけて回数を重ねて機会あるごとに考えていくように導いて頂ければなと思います。	60歳代	女性
2	SOGIESCを用いた性の表現の普及と利用の拡大を考えてほしい。この表現は個人の性を詳細に誤解なく伝えられると感じるので、社会全体に広まってほしいと思う。	10歳代	女性
3	LGBTQ+個人の自由です。皆さんで理解してあげて働きやすい職場や環境にしてあげてほしい。LGBTQ+の方が悪いわけではないです。	50歳代	女性

・教育・情報提供・その他について

NO.	意見	年代	性別
1	幼児期の経験や体験などで、大きく考え方が変わってくると思います。例えば、幼少期は両親ともに家庭も育児も協力して育ったきた子とそうではなかった子とでは、小さい子どもながら受けてきた事が理解できぬまま身についてしまってそれが普通だと思ったりしてしまうのです。なので、幼児期にこそ、遊びの中(本や紙芝居・人形劇)でなにげなく自然にふれ合いながらこの問題について考える事が少しずつでも出来るのではないかと、個人的な考えであります。	60歳代	女性
2	申し訳ないですが、男女共同参画について市政での活動をあまり知らないのが、事実です。もっと、広報活動をしてもいいのかな。これから注意して見ます。	70歳代以上	女性
3	何故このアンケートが自分にきたのか。アンケート結果は公表するのか。	10歳代	女性